授業科目名	キャリアガイダンスⅠ		
担当者名	専任教員	実務家教員	
科目コード	1100102	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-1-C		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本演習は、本学の建学の精神に基づき大学生活を充実したものとし、未来を切り開くための総合的基礎学習を行う。内容としては、大学生活に適応し学問分野への動機づけを高めるために、学生間交流、履修指導、論理的思考法、文献の読み方、文章の書き方、口述発表の仕方等の指導を行う。そして、自らの将来のキャリアについて考え、学生個々の目的を達成させるために教科及び生活指導を行う。		
授業の到達目標〔学習成果〕	・大学生として最低限必要な、読む、書く、聞く、話す力等の基礎的技能を習得する。 ・研究テーマに関する文献を収集し、正確に読み取り、論理的に思考することができる。 ・チームワークやリーダーシップを発揮できるような協調性を身につける。 ・本学の建学の精神に基づいた社会に不可欠な人材として求められる資質能力を身につける。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	はじめに、ノートテイキングなど	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
2	レクリエーションスポーツについて	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レクリエーションスポーツ大会に向けて、練習に励むこと（45分）
3	レポートの書き方など	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
4	研究倫理など	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
5	ブレインストーミング・KJ法など	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
6	【特別講演】コミュニケーションについて①	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
7	大学祭に向けて、クリティカルシンキング	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
8	プレゼンテーションの方法など	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)講義で学んだアカデミックスキルを活用すること（45分）
9	グループ学習①（管理栄養士の職域）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分）

		(事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45分)
10	グループ学習②（管理栄養士の職域）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45分)
11	グループ学習③（管理栄養士の職域）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45分)
12	グループ学習④（管理栄養士の職域）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45分)
13	プレゼンテーション（管理栄養士の職域）	(事前)プレゼンテーションのリハーサルを行うこと (45分) (事後)レポートを作成すること（45分）
14	【特別講演】管理栄養士のキャリア形成①	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
15	前期試験に向けて、マインドセットについて	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
16	後期受講登録について、食材研究	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
17	【特別講演】管理栄養士のキャリア形成②	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
18	大学祭準備①	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)大学祭に向けて準備を行うこと（45分）
19	大学祭準備②	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)大学祭に向けて準備を行うこと（45分）
20	大学祭準備③	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)大学祭に向けて準備を行うこと（45分）
21	大学祭準備④	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)大学祭に向けて準備を行うこと（45分）
22	【特別講演】管理栄養士のキャリア形成③	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
23	グループ学習①（旬の食材）	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45分)
24	【特別講演】コミュニケーションについて②	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)レポートを作成すること（45分）
25	グループ学習②（旬の食材）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと (45

		分）
26	特別講演】管理栄養士のキャリア形成④	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45 分） (事後)レポートを作成すること（45 分）
27	グループ学習③（旬の食材）	(事前)テキストを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45 分） (事後)プレゼンテーションに向けて準備を行うこと（45 分）
28	プレゼンテーション①（旬の食材）	(事前)プレゼンテーションのリハーサルを行うこと（45 分） (事後)レポートを作成すること（45 分）
29	プレゼンテーション②（旬の食材）	(事前)プレゼンテーションのリハーサルを行うこと（45 分） (事後)レポートを作成すること（45 分）
30	後期試験に向けて	(事前)プリントを読んで、疑問点をピックアップしておくこと（45 分） (事後)レポートを作成すること（45 分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業時間外にグループごとに集まりプレゼンテーションの準備を行って下さい。その際、インターネットだけでなく図書館を利用することを推奨します

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	プレゼンテーション		
60%	40%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
図解　栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック	西川 真理子	化学同人
適宜、プリントを配布する		

参考書又は参考資料等

『大学生のための読む、書く、プレゼン、ディベートの方法（改訂第二版)』松本茂ほか（玉川大学出版部）
『アカデミックスキルズ-大学生のための知的技法入門（第２版)』佐藤望ほか（慶応義塾大学出版会）

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

・本演習は初年次教育を含むものとなっています。授業の到達目標を達成できるよう意識して受講して下さい。
・レポート等の提出期限を厳守することを心掛けて下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
	各担当教員のオフィスアワーを確認してください。

授業科目名	キャリアガイダンスⅡ		
担当者名	専任教員	実務家教員	
科目コード	1100103	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-2-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本演習では、本学科が理想とする管理栄養士に必要な「勇気」（管理栄養士としての責任感を持ち、積極的かつ忍耐強く努力する力）、「親和」力（相手を思いやり、助け合う心）、「愛」（地域住民の健康生活と福祉の向上を願う心）、「知性」（知識、教養を培う努力を惜しまず、新たな視点から解決策を提案できる力）の修得に向けた総合的基礎学習を実施する。さらに管理栄養士の実務を通した視点で、一人ひとりのキャリア発達を指示し、それぞれにふさわしいキャリア形成の支援を行う。また、管理栄養士全般の実務を通したスキルを指導する。
授業の到達目標〔学習成果〕	建学の精神である「筑紫の心」に基づき、理想とする管理栄養士に必要な資質（勇気、親和力、愛、知性）を身につける。 1）見聞を広め、読解力を養うことができる。 2）自分の長所、短所を自覚し、短所の改善に向けて努力できる。 3）社会人としての使命感を養い、困難を乗り切るための対処方法を身につける。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション ミッション（使命）について考える 2年次の個人目標の設定を行う。	事後：指定した内容についてレポートを作成する（45分）
2	全国の郷土料理について知る（前編）	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする 郷土料理に関する理解を深める（45分） 事後：郷土料理に関する理解を深める（45分）
3	全国の郷土料理について知る（後編）	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする 郷土料理に関する理解を深める（45分） 事後：郷土料理に関する理解を深める（45分）
4	【他者への理解①】国際理解；アメリカの食文化を知る	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45分）
5	【他者への理解②】国際理解；世界の食文化を知る	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45分）
6	マナー講座（その1）	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45分）
7	【危機管理について①】行政における危機管理対策の実際を知る	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45分）
8	【危機管理について②】災害・感染について、その対策について	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45分）
9	【他者への理解③】特別講義　認知症サポーター養成講座	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45分）

		事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
10	【他者への理解④】特別講義　同和教育	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
11	伝統行事と行事食①～調べ学習	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
12	伝統行事と行事食②～班発表	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
13	伝統行事と行事食③～班発表	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
14	【他者への理解⑤】特別講義　社会的弱者への理解と配慮	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
15		
16	目標到達の評価・反省	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
17	プロフェッショナルに学ぶ①	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
18	マナー講座（その 2）	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
19	読書ノート発表　①	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
20	読書ノート発表　②	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
21	読書ノート発表　③	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
22	読書ノート発表　④	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
23	プロフェッショナルに学ぶ②	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。

		調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
24	マナー講座（その 3）	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
25	調理ノート発表　①	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
26	調理ノート発表　②	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
27	調理ノート発表　③	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
28	調理ノート発表　④	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
29	就職対策 講座～業界研究～	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する。 調理ノート返却後の見直しをする（45 分）
30	年間目標の自己評価	事前：読書・調理に取り組み、ノート作成をする（45 分） 事後：調理ノート返却後の見直しをする（45 分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・継続して読書をすること。
・課題を行う際、図書館指定図書を利用する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート・課題提出物の完成度	授業への取組み姿勢		
50%	50%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・必要プリントを配布する		

参考書又は参考資料等

・授業中に紹介する。

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

・プリントは各自でファイリングすること。
・課題や提出物の締め切りを厳守すること。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	食と哲学		
担当者名	吉田　正史	実務家教員	
科目コード	1000019	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP3-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食の根本的意義や食をめぐる諸問題を哲学的視点から考察してみたい。具体的には様々な食思想の紹介が中心となるが、全体を通じて論理的思考力を涵養することも狙いの一つとしている。		
授業の到達目標〔学習成果〕	代表的な食思想の理解を通して、食の根本的意義や食をめぐる諸問題を、出来るだけ多くの観点から、また出来るだけ深く自ら論理的に考察する力を獲得すること。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	はじめに　食思想と哲学	事前：哲学という学問について多少調べておくこと（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
2	道元　その生涯と著作(1)　宗教的自覚の大転換	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
3	道元　その生涯と著作(2)　「身心脱落」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
4	道元　「食は諸法の法なり」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
5	道元　「五観の偈」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
6	道元　「典座教訓」(1)　典座の立場と基本的心構え	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
7	道元　「典座教訓」(2)　典座の実践	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）

8	道元　「典座教訓」(3) 典座の真面目	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
9	貝原益軒　その生涯と著作 （前半は第８回までの講義内容をめぐっての討論）	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ、また、討論に向けての自分の考えの整理（90分） 事後：講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
10	貝原益軒　天地父母の大恩と養生	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
11	貝原益軒　養生の要	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
12	貝原益軒　飲食の心得	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
13	水野南北　慎食と禍福	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
14	安藤昌益　「直耕」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
15	まとめ 授業全体の重要事項の再確認 （前半は第9回から第14回までの講義内容をめぐっての討論）	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ、また、討論に向けて自分の考えの整理（90分） 事後：講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

上記の事前・事後学習のほか、講義時に指示した参考図書を読むことが望ましい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験			
100%			

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
教科書は使用しないが、適宜資料等を配付する。		

参考書又は参考資料等
貝原益軒『養生訓』（岩波文庫）。その他参考図書は講義中に適宜指示する。
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
世にアクティヴ・ラーニングが喧しいが、勉学の外面的形式ではなく、頭の中をアクティヴにすることこそ望ましい。そのためには、まずはしっかりと講義を聴くことである。また、討論中の講師の発言がフィードバックであると心得られたい。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	質問のある場合、出来ればメールは使わずに直接当方研（2-413）まで来られたい（研修日を除けば、基本的に午後5時まで研究室に在室）。

授業科目名	倫理学		
担当者名	吉田　正史	実務家教員	
科目コード	1000018	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP3-1-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	倫理学とは根本的には、「人間いかに生くべきか」を問う学問である。この難問に答えを見出すためには、当然のことながら、そもそもこの宇宙に生命というものが存在しているのはなぜか、ということに対する深い洞察が必要となってこよう。こうした観点に立ち、本講では、生物学をはじめ、広く生命科学の与える知見を視野に入れ自らの哲学を構築したベルクソンを主たる拠り所として、倫理学の諸問題について考えてみたい。その上で、最後に管理栄養士の職業倫理についても考察を加えたい。		
授業の到達目標	倫理学の諸問題に対する理解を深め、自ら諸倫理思想を評価していく力を養うこと。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	はじめに　倫理学とは何か	事前：倫理学という学問について多少調べておくこと（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
2	ベルクソンの哲学・倫理思想 　ベルクソンの生涯と業績	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
3	ベルクソンの哲学・倫理思想　意識と持続	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
4	ベルクソンの哲学・倫理思想　意識と生命	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
5	ベルクソンの哲学・倫理思想　生命と物質	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
6	ベルクソンの哲学・倫理思想 　「生の躍動」と創造的進化(1)　進化と生物種	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
7	ベルクソンの哲学・倫理思想 　「生の躍動」と創造的進化(2)　人間種と自己創造	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）

8	ベルクソンの哲学・倫理思想 「生の躍動」と創造的進化(3)　自己創造の射程	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
9	ベルクソンの哲学・倫理思想 道徳の源泉としての「愛の躍動」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
10	ベルクソンの哲学・倫理思想 「閉じた道徳」と「開いた道徳」	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
11	西田幾多郎の哲学・倫理思想　人生と宗教 （前半は第10回までの講義内容をめぐっての討論）	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ、また、討論に向けての自分の考えの整理（90分） 事後：講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
12	エマソンの哲学・倫理思想　自己信頼	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
13	W.ジェイムズの哲学・倫理思想　信とその正当性	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
14	管理栄養士の職業倫理	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ（90分） 事後：講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）
15	まとめ　授業全体の重要事項の再確認 （前半は第11回から第14回までの講義内容をめぐっての討論）	事前：次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ、また、討論に向けての自分の考えの整理（90分） 事後：講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

上記の事前・事後学習のほか、講義時に指示した参考図書を読むことが望ましい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験			
100%			

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
教科書は使用しないが、適宜資料等を配付する。		

参考書又は参考資料等	
澤瀉久敬『アンリ・ベルクソン』（中公文庫、昭和62年）。その他参考図書は講義中に適宜指示する。	
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
世にアクティヴ・ラーニングが喧しいが、勉学の外面的形式ではなく、頭の中をアクティヴにすることこそ望ましい。そのためには、まずはしっかりと講義を聴くことである。また、討論中の講師の発言がフィードバックであると心得られたい。	
担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	質問のある場合、出来ればメールは使わずに直接当方研究室（2-413）まで来られたい（研修日を除けば、基本的に午後5時まで研究室に在室）。

授業科目名	栄養士のための農園演習		
担当者名	室井　由起子、佐野　幹剛	実務家教員	
科目コード	1100104	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	小倉南区キャンパス実習農園の太陽の下で、土とふれあい、野菜を育てることで、心の畑を耕し、筑紫の心を育む。また、附属幼稚園園児と一緒に、日本の伝統行事に必要な食に関する知識を学ぶことで、食育に展開する知識・技術を習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)管理栄養士・栄養士として、働く時に必要な旬の野菜の野菜が説明できるようになる。 2)旬の野菜を使用した調理への展開ができるようになる。 3)保育園・幼稚園・小学校で、野菜の育て方等の食育を展開できるようになる。

	授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション: 授業の進め方及び農園実習にあたっての事前準備及び調理実習時の諸注意　(北区キャンパス)	特になし
2	夏野菜の種蒔き　(南区農園)	特になし
3	附属幼稚園で園児と土作り(附属幼稚園) 南区農園土作り　(南区農園)	特になし
4	じゃがいも・玉ねぎの収穫　(南区農園)	特になし
5	じゃがいも・玉ねぎの調理及び弁当の日 (北区キャンパス)	1人1品主食・主菜・副菜を用意しておく。
6	附属幼稚園とのクッキングのレシピ作りのグループワーク　(北区キャンパス)	旬の野菜を使ったレシピについてまとめておく。
7	夏野菜の収穫　(南区キャンパス)	特になし
8	クッキングのレシピの試作　(北区キャンパス)	各自、レシピの試作をしておく。
9	附属幼稚園との夏野菜クッキング(北区キャンパス)	レシピ準備、前日分配。
10	附属幼稚園との夏野菜クッキング(北区キャンパス)	レシピ準備、前日分配。
11	オリーブ絞り体験　(佐賀県吉野ヶ里)	オリーブの収穫、箱詰め。
12	オリーブ絞り体験　(佐賀県吉野ヶ里)	オリーブの収穫、箱詰め。
13	冬野菜の種蒔き・手入れ　(南区キャンパス)	特になし。
14	冬野菜の収穫　(南区キャンパス)	特になし。
15	まとめ　冬野菜の調理及び弁当の日 (北区キャンパス)	1人1品主食・主菜・副菜・デザートを用意しておく。

準備学習・事後学習等についての補足説明

南区キャンパスに行く時は、バスで移動します。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み	レポート		

80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
特になし。		

参考書又は参考資料等
特になし。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
外での授業も含まれているため、雨天の場合等、変更になることもあります。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	食環境地域連携演習		
担当者名	杉元　康志、渡邉　啓一、大村　美智子、室井　由起子	実務家教員	
科目コード	1100111	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-C		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「食」を通じた北九州市の地域課題について、ボランティア活動、子ども食堂への参加を通して解決する演習です。ボランティア活動7回で単位を習得できます。 最後にパワーポイントでプレゼンテーションをしてもらい評価します。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1)北九州市の課題解決を目指す。 2)北九州市子ども食堂に参加し、食育活動が行える人材を目指す。 3)地域活動を行い、北九州市の魅力をアピールできるようになる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：授業の進め方及び、地域課題、ボランティア活動にあたっての事前準備及び諸注意	特になし
2	地域課題を調べ、グループディスカッションを行う	北九州市の現状について調べる。
3	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
4	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
5	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
6	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
7	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
8	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
9	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
10	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
11	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
12	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
13	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし
14	ボランティア・子ども食堂傘下の実践報告会 グループディスカッション　など	特になし

15	全体の振り返り（パワーポイントで発表）	ボランティア、地域活動を行ったことについて パワーポイントで発表

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習しましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残し、授業の時に報告を行います。
事後：各自の実践報告や、グループディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に活かせるようなことがあったのかをノートに書きだし、次の実践に活かしましょう。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み	ボランティア活動（ボランティア証明を提出）	レポート・報告会	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
特に指定はないが、別途資料の配布や紹介をすることがある。		

参考書又は参考資料等

適宜、必要に応じて紹介をする。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

本科目は、地域活動やボランティア、子ども食堂に参加していただきます。正規の演習時間外（土・日曜日、夏季休暇、春季休暇、放課後などを含む）などにも取り組んでいただきます。外部の方と連携して活動を行うため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自分から率先して活動に参加していただきたいです。
ボランティア活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くなり、学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉づかい（特に敬語の使用方法）、話し方や表情、身だしなみなど、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて演習に臨み、勇親愛知の心を育てましょう。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	人間関係の心理		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1000004	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	心理学は「人間行動の科学」と定義される。その目的は人間の行動を記述・説明・予測・制御することであり、その研究分野は多岐にわたっている。人間関係の始まりと展開、パーソナリティの理論と測定、人生における心の成長と変化の過程、心の悩みや病を抱える人に対する心理学的な理解と援助など多くのテーマがある。そこで、本講義では管理栄養士にとって役に立つ心理学の知識を精選し、主に社会・人格・発達・臨床心理学について講じ、患者理解を深めるための一助としたい。授業の方法としてはグループワーク、グループ討論、ピア・インストラクション、シンク・ペア・シェアを取り入れる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)ソーシャルスキルに関する知識と技能を身につけ、コミュニケーション能力を高める。 2)心理検査を体験することにより自己理解を深める。 3)人格発達に関する理論を理解し、自己理解や他者理解を深める。 4)ストレスマネージメントに関する知識と技能を身につけ、心のセルフケアを行うことができる

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	心理学の定義・歴史・方法・分野	事前：UNIPA上で連絡した課題に取り組むこと（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
2	ソーシャルスキルトレーニング実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
3	構成的グループエンカウンター実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
4	アサーショントレーニング実習	事前：プリントを精読し、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
5	Tグループ・心理劇実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
6	職場のコミュニケーション・リーダーシップ論	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：課題レポート①を作成すること（90分）
7	パーソナリティの類型論と特性論	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
8	エゴグラム実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）

9	バウムテスト実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：課題レポート②を作成すること（90分）
10	ゲゼル・ワトソン・フロイトの発達理論	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
11	エリクソン・ピアジェ・バンデューラの発達理論	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：課題レポート③を作成すること（90分）
12	ストレスマネージメント実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
13	リラクゼーション・自律訓練法実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
14	アンガーマネージメント・マインドドフルネス実習	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
15	フォーカシング・認知療法実習等	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・講義レポートには、講義で学んだことをまとめ、発展学習（さらに自分で調べたこと）についても記入すること
・その他、課題レポートには、①トレーニングによるコミュニケーション能力の変化、②心理検査による性格の自己分析、③自分の人格形成に影響を与えた要因分析の3つがあります。
・課題レポートにはプライバシーに関わる内容も含まれますので、記述できる範囲で書いてもらって結構です。
※レポートについては担当教員以外が見ることはありません
・定期試験では管理栄養士の国家試験範囲であるソーシャルスキルトレーニング、学習理論、認知行動療法を中心に出題します。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	講義レポート	課題レポート	リアクションペーパー
30%	30%	30%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
適宜、プリントを配布する		

参考書又は参考資料等

『樹木画テスト』高橋雅春ほか（北大路書房）
『誠信　心理学辞典　新版』下山晴彦ほか（誠信書房）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・講義終了後に提出するリアクションペーパーには、講義に関する質問・意見・感想・要望等を率直に書いてください。
・次回の講義時に、リアクションペーパーに対して返答します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	オフィスアワーについては後日、掲示します。

授業科目名	日本国憲法		
担当者名	水野　陽一	実務家教員	
科目コード	1100006	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択必修・栄養教諭必修
ナンバリング	DP1-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしています。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法です。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法の持つ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていきましょう。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心を持つ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	法とは何か	事前：初回は事前学習不要 事後：講義中の内容を復習（180分）
2	法の解釈・適用	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
3	憲法の基本原理	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
4	国会	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
5	裁判	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
6	財産権：お金を借りるということ	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
7	教育を受ける権利：奨学金を例に	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
8	生存権：生活保護	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
9	身体の自由：刑事手続	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
10	刑法：適正手続の保障	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
11	刑法：罪刑法定主義	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
12	刑事裁判制度	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
13	個人の尊重とAI	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
14	労働者の権利	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）

15	労働の基準	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（筆記試験）			
100%			

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
図録法学入門	堀口　悟郎　編著 斎藤　一久　編著	弘文堂

参考書又は参考資料等

・必要に応じて講義中に紹介します。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・講義中の私語には厳しく注意します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	対面：講義後質問可

授業科目名	栄養士の法制度論		
担当者名	中野　次吉	実務家教員	
科目コード	1100007	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	人生100年時代が現実になりつつあるいま、栄養士や管理栄養士に求められる役割はますます重要となり、多様化している。今後、栄養士や管理栄養士として職務に応えていくには、資格取得に必要な専門知識だけでなく、社会情勢や法制度など多様な事象への理解が求められるだろう。本講義では、栄養士・管理栄養士という資格に込められた理念や資格の成立経緯を起点に、実際の就業にあたって知っておくべき社会システムや法制度を学修する。この学修を通して、これから求められる栄養士・管理栄養士像について受講者とともに考えたい。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 栄養士・管理栄養士が誕生した背景を説明できる。 2. 栄養士・管理栄養士について日本国憲法をはじめ関連法規がもつ意味を説明できる。 3. 目指したい栄養士・管理栄養士像を自分の言葉で説明できる。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：大学で学ぶとは	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
2	日本国憲法と法律：憲法と法律の関係	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
3	法制度の運用と私たちの暮らし：権利と義務の関係	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
4	憲法25条の理解 ：健康はなぜ守らなければならないのか	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
5	栄養士の誕生①：明治大正の世相と佐伯矩	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
6	栄養士の誕生②：震災・戦争と栄養士の誕生	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
7	栄養士法の成立 ：栄養士・管理栄養士はなぜ資格なのか	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
8	演習①：法を検索してみる	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
9	管理栄養士の誕生：戦後社会と栄養	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
10	演習②：施行規則と本学カリキュラム	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
11	栄養士・管理栄養士を取り巻く諸法① ：保健所法、食品安全法・食品衛生法	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
12	栄養士・管理栄養士を取り巻く諸法② ：学校給食法、栄養士法改正と栄養教諭	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
13	栄養士・管理栄養士を取り巻く諸法③ ：健康増進法とわが国の栄養政策	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
14	演習③：国家試験を解いてみる	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）
15	これからの栄養政策と栄養士・管理栄養士に求められるもの	事前：なし 事後：当該回の復習、指示された内容の調査（180分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

テキストを使用しないため、事前学習は求めません。成績評価は試験で行う予定です。指示した内容について事後学修を十分に行って下さい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
試験	振り返りシート		
70%	30%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない（適宜資料配布）。		

参考書又は参考資料等
1．公益社団法人日本栄養士会『最新版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版。

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
本授業は「自分で資料を収集し、考え、解を導く」思考力の養成に重点を置きます。講義形式ですが、受け身の姿勢にならないよう努めて下さい。また、授業は板書を中心に行いますので、かならずノートを持参してください。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他

授業科目名	食と経済		
担当者名	髙森　俊明	実務家教員	
科目コード	1000005	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	2022年度から、ようやく日本でも高校での投資授業が始まったが、アメリカの学生が幼少期から投資について学んでいることと比較すると、日本が金融教育後進国から脱却するのはまだまだ先の話になりそうだ。 この講義では食と経済（特にお金）との関わりについて学ぶ。近年、フードビジネスの分野でも管理栄養士の役割は飛躍的に増大している。最低限の金融リテラシーを身につけることは、皆さんが社会に出て、実際にビジネスの現場に向き合った際にも、これからの人生設計においても、大きな武器となるだろう。 お金に使役されるのではなく、お金を使役するための知識を学んで、これからの人生設計をより豊かなものとすうるための一助としてほしい。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 生活に活かすことができる実践的金融リテラシーを身に着ける。 2) 現代の食をめぐる事象の経済的背景について理解し、説明することができる。 3) 投資の様々なリスクを理解し、自分で判断することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	お金とは何か？ 経済を学ぶことの意味	事前：なし 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
2	資産1億円超をめざす 億り人への道程	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
3	ギャンブルの経済学的考察 ハウスマネー効果とプロスペクト理論	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
4	食品の価格決定メカニズム 食品価格と企業株価の類似点と相違点	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
5	投資を始める前に準備すること お金を飼い慣らす心得	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
6	新NISAの使い方 個人投資家のための神制度	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
7	投資の本丸　株式投資の仕組み キャピタルゲインとインカムゲイン	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
8	ポイント経済圏の仕組み 気軽に始めるポイ活投資	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）

9	投資初心者に優しい投資信託の仕組み 投信とETFの違い	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
10	有事の金　金投資の仕組み 食と経済と金との関係	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
11	上級投資家向けCFDの仕組み FXと外貨預金の違い	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
12	危険な暗号資産 そのリスクと注意点	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
13	投資詐欺の手法 経済犯罪に巻き込まれないために	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
14	食と環境問題 フードロス、SDGs、ESG投資	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
15	キャッシュレス経済 リボ払いのリスクとクールなクレカの選び方	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（課題レポート）	キーワードノートの完成度	授業への取組み姿勢	
40%	30%	30%	（対面講義の場合）

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

講義の進捗に応じて適宜参考資料等を紹介する。講義時に参考資料等を配布する場合がある。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・B5サイズのキャンパスノートを1冊持参すること。
（メーカーは不問。A4サイズノート、ルーズリーフノート、リングノートは不可。）
・講義中の私語やスマホ使用は、グループディスカッション等で認めた場合を除き、厳禁とし、減点対象とする。
注意しても改善されない場合は、他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合がある（対面講義のみ）。
・授業中の居眠りや著しく意欲に欠ける受講態度は減点対象とする（対面講義のみ）。
・公欠事由に該当する場合を除き、30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする（対面・リモート共通）。
・対面講義の場合は定期試験を実施するがリモート講義の場合は課題レポートを定期試験の代替とする。
・投資は100%自己責任なので､そのリスクを自分自身で負える範囲で行うこと。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	大学の授業は、教員による一方的な講義だけではなく、受講者である学生の皆さんの主体的な学習姿勢によって一層ブラッシュアップしていく。 なので、質問は大歓迎、自分で質問したことは必ず自身のプラスになるので遠慮なく質問してほしい。 授業中、随時質問を受け付け、毎回授業終了後に質問タイムを設けるので、個別質問も歓迎する。 また、授業開始30分前には非常勤講師控室に待機しているので質問対応可 （リモート講義の場合はチャットによる質問で代替）

授業科目名	基礎生物学		
担当者名	杉元　康志	実務家教員	
科目コード	1000006	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	管理栄養士としてヒトの体のしくみについて豊富な知識と能力が要求される。ヒトの体のしくみは健康・疾病を知る上で重要であり、ヒトを含め生物の生命のしくみをよく理解する必要がある。生物学はその基本科目となる。本講義では、生物の一般的な内容から専門的内容まで踏み込んで学習する。生物学という広く深い分野であるため、教科書は勿論のこと参考資料や説明資料を配付しながら授業を進める。特に、学生は生命に対する興味を持って受講して欲しい。
授業の到達目標〔学習成果〕	生物の基礎知識、生物学に対する興味と理解を身につける。化学や生化学など関連科目とリンクして応用力を養う。高校で生物を学んでいない学生は特に、復習を行い、生命の知識を育む。高校で生物を履修した学生はより専門的知識を養う。受講した学生はこれから学ぶ「人体の構造と機能と疾病の成り立ち」に役立たせる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	基礎生物学の概要と生命のしくみ	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
2	生命体を作っているもの－分子、細胞、組織・器官、個体	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
3	生命体を作っているもの－糖質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
4	生命体を作っているもの－タンパク質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
5	生命体を作っているもの－脂質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
6	生命体を作っているもの－ミネラル、ビタミン、水	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)

7	生命体を司るものー酵素	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
8	生命体を司るものーホルモン	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
9	遺伝子のはたらきー核酸からＤＮＡ	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
10	遺伝子のはたらきー遺伝子発現と制御、先天性遺伝子疾患	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
11	エネルギー代謝ー糖質 1	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
12	エネルギー代謝ー糖質2	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
13	エネルギー代謝ー脂質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
14	代謝ータンパク質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
15	血液の科学ー生体防御 新しい生命科学	事前:ディベートに向け、初回~14 回の内容についてノートを活用し復習する。(90分) 事後:レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

定期試験に向けて、第1回から第15回までの復習を教科書、ノート、資料に従って十分行う。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト、レポート	授業態度、取り組み	
60%	20%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

系統看護学講座　生化学　人体構造と機能2	三輪　一智、中　恵一	医学書院

参考書又は参考資料等

【基礎から学ぶー生物学・細胞生物学】　和田勝著　羊土社

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食物と薬		
担当者名	有吉　俊二	実務家教員	○
科目コード	1100009	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食物と薬の両面の接点を理解するため、生体調節機構と薬の作用部位を提示し、料理（一般食材）、薬膳料理（生薬、一般食材）、漢方処方（生薬）などの諸々の生活習慣病を対比させ、「食」を基本として各疾患の予防・治療の具体例を挙げて医薬食同源を理解して頂く。大学文部教官として薬理学の教育、保険薬局薬剤師として患者への服薬指導業務の経験を踏まえ、種々の角度から眺められる視点を育てることと管理栄養士の国家試験の基礎基盤（基礎栄養学、機能性表示食品制度など）や生命化学を基本としての教育、また大学外の医薬実践に目を向ける幅広い教育も実施する。
授業の到達目標〔学習成果〕	食物には、五大栄養素（炭水化物、蛋白質、脂質、ビタミン、ミネラル）などがあり、このほか食物繊維、核酸、香気成分などの非栄養成分が多種含まれ、健康維持、健康増進がある共に、病気の予防・治療に関わる生体機能の調節や薬の視点で働きうる重要な化学物質も存在している。それらの化学物質が薬と同様の作用があるが、その必要量があって初めて薬であるということを理解すること、また機能性食品でなく食物全体が薬になりうることの中国医学の自然療法の陰陽五行説の基礎基盤があることの理解を深める。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義概説、食品の機能性　p2～p5	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
2	高血圧症と食品の機能性　p8～p18	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
3	アレルギー・免疫と食品の機能性　p19～p25	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
4	悪性新生物（がん）と食品の機能性　p26～p42	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
5	血栓症と食品の機能性　p43～p56	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
6	肝疾患と食品の機能性　p57～p63	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
7	糖尿病と食品の機能性　p64～p69	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
8	痛風と食品の機能性　p70～p72	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
9	骨粗鬆症と食品の機能性　p73～p81	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
10	認知症・記憶学習能力低下予防と食品の機能性 p92～p96	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
11	エイズ（AIDS）等と食品の機能性　p97～p98	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。

12	食品の機能性と機能性素材　p100～p167	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
13	食品の機能性と機能性素材　p100～p167	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
14	今後の課題および法律面　p170～p181	事前に読んで疑問点を準備する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。
15	コラムp184～p191 2～11項目でグループ討論と発表	事前に課題を選定する（90分）。 事後に疑問点を整理する(90分)。

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習・受講・復習を通じ、自分の認識の変化を感じてもらいたい。自分で学習したことをレポート提出。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

出席および授業態度	定期試験	レポート	
5%	90%	5%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食品機能学への招待　一生活習慣病予防と機能性食品一	須見洋行・矢田貝智恵子	三共出版株式会社

参考書又は参考資料等

井上正康：『活性酸素と医食同源』　三共出版株式会社（1996）
武鈴子：からだに効く和の薬膳便利帳（2012）
大東肇ら：食べものとくすり一食の薬効を探る一　建帛社（2014）
日本の伝統食品事典　朝倉書店（2016）
林眞一郎：アロマテラピー＆ミディカルハーブ　南山堂
日本医師会など：健康食品サプリメント「成分」すべて2017
緒方千秋：初めての一歩で学ぶ漢方医学　羊土社
張瀧英：新編・中医学基礎編　源草社
看護学入門　薬理　メディカルフレンド社　2022

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

食材や原薬の産地の影響を受けやすい栄養価や純度の重要性をどのように考えるか。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	メールの件名に学籍番号と氏名を入力してください。

授業科目名	基礎化学		
担当者名	坂尻　徹也	実務家教員	
科目コード	1000007	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	化学は自然現象を理解するために必須の知識である。本講義では、大学における化学を学ぶ上で土台となる、基礎的な知識を理解し身につけることを目標とする。物質の構成粒子と粒子の結合について深く学ぶため、グループワークを行う。		
授業の到達目標〔学習成果〕	大学での化学を学ぶために必要な、基礎的な概念を理解する。自然現象を化学として説明するための、化学式、反応式、計算を独力であらわせるようになる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	第2章　物質の構成粒子①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
2	第2章　物質の構成粒子②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
3	第2章　物質の構成粒子③	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
4	第3章　粒子の結合①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
5	第3章　粒子の結合②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
6	第3章　粒子の結合③ ＊第1回~6回の内容にて小グループのグループワークを行う	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
7	第4章　物質量と化学反応式①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

8	第4章　物質量と化学反応式②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
9	第4章　物質量と化学反応式③	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
10	第5章　酸と塩基の反応①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11	第5章　酸と塩基の反応②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12	第5章　酸と塩基の反応③	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13	第6章　酸化還元反応①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14	第6章　酸化還元反応②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15	第6章　酸化還元反応③	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。
・講義の度に課題として問題を出すので、自力で解けるよう復習すること。各自で問題集の自習をすること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み	小テスト	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
改定版リードLightノート化学基礎	教研出版編集部	教研出版

参考書又は参考資料等

講義中に適宜資料を配布する。
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・特に高等学校で化学を履修していない学生は、講義の内容を習得する積極的な姿勢が望まれる。
担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	化　学		
担当者名	戸田　晶久	実務家教員	
科目コード	1100010	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP2-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	化学は物質の構造とその性質を学ぶことにある。この授業では、化学結合と物質の構造、酸塩基反応および酸化還元反応などを理解し、大学でこれから学ぶ生化学、栄養学および食品学などを受講する上で必要な化学の基礎的知識を習得し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。講義の終わりに小テストを配布して、講義のポイントを復習させる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 化学結合と物質の構造を習得し、説明できる。 2) 酸塩基反応を習得し、説明できる。 3) 酸化還元反応を習得し、説明できる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	物質の構成粒子と物質の分類：原子構造、分子等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
2	物質量と化学反応式Ⅰ：原子の相対的量と原子量等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
3	物質量と化学反応式Ⅱ：化学反応における諸法則等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
4	原子の性質と周期律Ⅰ：原子モデル等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
5	原子の性質と周期律Ⅱ：原子の電子配置等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
6	原子の性質と周期律Ⅲ：原子の性質と周期表等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
7	化学結合とその種類Ⅰ：化学結合と電気陰性度等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
8	化学結合とその種類Ⅱ：化学結合の種類等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
9	共有結合と分子の形状Ⅰ：原子軌道と軌道混成等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）

10	共有結合と分子の形状 II ：混成軌道と分子形等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
11	化学平衡：平衡状態といろいろな平衡、質量作用の法則等について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
12	酸塩基酸と塩基反応：アレニウス、ブレンステッドの酸と塩基等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
13	酸塩基平衡と水素イオン濃度：水のイオン積等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
14	酸化還元反応：酸化と還元、酸化還元反応等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容についてノートを活用し復習する。（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1) 前期で基礎化学を受講した学生は、夏期休暇を利用して復習をしておくこと。
2) 授業で実施したまとめ小テストは、必ず復習して理解するように努めてください。
3) 次の授業までに学習するホームワークを各自に配布し、次の授業でその内容を解説後、提出する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（筆記試験）	授業態度評価（出席、小テスト、レポート等）		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
基礎固め化学　第二版	小島一光	化学同人

参考書又は参考資料等

1) 講義毎に資料を配布する。
2) 参考書：「化学はじめの一歩シリーズ1　化学基礎」　北條博彦・渡辺正 著（化学同人）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

1)　授業内容に理解できない箇所がある場合は質問するか、オフィスアワー時に、質問に来てください。
2)　ホームワークは、必ず理解し学習して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	基礎統計学		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1100011	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	卒業必修
ナンバリング	DP4-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	統計学は、データを客観的に分析し、意味のある事柄を導き出すための重要な手段である。本講義では特に、栄養学の実験や調査でよく用いられる基礎的な統計学の手法を解説し、実際に使えるようになることを目的とする。その際、演習問題を繰り返し解きながら、ピアインストラクションも活用していく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)区間推定を行い、その結果を正しく解釈することができる。 2)カイ二乗検定を行い、その結果を正しく解釈することができる。 3)t検定（対応なし・対応あり）を行い、その結果を正しく解釈することができる。 4)分散分析（一要因、繰り返しなし）と、事後の多重比較を行うことができる。 5)ピアスンの積率相関係数を算出し、無相関検定を行うことができる。 6)回帰直線を求め、その式から予測値を算出することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	統計学とは？	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
2	代表値と散布度	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
3	正規分布	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
4	母集団と標本	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
5	信頼区間	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
6	カイ2乗検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
7	t検定（対応なし）	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
8	t検定（対応あり）	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）

9	尺度の種類	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
10	分散分析（1要因）	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
11	多重比較	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
12	相関係数	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
13	無相関検定	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
14	回帰分析	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：演習問題を解いて、レポートとして提出すること（90分）
15	総復習	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：定期試験に向けて、総復習に励むこと（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・準備学習では教科書をよく読んで、わかりにくいところを明らかにしてピックアップしておくこと。
・事後学習では宿題の演習問題を解くだけでなく、復習に励んで理解を深めておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート		
50%	50%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
統計学がわかる―ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学	向後千春ほか	技術評論社刊

参考書又は参考資料等

『マンガでわかるナースの統計学』田村浩志ほか（オーム社刊）
『バイオサイエンスの統計学』市原清志（南江堂刊）
『統計学ががわかる【回帰分析・因子分析編】』向後千春ほか（技術評論社）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・実際にデータ処理を行いながら講義を行いますので、ルート付きの電卓を毎回の講義に持参して下さい。
・学内LANのmangoの教科「基礎統計学」フォルダの中に講義中の配布資料を置いているので活用して下さい。
・上記のフォルダの中にweb独習教材も置いていますので、予習・復習に是非利用して下さい。
・レポートは採点後、後日コメントを添えて返却します。
・定期試験の答案は返却しませんが閲覧できますので、閲覧希望者は成績発表後、松本研究室まで来室して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	オフィスアワーについては後日、掲示します。

授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ		
担当者名	赤松　貴文	実務家教員	
科目コード	1100012	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本学部で開講されている多くの授業ではレポート課題が課される。パソコンを使った文書作成技能は、現代社会における必須技能であることから、本演習では主にMicrosoft Wordによる文書作成演習を行う。第4回以降は毎回タイピング速度の測定も行う。また、学内ネットワークの利用方法、個人パソコンの管理方法についても触れる。
授業の到達目標〔学習成果〕	・タッチタイピングで10分間に500文字以上入力できるようになる。 ・Microsoft Wordを使ってレポートをはじめとする文書を作成できるようになる。 ・Microsoft Windowsの基本操作をマスターする。 ・学内ファイルサーバ、学内メールサーバの利用方法をマスターする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教室パソコンの利用方法、教材データのコピー方法	事前：なし 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（45分）
2	Webメールの利用方法	事前：タイピング練習（20分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（25分）
3	Google検索、Webページの印刷、Web情報の取り扱い	事前：タイピング練習（20分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（25分）
4	タイピング測定 ページ設定、箇条書き、段落、インデント　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
5	タイピング測定 タブ、リーダー、均等割り付け　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
6	タイピング測定 表　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
7	タイピング測定 画像、ワードアート、SmartArt　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
8	タイピング測定 図形、描画キャンバス　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
9	タイピング測定 グラフ　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
10	タイピング測定 ヘッダー・フッター、段組み　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
11	タイピング測定 スタイル、目次　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
12	タイピング測定 段落罫線、段落網かけ、ページ罫線、校正　※反転授業	事前：タイピング練習、授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）
13	タイピング測定 個人ノートパソコンの基本的な管理(1)	事前：タイピング練習（20分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（25分）

14	タイピング測定 個人ノートパソコンの基本的な管理(2)	事前：タイピング練習（20分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（25分）
15	タイピング測定 文書作成課題　※アクティブラーニング	事前：タイピング練習（25分） 事後：授業プリントの復習、タイピング練習（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

第4回～第12回は、事前に配布した授業プリントを各自で予習してもらう反転授業スタイルで実施するので、授業を欠席した場合はできる限り早く翌週分の授業プリントを取りに来ること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

タイピング速度	実技テスト		
40%	60%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
配布プリント		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・授業プリントは各自でファイリングすること。
・授業開始時までにコンピュータを利用できる状態にしておくこと。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	コンピュータリテラシーII		
担当者名	赤松　貴文	実務家教員	
科目コード	1100013	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本演習ではプレゼン演習を行う。Microsoft PowerPointの操作方法、分かりやすい発表とするためのポイントをマスターした後、プレゼン資料の作成演習とプレゼン演習を2回実施する。 人前でプレゼンする機会は今後増えるので、発表が苦手な人、コミュニケーション力を高めたい人は積極的に履修して欲しい。
授業の到達目標〔学習成果〕	・要点をプレゼン資料にまとめることができるようになる。 ・Microsoft PowerPointを使ってプレゼン資料を作成できるようになる。 ・プレゼン時におけるMicrosoft PowerPointの操作方法をマスターする。 ・声の大きさ、話すスピードに留意するなど、聴衆に配慮したプレゼンができるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	Microsoft PowerPointの概要 スライドマスター、ハイパーリンク	事前：なし 事後：授業プリントの復習（45分）
2	画面切り替え効果、アニメーション効果 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（30分） 事後：授業プリントの復習（15分）
3	画像のデータ量、スキャナの使い方、画像の透過処理 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（30分） 事後：授業プリントの復習（15分）
4	現実・理想・提案の設定、ドリルダウン、要約 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（30分） 事後：授業プリントの復習（15分）
5	1分プレゼン(1)　※アクティブラーニング	事前：1分プレゼン(1)の準備（35分） 事後：1分プレゼン(1)の振り返り（10分）
6	1分プレゼン(2)　※アクティブラーニング	事前：1分プレゼン(2)の準備（35分） 事後：1分プレゼン(2)の振り返り（10分）
7	1分プレゼン(3)　※アクティブラーニング	事前：1分プレゼン(3)の準備（35分） 事後：1分プレゼン(3)の振り返り（10分）
8	プレゼン演習1の準備(1)　※グループワーク	事前：プレゼン演習1の準備（25分） 事後：プレゼン演習1の準備（20分）
9	プレゼン演習1の準備(2)　※グループワーク	事前：プレゼン演習1の準備（25分） 事後：プレゼン演習1の準備（20分）
10	プレゼン演習1　※プレゼンテーション	事前：プレゼン演習1の準備（25分） 事後：プレゼン演習1の振り返り（20分）
11	プレゼン演習1の講評、フィードバック	事前：プレゼン演習2の準備（25分） 事後：プレゼン演習2の準備（20分）
12	プレゼン演習2の準備(1)　※グループワーク	事前：プレゼン演習2の準備（25分） 事後：プレゼン演習2の準備（20分）

13	プレゼン演習2の準備(2)　※グループワーク	事前：プレゼン演習2の準備（25分） 事後：プレゼン演習2の準備（20分）
14	プレゼン演習2　※プレゼンテーション	事前：プレゼン演習2の準備（30分） 事後：プレゼン演習2の振り返り（15分）
15	プレゼン演習2の講評、フィードバック コミュニケーション力とは　※討論	事前：なし 事後：コミュニケーション力について振り返り（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

第2回～第7回は、事前に配布した授業プリントを各自で予習してもらう反転授業スタイルで実施するので、授業を欠席した場合はできる限り早く翌週分の授業プリントを取りに来ること。
第8回～第14回はグループでプレゼン演習の準備を行ってもらうので、メンバー全員で協力して行うこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

プレゼン演習1の評価	プレゼン演習2の評価		
50%	50%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
配布プリント		

参考書又は参考資料等

授業内で紹介する

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・授業プリントは各自でファイリングすること。
・授業開始時までにコンピュータを利用できる状態にしておくこと。
・グループワークはメンバー全員で協力して行うこと。非協力的な者は減点する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	実用英語の基礎Ⅰ		
担当者名	梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1000008	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む日本社会は、英語の基礎的なコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、多様化する現代の食と栄養をテーマにして、受講者の英語脳を育てていく。英語の一区切りの文は、基本的には、わずか3つの品詞（名詞、動詞、形容詞）を使った5種類の文で構成されている。複雑に見える文も、これらに副詞や前置詞句を足す事によってできている。英語のコミュニケーションで大切なのは、動詞によって決まるこれら5つの文型を順序よく、正しい発音で発話し、文章化するスキルである。本講義では、海外での職務経験を有する教員が、日本語にはない英語独特の音を口の形と舌の位置で正しく発音することにより自然とリスニング力も高まることを体験する。また、英語の音とスペル(つづり)の関係性を学び、1つの基本単語から派生する単語を学び、語彙力もあげていく。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。 2. 英語の音とスペル（つづり）の関係性を学ぶ。 3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。 4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。 5. ５つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	Orientation	事前：UNIPAで配布したプリントで、文型及び音とつづりの関係を考える。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
2	Get to Know Each Other 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
3	Kitchen Part1 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
4	Kitchen Part2 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
5	Nutrition for Health Part1 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）

6	Nutrition for Health Part2 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
7	Likes and Dislikes Part1 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
8	Likes and Dislikes Part2 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
9	Carbohydrates Part1 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
10	Carbohydrates Part2 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
11	Ordering Food Part1 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
12	Ordering Food Part2 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
13	Fats and Proteins Part1 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
14	Fats and Proteins Part2 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
15	Fats and Proteins Part3 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用A4ノートを準備してください。PCで作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	

55%	20%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	実用英語の基礎II		
担当者名	梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1000009	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養教諭必修
ナンバリング	DP1-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	実用英語の基礎Ⅰに引き続き、海外での職務経験を有する教員が、多様化する現代の食と栄養について、テーマを変えて、受講者の英語脳をさらに育てていく。この講義では、英語のコミュニケーションに幅や奥深さをつけるために必要な品詞について学ぶ。これらの品詞は、それぞれに役割があり、文型や他の品詞との関係性で置く場所が決まる。これは、会話や文を書く際に、大切である。前期でマスターした5つの文型にこの知識を加えることにより、英語力の幅や奥深さが育つ。さらに、発話の際のリズムやアクセントを学ぶことにより、より自然な会話が楽しめるようになる。本講義では、実用英語の基礎Ⅰでカバーできなかった英語独特の音の数を増やして、さらに学ぶ。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。 2. 英語の音とスペル（つづり）の関係性を学ぶ。 3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。 4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。 5. 5つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。 6. 文中の単語の位置や句の中でのその位置から単語の品詞を判定できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	文中の品詞判定の鉄則を学ぼう At a Restaurant Part1 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリントで、文中の品詞判定の鉄則を考える。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
2	At a Restaurant Part2 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
3	At a Restaurant Part3 文法、発音、会話 Vitamins and Minerals Part1 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
4	Vitamins and Minerals Part2 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
5	Vitamins and Minerals Part3 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）

6	Vitamins and Minerals Part4 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
7	Cooking Part1 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
8	Cooking Part2 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
9	Cooking Part3 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
10	Cooking Part4 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
11	Cooking Part5 文法、発音、会話	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
12	The Importance of Balance Part1 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
13	The Importance of Balance Part2 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
14	The Importance of Balance Part3 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
15	The Importance of Balance Part4 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPAで配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後：講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用A4ノートを準備してください。PCで作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	

55%	20%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	実用英語Ⅰ		
担当者名	梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1000010	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP4-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む日本社会は、英語でのコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、海外での職務経験を有する教員が、自らの経験をもとに培ったリスニングスキルをシェアする。他言語の習得には、音から入ることは重要である。理由は単純で、赤ん坊は、文字からではなく、音から言語を学ぶのである。本講座では、音に関するものと文の構造に関するものの２つのスキルを実用的なビジネスの場で使えるようになることが目的である。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 出せるようになった英語の音を、リスニング時に聞き分ける。 2. 英語の音をもとにスペル（つづり）を予想する。 3. 基礎になる単語から派生語の意味を予想する。 4. 動詞によって決まる5種類の文を他の品詞、特に、副詞や前置詞句を使い複雑化する。 5. ビジネスの様々なシュチュエーション毎に対応できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	Daily Life 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.2の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.2のWord Associationのそれぞれの語句を使って文を作る。主語は、自由に選び、その文をアイデアノートに書く。（45分）
2	Places 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.8の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.8のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
3	People 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.14の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.14のWord Associationのそれぞれの語句の組合せを使って文を作り、アイデアノートに書く。（45分）
4	Travel 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.20の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.20のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
5	Business 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.26の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.26のWord Associationのそれぞれの語句を使って文を作る。主語は、自由に選び、その文をアイデアノートに書く。（45分）

6	Office 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.32の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.32のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
7	Technology 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.38の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.38のWord Associationのそれぞれの語句を使って文を作る。主語は、自由に選び、その文をアイデアノートに書く。（45分）
8	Personnel 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.44の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.44のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
9	Management 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.50の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.50のWord Associationのそれぞれの語句を使って文を作る。主語は、自由に選び、その文をアイデアノートに書く。（45分）
10	Purchasing 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.56の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.56のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
11	Finances 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.62の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.62のWord Associationのそれぞれの語句の組合せを使って文を作り、アイデアノートに書く。（45分）
12	Media 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.68の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.68のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）
13	Entertainment 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.74の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.74のWord Associationのそれぞれの語句を使って文を作る。主語は、自由に選び、その文をアイデアノートに書く。（45分）
14	Health 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.80の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.80のWord Associationの各々の空欄にふさわしい別な語句を使って文を完成しアイデアノートに書く。（45分）

15	Restaurants 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.86の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.86のWord Associationのそれぞれの語句の組合せを使って文を作り、アイデアノートに書く。（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用A4ノートを準備してください。PCで作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
Successful Keys to the Toeic Listening and Reading Test Goal→500	Mark D. Stafford	Kirihara Shoten

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	実用英語 II		
担当者名	梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1000011	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP4-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む日本社会は、英語でのコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、海外での職務経験を有する教員が、自らの経験をもとに培ったリーディング、そして、スピーキングスキルをシェアする。実用英語の基礎 I そして II で、文の構造については、結論を始めに言う英語と、最後に言う日本語とに大きな違いがあることがわかったと思う。本講座では、文の構造に関するスキルを実用的なビジネスの場で使えるようになることが目的である。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. スペル（つづり）から基礎になる単語を考え、その派生語の意味を予想することができる。 2. 副詞や前置詞句等で複雑化されている文を、基本になる 5 つの文型の要素のみを読み取ることにより、リーディングスキル（スピードや正確さ）を上げる。 3. ビジネスの様々なシュチュエーション毎に使われるフレーズが使えるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	Daily Life 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.5の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.5のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
2	Places 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.11の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.11の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
3	People 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.17の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.17のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
4	Travel 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.23の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.23の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
5	Business 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.29の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.29のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
6	Office 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.35の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.35の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）

7	Technology 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.41の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.41のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
8	Personnel 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.47の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.47の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
9	Management 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.53の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.53のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
10	Purchasing 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.59の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.59の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
11	Finances 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.65の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.65のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
12	Media 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.71の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.71の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
13	Entertainment 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.77の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.77のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
14	Health 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.83の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.83の枠内の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）
15	Restaurants 語彙強化、聴解、文法、発音	事前：P.89の知らない単語や熟語の意味を調べ、アイデアノートに書く。(45分) 事後：P.89のそれぞれの設問中の各々の単語の品詞を考え、アイデアノートに書く。（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用A4ノートを準備してください。PCで作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
55%	20%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

Successful Keys to the Toeic Listening and Reading Test Goal→500	Mark D. Stafford	Kirihara Shoten

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	フランス語の基礎		
担当者名	Comont Thierry	実務家教員	
科目コード	1000012	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP3-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	対話形式で行う。ABC（アー、ベ、セーと発音する）から始めて、より複雑な構文の知識までを体系的に学習していくが、あわせて仏文和訳、和文仏訳および基本的なフランス語によるコミュニケーションの練習を行う。また、フランスという国の現状やフランス人の生活など文化的な特徴にも触れる。		
授業の到達目標〔学習成果〕	平易な文章を読みこなせるようになる。基本的な聴き取り能力や会話能力を身に付ける。生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知る。 具体的には： １．フランス語の発音がきちんとできるようになる。 ２．簡単なコミュニケーションができるようになる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	初対面／自己紹介（やり方）	事後：自己紹介の会話を3回書く。（45分）
2	自己紹介（実践）／子音と母音／子音の役割／音節とは	事前：自己紹介を復習する。子音と母音の違いを調べる（定義）。（45分）
3	フランス語の成り立ち／アルファベット／"w" と "y"	事前：フランス語の成り立ちを調べる（45分） 事後：フランス語でアルファベットの発音練習をする。（30分）
4	アルファベットの書き方／フランス語の母音	事後：フランス語の母音の発音を練習する。（45分）
5	挨拶／フランスという国／数字：０～２０	事前：インターネットのWikipedia等で、フランスの基本情報を読んでおく。（45分） 事後：フランス語の挨拶と20までの数字を言えるまで練習する。（30分）
6	フランス語の子音／名詞の性／文章の基本構成	事後：ノートを活用し、今まで習った事を復習する。（45分）
7	プリント(動詞/単語)／ETRE／指示形容詞／所有形容詞[単数]	事後： 1）ETREの現在形を復習する。（30分） 2）宿題：ETRE動詞を使って、文章を5個作成する。（30分）
8	AVOIR／IL Y A～／ALLER／～から～まで	事後： 1）AVOIRとALLERの現在形を復習する。（20分） 2）宿題：AVOIRとALLER動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。（40分）
9	VENIR／ここ、そこ、あそこ／否定形	事後： 1）VENIRの現在形を復習する。（30分） 2）宿題：VENIR動詞を使って、文章を3個（肯定文と否定文）作成する。（40分）

10	中間テスト(20分)／FAIRE／天気の表現	事前：今まで習った事を復習する。（90分） 事後：宿題：FAIRE動詞を使って、文章を５個作成する。（30分）
11	形容詞：位置と変化／SAVOIR／CONNAITRE	事後： 1）SAVOIRとCONNAITREの現在形を復習する。（20分） 2）宿題：SAVOIRとCONNAITRE動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。（40分）
12	COMPRENDRE／とても／たくさん	事後： 1）COMPRENDREの現在形を復習する。（30分） 2）宿題：COMPRENDRE動詞を使って、文章を5個作成する。（30分）
13	冠詞（不定/定/部分）／VOULOIR／POUVOIR	事後： 1）VOULOIRとPOUVOIRの現在形を復習する。（20分） 2）宿題：VOULOIRとPOUVOIR動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。（40分）
14	ETREとIL Y A／数字：21以上／所有形容詞[複数]	事前：ETREとAVOIRと20までの数字を復習する。（30分） 事後：今まで習った事を復習する。（90分）
15	現在形（-er動詞[基本的な活用]）／前期のまとめ）	事前：ノートやプリントを読みなおし、最後の授業で質問するため、疑問点をリストにする。（45分） 事後：ノートやプリントを活用し、講義全体を復習する。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1．予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。
2．文章作成の宿題を提出すること。添削後返却するので、活用すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

宿題提出	中間テスト	定期試験	
10%	20%	70%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない（プリントを使用する）		

参考書又は参考資料等

最初の授業の時に紹介する

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

言葉は実践で身に付けるものなので、習った事を使ったり、分らない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取組んでほしい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	料理とフランス語		
担当者名	Comont Thierry	実務家教員	
科目コード	1000013	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP3-1-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	対話形式で行う。食に関する仏文和訳、和文仏訳および基本的なフランス語によるコミュニケーションの練習を行う。フランスという国の現状やフランス人の生活など文化的な特徴、特に食文化への理解を深める。また、テーマに沿って簡単なフランス語の練習をする。		
授業の到達目標〔学習成果〕	フランスの食文化の世界について理解する。 具体的には： 1．フランスの豊かな食文化やその歴史、地理との関係などを知る。 2．テーマについて簡単なフランス語で表現できるようになる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	前期の復習	事前：前期内容をしっかり復習する。（90分）
2	フランスの食事：日本の食事との根本的な違い	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
3	フランスの食事の基本的な流れ	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
4	テーブルマナー（前半：すべきこと）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
5	テーブルマナー（後半：すべきでないこと）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
6	レストランのメニュー・１）前菜とスープ	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
7	レストランのメニュー・２)メインディッシュ	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
8	レストランのメニュー・３）チーズとデザート	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）

9	フランスのワイン（前半：種類と産地）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
10	フランスのワイン（後半：保存の仕方と飲む時の温度）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
11	フランスのチーズ（前半：種類と産地）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
12	フランスのチーズ（後半：飲み物との組み合わせ）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
13	郷土料理（前半：地理的特徴と特産物の関係）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
14	郷土料理（後半：ノルマンディーの例）	事前：インターネット等で予習し、テーマに関する要点をノートに書いておく。（45分） 事後：テーマに関して、ポイントになるフランス語を交えて日本語の文章にまとめる。（45分）
15	フランスの食文化の特徴についてのまとめ	事前：初回から１４回の内容について、ノートを活用し復習する。（90分） 事後：ノートを活用し、フランス語の表現も含め、講義全体を復習する。（135分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

１．インターネット等を活用して予習をし、復習も必ず行うこと。
２．文書作成の宿題を提出すること。添削後返却するので、活用すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

宿題提出	中間テスト	定期試験	
10%	20%	70%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない（プリントを使用する）		

参考書又は参考資料等

最初の授業の時に紹介する

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

言葉は実践で身に付けるものなので、習った事を使ったり、分らない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取組んでほしい。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	中国語の基礎		
担当者名	鳥丸　知子	実務家教員	
科目コード	1000014	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP3-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員について	中国語の発音・文法の基礎を習得する。簡単な日常会話が身につくレベルまで到達することを目標とする。		
授業の到達目標〔学習成果〕	簡単な日常会話が話せ、聴き取れるレベルまで到達する。同時に、中国の文化を知り、異文化に対する理解を深め、異文化コミュニケーション能力を身につける。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介及び学習方法についての説明。 中国語概説：中国語について。	事前：「中国語」とは何か、について調べておくこと（30分） 事後：講義内容の復習（30分）
2	発音（1）声調、単母音、複母音、無気音と有気音、そり舌音	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
3	発音（2）鼻音を伴う母音、声調の変化、軽声	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
4	第1課：初対面の挨拶を学ぶ。断定動詞「是」、「不是」、「也是」、人称代名詞等。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
5	引き続き第1課。初対面の挨拶ができるように繰り返しの朗読及び復唱する。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
6	第2課：尋ね方と答え方を学ぶ。これ、それ、あれの言い方。日常的によく使う呼称について説明する。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
7	引き続き第2課。尋ね方と答え方を復習する一方、よく使う呼称を使って挨拶の練習をする。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
8	第3課：形容詞の学習。形容詞の肯定形、否定形及び比較について説明し、基本文型を使って、形容詞の基本を覚える。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
9	引き続き第3課。前回習った内容を復習しながら、基本文型を使って覚える。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
10	第4課：数の数え方（指で中国式）月、日、曜日、時刻の言い方を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）

11	引き続き第4課。特に曜日の言い方について、日本との比較を重点的に説明する。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
12	第5課：一般動詞を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
13	引き続き第5課。一般動詞の現在進行形の表現法。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
14	第6課：有る、在るの表現法。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）
15	引き続き第6課：有る、在るについて復習する。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習（30分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

単語帳を作成し、簡体字表記や発音の練習及び意味の理解に努めること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み	定期試験		
60%	40%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
《新版》中国語10課	方如偉、王智新、鐙屋一	白水社

参考書又は参考資料等

「どんと来い中国語」https://dokochina.com/ime.htm

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて待機。南区キャンパスは、授業終了後10分間は、教室にて待機。

授業科目名	料理と中国語		
担当者名	鳥丸　知子	実務家教員	
科目コード	1000015	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	選択
ナンバリング	DP3-1-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	前期開講の「中国語の基礎」で使用したテキスト（《新版》中国語第10課）を使用しながら、食に関する中国語をテーマに、実践で使える中国語の習得を目標とする。同時に、中国料理の種類、食事のマナーや食材を通じて、中国の多彩な食文化を知り、異文化に対する理解を深める。		
授業の到達目標〔学習成果〕	レストランでの注文、食材の購入や調理方法など、食に関する簡単な会話が出来るレベルまで到達してもらいたい。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	中国の料理について。 オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介及び学習方法についての説明。	事前：思い付く中国の料理について、調べておくこと（30分） 事後：講義内容の復習 （30分）
2	前期の復習（1）発音、動詞、形容詞など	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
3	前期の復習（2）一般動詞、助詞など	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
4	第7課：助動詞を使用し、買い物や中国のお金について学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
5	引き続き第7課。買い物の方法について	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
6	第8課：助動詞を使用し、好きな料理名を伝えるなどの表現方法を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
7	引き続き第8課。中国料理の種類について	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
8	第9課：味覚にまつわる表現方法を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
9	引き続き第9課。中国料理の地域ごとの特徴。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
10	第10課：レストランでの注文方法。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）

11	引き続き第10課。食事の際の挨拶について	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
12	中国の食堂やレストランの紹介を通じて、中国語を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
13	レシピを通じて、中国語を学ぶ。	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
14	食をテーマにした中国語会話の実践練習	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）
15	日中の食文化について考える	事前：テキスト指定範囲（授業時に通知）を通読すること（30分） 事後：授業内容の復習 （30分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

単語帳を作成し、簡体字表記や発音の練習及び意味の理解に努めること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み	定期試験		
60%	40%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
講義中に適宜、資料を配布する。		

参考書又は参考資料等

前期開講の「中国語の基礎」で使用したテキスト。　テキスト名：《新版》中国語10課

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	授業終了後10分間は小倉北区キャンパス2号館4階非常勤講師室にて待機。

授業科目名	国際理解（海外研修）（前期）		
担当者名	竹並　正宏、梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1100015	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP4-1-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性をもち取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決策を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 渡航に必要な手続きについての理解（パスポート、ビザ、入国及び通関審査）を通して、国境の意義とその必要性を客観的に説明できるようにする。 2. 国際化が進む中、発生する課題について、データを用いて分析・評価する。 3. グローバル社会での多様な価値観や利害関係、他民族への配慮等について討議できるようになる。 4. 具体的な事例の分析や評価をもとに、課題に向けた解決策を提案する。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	【梅﨑】 オリエンテーション（パスポートやビザ） 【竹並】 今年度の国際理解（海外研修）に関するガイダンス	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
2	【梅﨑】 訪問国の基本的知識の習得（歴史と文化） 【竹並】 訪問国の基本的知識の習得（歴史と文化）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
3	【梅﨑】 サバイバル英会話①挨拶・自己紹介 【竹並】 サバイバル韓国語①挨拶・自己紹介	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
4	【梅﨑】 サバイバル英会話②空港にて（入国審査・税関） 【竹並】 サバイバル韓国語②空港にて（入国審査・税関）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
5	【梅﨑】 サバイバル英会話③交通機関の使い方 【竹並】 サバイバル韓国語③交通機関の使い方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
6	【梅﨑】 サバイバル英会話④宿泊先でのチェックイン 【竹並】 サバイバル韓国語④宿泊先でのチェックイン	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）

7	【梅﨑】 サバイバル英会話⑤買い物時の尋ね方 【竹並】 サバイバル韓国語⑤買い物時の尋ね方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45 分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45 分)
8	【梅﨑】 サバイバル英会話⑥レストランでの注文や支払い 【竹並】 サバイバル韓国語⑥レストランでの注文や支払い	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45 分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45 分)
9	【梅﨑】 サバイバル英会話⑦道の聞き方・伝え方 【竹並】 サバイバル韓国語⑦道の聞き方・伝え方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45 分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45 分)
10	【梅﨑】 サバイバル英会話⑧電話での対応の仕方 【竹並】 サバイバル韓国語⑧電話での対応の仕方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45 分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45 分)
11	【梅﨑】 サバイバル会話⑨アポイントのとり方 【竹並】 サバイバル韓国語⑨アポイントのとり方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45 分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45 分)
12	【梅﨑】 サバイバル会話⑩お礼・別れの言い方 【竹並】 サバイバル韓国語⑩お礼・別れの言い方	事前:UNIPA で通知した配布資料を通読しておくこと。(45 分) 事後：結団式を終え、海外渡航への期待や不安、意気込みをアイデアノートにまとめる。(45 分)
13	【竹並・梅﨑】 現地でのアクティビティーの確認 ①スマホアプリを使った栄養指導 ②折り紙実演と指導 ③その他日本文化の紹介	事前：会話内容や質問事項を検討する。(45 分) 事後：現地での役割担当をアイデアノートにまとめる。(45 分)
14	【梅﨑】 現地在住日本人や外国人との交流とビジネス視察 【竹並】 現地の韓国人との交流と韓食文化・世界遺産視察	事前：アイデアノートを使ってディスカッションの準備をする。(45 分) 事後：ディスカッションからのフィードバックをアイデアノートにまとめる。(45 分)
15	【竹並・梅﨑】 プレゼンテーション：ディスカッション内容の発表	事前：ディスカッションの内容を発表用に整理する。(45 分) 事後：プレゼン時に得たフィードバックをアイデアノートにまとめ提出する。(45 分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。プログラム終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

研修への取り組み	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

適時指示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

【梅﨑】
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。
【竹並】
※成績評価については、担当教員が、事前学習の受講姿勢、研修中の状況及び研修終了後の報告書(レポート)を総合的に評価する。
①授業の進め方：教科担任及びJTB担当者が連携を取りながら、海外研修に関する事前学習、渡航手続き、交流会の準備を行い研修の充実を期す。
②事前・事後学修：台湾について中国語について事前学習を行い、旅行中はメモを取り、速やかに報告書をまとめる。交流会においては、積極的に交流を進める。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
授業開始後改めて連絡します。	

授業科目名	国際理解（海外研修）（後期）		
担当者名	竹並　正宏、梅﨑　義雄	実務家教員	○
科目コード	1100015	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2単位	履修	選択
ナンバリング	DP4-1-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性をもち取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決策を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 渡航に必要な手続きについての理解（パスポート、ビザ、入国及び通関審査）を通して、国境の意義とその必要性を客観的に説明できるようにする。 2. 国際化が進む中、発生する課題について、データを用いて分析・評価する。 3. グローバル社会での多様な価値観や利害関係、他民族への配慮等について討議できるようになる。 4. 具体的な事例の分析や評価をもとに、課題に向けた解決策を提案する。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	【梅﨑】 オリエンテーション（パスポートやビザ） 【竹並】 今年度の国際理解（海外研修）に関するガイダンス	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
2	【梅﨑】 訪問国の基本的知識の習得（歴史と文化） 【竹並】 国際理解（海外研修）の位置づけ	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
3	【梅﨑】 サバイバル英会話①挨拶・自己紹介 【竹並】 台湾の歴史・長庚大学についての説明	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
4	【梅﨑】 サバイバル英会話②空港にて（入国審査・税関） 【竹並】 中国語（挨拶・自己紹介）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
5	【梅﨑】 サバイバル英会話③交通機関の使い方 【竹並】 中国語（空港にて（入国審査・税関））	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）
6	【梅﨑】 サバイバル英会話④宿泊先でのチェックイン 【竹並】 中国語（交通機関の使い方）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）

7	【梅﨑】 サバイバル英会話⑤買い物時の尋ね方 【竹並】 中国語（宿泊先でのチェックイン）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45 分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45 分）
8	【梅﨑】 サバイバル英会話⑥レストランでの注文や支払い 【竹並】 中国語（買い物時の尋ね方）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45 分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45 分）
9	【梅﨑】 サバイバル英会話⑦道の聞き方・伝え方 【竹並】 海外渡航手続きについての説明	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45 分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45 分）
10		
11	【梅﨑】 サバイバル英会話⑧電話での対応の仕方 【竹並】 中国語（レストランでの注文や支払い）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45 分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45 分）
12	【梅﨑】 サバイバル会話⑩お礼・別れの言い方 【竹並】 中国語（道の聞き方・伝え方）	事前:UNIPA で通知した配布資料を通読しておくこと。（45 分） 事後：結団式を終え、海外渡航への期待や不安、意気込みをアイデアノートにまとめる。（45 分）
13	【竹並・梅﨑】 現地でのアクティビティの確認 ①スマホアプリを使った栄養指導 ②折り紙実演と指導 ③その他日本文化の紹介	事前：会話内容や質問事項を検討する。（45 分） 事後：現地での役割担当をアイデアノートにまとめる。（45 分）
14	【梅﨑】 現地在住日本人や外国人との交流とビジネス視察 【竹並】 台湾：現地学生との交流と市場や幼稚園視察	事前：アイデアノートを使ってディスカッションの準備をする。（45 分） 事後：ディスカッションからのフィードバックをアイデアノートにまとめる。（45 分）
15	【竹並・梅﨑】 プレゼンテーション：ディスカッション内容の発表	事前：ディスカッションの内容を発表用に整理する。（45 分） 事後：プレゼン時に得たフィードバックをアイデアノートにまとめ提出する。（45 分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。プログラム終了時、提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

研修への取り組み	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

適時指示する。
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
【梅﨑】 アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。 【竹並】 ※成績評価については、担当教員が、事前学習の受講姿勢、研修中の状況及び研修終了後の報告書(レポート)を総合的に評価する。 ①授業の進め方：教科担任及び JTB 担当者が連携を取りながら、海外研修に関する事前学習、渡航手続き、交流会の準備を行い研修の充実を期す。 ②事前・事後学修：台湾について中国語について事前学習を行い、旅行中はメモを取り、速やかに報告書をまとめる。交流会においては、積極的に交流を進める。
担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
授業開始後改めて連絡します。	

授業科目名	健康スポーツ科学Ⅰ		
担当者名	倉﨑　信子	実務家教員	
科目コード	1100016	授業形態	演習
学年	1年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	必修 栄養教諭必修
ナンバリング	DP1-1-C		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	便利になり過ぎた現代社会は、通常のライフスタイルでは身体活動量が不足しがちである。授業を通じて運動、スポーツに興味を持ち、生涯スポーツの実践につながること、また合気道を通じて建学の精神の理解を深めることを目的とする。各々の現体力を把握することで、より自分にフィットした運動を体験できるよう授業を展開する。微妙な個人差や健康状態に合わせた運動の匙加減を体得し、自己管理能力を身につけ、さらに技術の獲得やスポーツの楽しさを体得することでストレスに対処するスキルの獲得を目指す。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	・自分にフィットした身体運動の効果を体感する。 ・自己管理能力を身につけ、心身ともに充実したライフスタイルを送ることができる。 ・安全への配慮、マナー、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション、チームワークなどの社会的なスキルや筑紫のこころを身につける。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	レクリエーションスポーツ(1)　学内レクスポ大会の練習	
2	レクリエーションスポーツ(2)　学内レクスポ大会の練習	
3	体力測定(1)　筋力測定	
4	体力測定(2)　最大酸素摂取量の測定	
5	バレーボール(1)　ルールの理解と基礎練習	
6	バレーボール(2)　基礎練習と3段攻撃練習	
7	バレーボール(3)　ゲーム	
8	バレーボール(4)　ゲーム（マネージメント・解析）	
9	バレーボール(5)　ゲーム（リーグ戦）	
10	バドミントン(1)　ルールの理解・基礎練習	
11	バドミントン(2)　基礎技術とゲーム(ダブルス)	
12	バドミントン(3)　応用・戦術的技術練習とゲーム	
13	合気道(1) 合気道と本学の建学の精神「筑紫の心」との関わり 合気道師範：九州栄養福祉大学客員教授　清水康助先生	
14	合気道(2)　合気道の技、精神、考え方	
15	合気道(3)　声の出し方、礼儀作法、　正しい姿勢	

16	バドミントン(4)　ゲーム（ダブルス）	
17	バドミントン(5)　ゲーム（ダブルス）	
18	バスケットボール(1) ルールの理解と基礎練習	
19	合気道(4)　正しい姿勢　身体の使い方　集中すること	
20	合気道(5)　護身術	
21	合気道(6)　防犯への意識	
22	バスケットボール(2) 個人技術練習とゲーム	
23	バスケットボール(3) グループ技術練習とゲーム	
24	バスケットボール(4) ゲーム（リーグ戦）	
25	バスケットボール(5) ゲーム（リーグ戦）	
26	フットサル(1)　パス、キック練習とミニゲーム	
27	フットサル(2)　ルールの理解・ゲーム	
28	フットサル(3)　グループ戦術・ゲーム	
29	フットサル(4)　ゲーム（リーグ戦）	
30	集計（個人スコアおよびチームスコア）	

準備学習・事後学習等についての補足説明

・安全に運動が実施できるよう自己管理を徹底する。
・テレビ等の視聴やスポーツ観戦を通して様々な種目のルールや理解を深める。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み姿勢	個人スコアおよびチームへの貢献度	技能	
70%	20%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

※「授業への取組み姿勢」は安全面に配慮して個人、ペア、チームでプレイを楽しもうとしているか、また楽しんでいるかを主に評価する。「技能」は個人のレベルに合ったプレイを行うよう努力しているか、またそれを実行することができたかどうかを主に評価する。

・天候や施設の関係上（合気道）によって種目を変更することがある。
・必ずスポーツを行うに相応しい服装に更衣する。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他

授業科目名	健康スポーツ科学Ⅱ		
担当者名	倉﨑　信子	実務家教員	
科目コード	1100017	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP1-2-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「健康スポーツ科学Ⅰ」で習得した技術をベースに、ゲーム中心の授業を実施する。複数のスポーツ種目を実施することで、積極的な学生同士のコミュニケーションを図り、主体的に且つ安全で効果的な実践に結びつく態度を養う。 前期では全員で同一種目を行い、後期は希望に応じて種目ごとにグルーピングを行い実施する。
授業の到達目標〔学習成果〕	・スポーツの継続による体力向上の知覚およびセルフエスティームの向上 ・各種スポーツ技術の向上 ・各種目のルール理解・自ら安全に配慮しながらゲームを展開できる力を身につける

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション	
2	レクリエーションスポーツ	
3	体力測定(1)　筋力測定	
4	体力測定(2)　最大酸素摂取量の測定	
5	バレーボール(1)　基礎練習・3段攻撃の練習	
6	バレーボール(2)　3段攻撃の練習とゲーム	
7	バレーボール(3)　ゲーム（マネージメント・解析）	
8	バレーボール(4)　ゲーム	
9	バレーボール(5)　ゲーム（マネージメント・解析）	
10	バレーボール(6)　ゲーム	
11	バドミントン(1)　基礎練習とゲーム(シングルス)	
12	バドミントン(2)　ドライブ打ちとゲーム(シングルス)	
13	バドミントン(3)　フォーメーション・戦略練習とゲーム	
14	バドミントン(4)　ゲーム（リーグ）	
15	バドミントン(5)　ゲーム（トーナメント）	
16	後期のオリエンテーション及び各種目の説明等	
17	各種目別グルーピングの実施、種目のルール確認　等	
18	各種目グループによる練習①	
19	各種目グループによる練習②	

20	各種目グループによる練習③	
21	各種目グループによる練習④／ゲーム実施の際の諸注意　等	
22	各種目グループによるゲームの実施①	
23	各種目グループによるゲームの実施②	
24	各種目グループによるゲームの実施③	
25	各種目グループによる練習⑤（ゲーム内容等を反映）	
26	各種目グループによる練習⑥（ゲーム内容等を反映）	
27	各種目グループによるゲームの実施④	
28	各種目グループによるゲームの実施⑤	
29	各種目グループによるゲームの実施⑥	
30	各種目別の総括　等	

準備学習・事後学習等についての補足説明

・安全に運動が実施できるよう自己管理を徹底する。
・テレビ等の視聴やスポーツ観戦を通して様々な種目のルールや理解を深める。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み姿勢	技能		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

・「授業への取組み姿勢」は安全に配慮してペアまたはチームでゲームを戦略的に展開できているかを主に評価する。
「技能」はチームプレーなどの社会的スキル、体力の向上を主に評価する。
・天候.感染症状況によって種目を変更することがある。
・必ずスポーツを行うに相応しい服装に更衣する。
・受講者数制限を行う。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	スポーツ栄養学		
担当者名	室井　由起子	実務家教員	
科目コード	1100105	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP1-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	運動やスポーツによって身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを習得する。栄養補給や食生活などの食に関わる全てについて、マネジメントする実践能力を養う。そのため、2人1組になり、スポーツ時の栄養アセスメントで最も重要な食事調査や実際にグループに分かれ、スポーツ選手に対応した献立をの作成を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 食事調査ができるようになり、スポーツ栄養マネジメントに反映できる 2. スポーツ競技に応じた献立作成ができるようになる 3. スポーツ栄養マネジメントに沿った栄養指導ができるようになる

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション:この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法についての説明。	事前：テキスト第1章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
2	スポーツ栄養マネジメント①	事前：第1回に配布したプリントを通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
3	トレーニングとエネルギー消費量	事前：第2章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
4	スポーツ選手の身体組成と貯蔵エネルギー	事前：第2章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
5	食事調査	事前：第2章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
6	エネルギー補給①	事前：第4章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
7	エネルギー補給②	事前：第4章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
8	からだづくりとたんぱく質摂取	事前：第4章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
9	骨づくりとカルシウム摂取・女性アスリート3主徴	事前：第6章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
10	貧血予防と鉄・たんぱく質摂取	事前：第7章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
11	コンディショニング維持とビタミン・水分摂取	事前：第8章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
12	試合前後の食事	事前：第11章を通読しておくこと（90分） 事後：配布する資料を読み、まとめる（90分）
13	スポーツ選手に対する献立作成①	事前：第12章を通読しておくこと（90分） 事後：献立作成のまとめを行う（90分）
14	スポーツ選手に対する献立作成②	事前：第12章を通読しておくこと（90分） 事後：献立作成のまとめを行う（90分）

15	まとめ	事前：第13章を通読しておくこと（90分） 事後：献立作成のまとめを行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

レポート及び献立の提出を必ずすること

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	献立	
60%	20%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
新版　コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満	市村出版

参考書又は参考資料等

○「基礎から学ぶ!スポーツ栄養学」　鈴木志保子
(「基礎から学ぶ!」スポーツシリーズ) (ベースボールマガジン社)

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	健康管理概論		
担当者名	寶珠山　務	実務家教員	○
科目コード	1100018	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	少子高齢化社会において人々の保健福祉領域への関心はさらに高まっている。管理栄養士に求められる健康管理の基礎として、本講では、がん、生活習慣病、感染症、メンタルヘルス等の主要な疾病の概要とその対処、健康の評価と開発の具体的方法、信頼性の高い文献や統計情報の活用、疫学研究の概要などを解説する。各項目に関連した国家試験問題も紹介したい。 担当者は内科一般の臨床実務に携わって10年以上になるが、急性期から慢性期における対応、医療と介護の境界領域での対応などを通して、医療技術の向上と高齢化の急進を時代背景に、複数の専門職からなるチーム編成とその活用が求められていることを強く実感した。本講義では、教科書やウェブ情報を分かりやすく解説するとともに、行間に込められた史実や本質にも触れることで、学生諸君の知的関心をさらに掻き立てられたら幸いと考える。
授業の到達目標〔学習成果〕	健康の増進を図るために必要な基本的知識を理解する。また、管理栄養士は傷病者に対する栄養管理・栄養指導の専門家として医療現場において果たし得る役割が大きくなっていることから、代表的な生活習慣病についてはその病態の基礎を正しく理解することを目指す。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	健康の概念	事前：テキスト第1章の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
2	健康の現状：①人口、平均寿命と健康寿命、出生の状況	事前：テキスト第2章1～3の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
3	健康の現状：②死亡の状況	事前：テキスト第2章4～5の通読、概要把握（60分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（60分）
4	健康に影響する生活要因：①生活習慣要因と生活習慣病	事前：テキスト第3章1の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
5	健康に影響する生活要因：②栄養・食生活、身体活動・運動	事前：テキスト第3章2～3の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
6	健康に影響する生活要因：③休養・ストレス、喫煙・飲酒	事前：テキスト第3章4～5の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
7	健康を阻害する疾病とその予防：①疾病予防の3段階	事前：テキスト第4章1の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
8	健康を阻害する疾病とその予防：②生活習慣病の予防、感染症の予防	事前：テキスト第4章2～3の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
9	健康づくりの施策：①国民健康づくり運動	事前：テキスト第5章1の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
10	健康づくりの施策：②健康づくりの法的対応、組織と従事者	事前：テキスト第5章2～3の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
11	健康管理の進め方：①健康管理の考え方と方法、健康診査・スクリーニング	事前：テキスト第6章1～2の通読、概要把握（60分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（60分）

12	健康管理の進め方：②健康教育、健康相談、国際保健	事前：テキスト第6章3～4の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
13	EBMに基づく健康管理：①疫学研究の種類とデザイン	事前：テキスト第6章5～6の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
14	EBMに基づく健康管理：バイアスと交絡、研究倫理	事前：テキスト第7章の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）
15	健康情報：ヘルス・リテラシー、健康情報の活用	事前：テキスト第8章の通読、概要把握（90分） 事後：参考書の該当箇所の確認と自主学習（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習として、テキストの授業内容に該当する部分を予め読んでおく。事後学習として、テキスト参考書の該当部分の再確認とともに、自主的にWebサイト情報等を利用して理解を深めることが望ましい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	中間評価(レポート)		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
Nブックス　改訂　健康管理論	苫米地孝之助　監修	建帛社

参考書又は参考資料等

参考書：国民衛生の動向 2024／2025（厚生の指標2023年増刊）厚生労働統計協会

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

栄養管理・栄養指導の専門家として健康管理の基礎を理解することが重要であり、またその理解が栄養に携わる専門家への第一歩であることを意識して学習してもらいたい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可。

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ		
担当者名	林田　賢史、村上　玄樹	実務家教員	
科目コード	1100019	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆衛生学は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を考える学問である。授業内容として、基本的な疫学の知識、我が国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防や環境と生活の健康の視点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げる。 講義はパワーポイントを用いた講義形式とグループディスカッション、グループワーク等を併用して行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1.「公衆衛生学」で学ぶ領域と現実社会の中での公衆衛生問題の関係を理解できる。 2. 公衆衛生学は、多くの専門分野の総合学であり、各専門学の学問領域を説明できる。 3. 各専門学の範疇である公衆衛生学上の重要事項について説明できる。 4. 管理栄養士として求められている学問レベルについて理解し、一定の質問には説明できる。 5. 国内外の最新情報に関心を抱き、公衆衛生問題についてはノートや教科書に加筆することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	公衆衛生学序論～学ぶ範疇、健康の歴史と意義、健康問題の変遷について解説	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
2	公衆衛生学序論～公衆衛生と医療の歴史、日本の衛生・公衆衛生学・活動	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
3	保健統計～健康水準、罹患率等の健康指標、世界と日本の人口の歴史	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
4	保健統計～国勢調査、人口統計（人口動態調査など）の実際と国の施策	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

5	疫学～疫学序論、疾病の分類、疾病量・異常者の把握、疫学の方法	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
6	疫学～記述疫学研究、生態学的研究、コホート研究、症例対照研究	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
7	疫学～コホート研究と症例対照研究の比較、介入疫学研究	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
8	疾病予防と健康管理～リスクと予防医学、健康管理、健康増進	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
9	疾病予防と健康管理～集団検診とスクリーニング、ROC分析	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
10	主な疾病の予防～感染症の成立、感染症の定義と類型、国内感染症の動向	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
11	主な疾病の予防～循環器疾患、糖尿病、メタボの予防法	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
12	主な疾病の予防～がんの予防法、アレルギー疾患、事故と自殺の防止	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
13	環境保健（1）～人と環境、環境の把握と評価、物理学的環境要因、化学的環境要因	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

14	環境保健（2）～生物学的環境要因、空気衛生、水の衛生、廃棄物処理	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
15	環境保健（3）～衣食住の衛生、公害と環境問題、環境の管理	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・教科書に準拠した講義を行うため、教科書を元に復習することが望ましい。
・小テストは講義済み内容に限らず、国家試験の過去問などを用いる。
　教科書記述が無い場合は別資料にて説明を行う。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	出席・小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
シンプル衛生　公衆衛生学	鈴木庄亮 監修	南江堂

参考書又は参考資料等

○「国民衛生の動向」厚生の指標増刊（厚生労働統計協会）
○「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学　改訂7版」監修：国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所（南江堂）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可。

授業科目名	公衆衛生学Ⅱ		
担当者名	林田　賢史、村上　玄樹	実務家教員	
科目コード	1100020	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆衛生学は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を考える学問である。授業内容として、基本的な疫学の知識、我が国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防や環境と生活の健康の視点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げる。 講義はパワーポイントを用いた講義形式とグループディスカッション、グループワーク等を併用して行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1.「公衆衛生学」で学ぶ領域と現実社会の中での公衆衛生問題の関係を理解できる。 2. 公衆衛生学は、多くの専門分野の総合学であり、各専門学の学問領域を説明できる。 3. 各専門学の範疇である公衆衛生学上の重要事項について説明できる。 4. 管理栄養士として求められている学問レベルについて理解し、一定の質問には説明できる。 5. 国内外の最新情報に関心を抱き、公衆衛生問題についてはノートや教科書に加筆することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	地域保健と保健行政～地域社会と保健活動、地域保健活動の実際、消費者保健	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
2	地域保健と保健行政～行政施策、公衆衛生学会での研究成果など地域保健の実際	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
3	母子保健～乳児死亡・周産期死亡と母体、母子保健活動、行政サービスと課題	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
4	学校保健～子どもの健康、学校保健の特徴、健康診断と健康相談	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

5	学校保健～歯科保健、学校環境管理、学校保健教育	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
6	産業保健～産業保健の歴史、労働情勢・労働災害、労働衛生法規	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
7	産業保健～労働災害、職業病（1）	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
8	産業保健～職業病（2）、健康診断、労働時間、職場復帰	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
9	老人保健・福祉～健康状態、保健対策	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
10	老人保健・福祉～高齢者医療制度、福祉対策、介護保険	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
11	精神保健～基本知識、ストレスと精神健康の破綻、精神障害	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
12	精神保健～精神科疾患、精神保健福祉活動	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
13	国際保健医療～人種と民族と国、途上国の健康問題、日本の国際協力	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

14	保健医療福祉の制度と法規～保健医療行政の概要と基礎知識、行政の補償制度	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）
15	保健医療福祉の制度と法規～医療制度の仕組み、医療保険、医療と福祉の制度と法規	事前：予習はとくに必須としないが、人々や社会の健康に関する時事問題については、ニュースや新聞などで積極的に情報収集しておくことが望ましい。 事後：講義で配布された資料をもとに、教科書の当該分を確認する（180分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・教科書に準拠した講義を行うため、教科書を元に復習することが望ましい。
・小テストは講義済み内容に限らず、国家試験の過去問などを用いる。
　教科書記述が無い場合は別資料にて説明を行う。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	出席・小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
シンプル衛生　公衆衛生学	鈴木庄亮 監修	南江堂

参考書又は参考資料等

○「国民衛生の動向」厚生の指標増刊（厚生労働統計協会）
○「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学　改訂7版」監修：国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所（南江堂）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可。

授業科目名	社会福祉論		
担当者名	竹並　正宏	実務家教員	
科目コード	1100021	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	高齢者や障害児・者、児童、経済的困窮者などの抱える福祉課題や現状、社会福祉の制度や様々な専門職やボランティアによる活動について取り上げ、社会福祉に関する基礎的な知識を習得するとともに生活者としてのクライエントを見る視点を形成することをテーマに講義を実施する。 社会福祉は人々の生活に視点を置き、生活上の困難に対して様々なサービスや制度、ボランティアなど社会資源を用いてその問題を解決しようとする。
授業の到達目標〔学習成果〕	① 人々の生活に視点を置き、生活上の困難に対し様々なサービスや制度、ボランティアなど社会資源を用いて問題を解決することを目指す姿勢が身に付いている。 ② 栄養士がクライエントを支援しようとする時、栄養や食に対してサービスの提供を中心としつつ、クライエントの食や疾病以外も含めた理解することができる。 ③ 社会福祉に関する基礎的な知識を習得するとともに生活者としてクライエントを見る視点が身に付いている。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	福祉の意味と対象①	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
2	福祉の意味と対象②	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
3	社会福祉の法律と制度	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
4	生活保護の動向と課題	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
5	子どもとの家庭の福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
6	高齢者の福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）

7	障害者の福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
8	社会福祉について（KJ法によるグループワーク）①	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
9	社会福祉について（KJ法によるグループワーク）②	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
10	社会福祉について（KJ法によるグループワーク）③	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
11	ひとり親家庭の福祉・女性福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
12	社会福祉援助技術	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
13	地域福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
14	医療福祉	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）
15	まとめ	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（90分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

管理栄養士がクライエントを支援しようとする時には、栄養や食に対してのサービスの提供を中心としつつも、そのクライエントの食や疾病以外も含めた生活全体を見渡す力を学習するため社会の諸問題に興味や関心を示す。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み姿勢	レポート	定期試験	
20%	30%	50%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

福祉・栄養・看護のための改訂社会福祉論	赤木正典・平松政臣編著	建帛社

参考書又は参考資料等

毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。
視聴覚教育やＫＪ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

食を通して、地域社会や地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献することを要望する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	解剖生理学Ⅰ		
担当者名	田畑　純	実務家教員	
科目コード	1100022	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「人体の構造と機能」のうち、血液、循環器、消化器、泌尿器、生殖器、ヒトの発生について学ぶ。講義は指定教科書中心に組み立てるので該当箇所を予習しておくこと。ミニテストも随時実施する。		
授業の到達目標〔学習成果〕	解剖学、組織学、生理学の知識を身に付け、正しい概念と用語を用いて、説明できる力を修得する。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	総論1	解剖学、組織学、生理学の基礎（1章の予習と復習を各90分）
2	総論2	細胞、組織、器官、方向用語など（1章の予習と復習を各90分）
3	血液	赤血球、白血球、血漿、血液凝固（6章の予習と復習を各90分）
4	循環器系1	動脈、静脈、毛細血管（2章の予習と復習を各90分）
5	循環器系2	心臓、脈拍の調節、筋ポンプ（2章の予習と復習を各90分）
6	循環器系3	リンパ管、リンパ器官（2章と6章の予習と復習を各90分）
7	消化器系1	口腔、食道、嚥下の仕組み（4章の予習と復習を各90分）
8	消化器系2	胃、十二指腸、小腸、大腸（4章の予習と復習を各90分）
9	消化器系3	肝臓、胆嚢、膵臓（4章の予習と復習を各90分）
10	運泌尿器系1	腎臓（5章の予習と復習を各90分）
11	泌尿器系2	尿道、膀胱（5章の予習と復習を各90分）
12	生殖器系1	男性生殖器（11章の予習と復習を各90分）
13	生殖器系2	女性生殖器（11章の予習と復習を各90分）
14	発生	受精、着床、胚盤、胎児（11章の予習と復習を各90分）
15	予備日	

準備学習・事後学習等についての補足説明

予復習については指定教科書をしっかり読み、重要なところを覚えること。専門用語は正しく覚え、使えるようになること。漢字などは正しく書けるようにする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	ミニテスト	受講状況	
70%	20%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

なるほどなっとく！解剖生理学	多久和典子、多久和陽	南山堂

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	解剖生理学 II		
担当者名	田畑　純	実務家教員	
科目コード	1100023	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法〔実務家教員について	「人体の構造と機能」のうち、骨、関節、筋、呼吸器、皮膚と免疫、内分泌、感覚器について学ぶ。講義は指定教科書を中心に組み立て、随時、ミニテストを実施する。		
授業の到達目標〔学習成果〕	解剖学、組織学、生理学の知識を身に付け、正しい概念と用語を用いて、説明できる力を修得する。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	骨学1	体幹と四肢の骨（10章の予習と復習を各90分）
2	骨学2	頭部の骨（10章の予習と復習を各90分）
3	関節と筋	関節、靱帯、腱、筋（10章の予習と復習を各90分）
4	呼吸器系1	鼻腔、咽頭、喉頭、声帯（3章の予習と復習を各90分）
5	呼吸器系2	気管支、肺、呼吸のしくみ（3章の予習と復習を各90分）
6	皮膚と免疫系	抗体、自然免疫、獲得免疫（6章の予習と復習を各90分）
7	神経1（中枢神経）	脳、脳幹、脊髄（8章の予習と復習を各90分）
8	神経2（末梢神経）	脳神経、脊髄神経（8章の予習と復習を各90分）
9	神経3（神経支配）	運動神経、感覚神経、自律神経（8章の予習と復習を各90分）
10	内分泌系1	下垂体、視床下部、副腎（7章の予習と復習を各90分）
11	内分泌系2	甲状腺、副甲状腺、その他（7章の予習と復習を各90分）
12	感覚器1	目、鼻、耳（9章の予習と復習を各90分）
13	感覚器2	舌、皮膚（9章の予習と復習を各90分）
14	予備日	
15	予備日	

準備学習・事後学習等についての補足説明

予復習については指定教科書をしっかり読み、重要なところを覚えること。専門用語は正しく覚え、使えるようになること。漢字などは正しく書けるようにする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	ミニテスト	受講状況	
70%	20%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
なるほどなっとく！解剖生理学	多久和典子、多久和陽	南山堂

参考書又は参考資料等	
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	生化学Ⅰ		
担当者名	渡邉　啓一	実務家教員	
科目コード	1100024	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	生化学は複雑な生命現象を分子レベルで理解しようとする学問である。生化学Ⅰでは、まず生物の基本単位である細胞の構造と機能を把握し、生体構成成分の分子構造に基づいて、それらの性質や生体内での機能を理解する。次いで糖質代謝とその調節や生体エネルギー産生との関係を理解する。これらは後続の生化学II、基礎栄養学、食品学、応用栄養学、臨床栄養学の基本をなすもので十分な理解が求められる。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1)糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質の構造を理解する。 2)上記物質の性質及び生理的機能について理解する。 3)酵素反応の仕組みとその調節について理解する。 4)糖質代謝とその調節や生体エネルギー産生との関係を理解する。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	細胞の構造と機能：細胞の基本構造、細胞質、細胞小器官、細胞骨格、生体膜、細胞同士の結合	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
2	糖質：構造と性質、分類	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
3	脂質：構造と性質、分類	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
4	タンパク質とアミノ酸：アミノ酸の構造、種類、性質	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
5	タンパク質とアミノ酸：ペプチドの構造と性質、タンパク質の分類、構造と性質	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
6	酵素：分類と性質	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
7	酵素：酵素反応速度論、酵素活性の調節	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
8	核酸：核酸とは、ヌクレオチドの構造、ヌクレオチド鎖の構造	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
9	核酸：核酸の種類、核酸と遺伝子	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
10	ビタミン：ビタミンとは、脂溶性ビタミン	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
11	ビタミン：水溶性ビタミン	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
12	ミネラル：ミネラルとは、生理的意義、多量ミネラル、微量ミネラル	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
13	糖質の代謝(1)：糖質の消化と吸収、解糖系	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)

14	糖質の代謝(2)：クエン酸回路、グルコースの完全酸化、ATP合成の収支、グリコーゲンの合成と分解	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)
15	糖質の代謝(3)：糖新生、糖の相互変換経路、血糖値の調節、糖代謝の異常と病気	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

復習問題は、毎週、Googleフォームで出題します。毎週、期限までに解答を送信してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	復習問題	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド　生化学	園田　勝（編）	羊土社

参考書又は参考資料等

ヴォート生化学　D.Voet等著　田宮　信雄訳　東京科学同人

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

復習問題は、管理栄養士国家試験からの抜粋です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	生化学 II		
担当者名	渡邉　啓一	実務家教員	
科目コード	1100025	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	生化学 II は、代謝とその調節機構やエネルギー産生と利用など動的な面を中心とした内容となる。脂質、たんぱく質、核酸について、各々の代謝、各代謝の相互関連やバランスを理解する。さらに、遺伝子発現とその制御や生体防御機構を理解し、関連専門科目に対応できる知識を修得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 脂質、たんぱく質及び核酸の代謝を理解する。 2) 各代謝の相互関係とともに代謝の全体像を理解する。 3) 遺伝子発現とその制御、たんぱく質生合成との関連を理解する。 4) 生体における情報伝達機構とホメオスタシスの維持の仕組みを理解する。 5) 生体防御機構を理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	脂質の代謝（1）：脂肪酸の生合成及び酸化、ケトン体の生成、不飽和脂肪酸とエイコサノイドの代謝	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
2	脂質の代謝（2）：トリアシルグリセロール・リン脂質の代謝、脂質の輸送と蓄積	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
3	脂質の代謝（3）：コレステロールの生合成・輸送・蓄積及び代謝産物、脂質の代謝異常	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
4	タンパク質の分解とアミノ酸代謝（1）タンパク質の分解とアミノ酸プール、アミノ酸の炭素骨格と窒素の代謝	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
5	アミノ酸の代謝（2）アミノ酸から合成される生体物質、アミノ酸の代謝異常	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
6	生体エネルギー学：高エネルギーリン酸化合物、生体酸化、呼吸鎖と酸化的リン酸化	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
7	中間代謝の概要：糖質代謝と脂質代謝の相互関係	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
8	中間代謝の概要：糖質代謝とアミノ酸代謝	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
9	ムクレオチドの代謝：プリンヌクレオチド、ピリミジンヌクレオチド及びデオキシリボヌクレオチドの生合成、核酸の分解	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
10	遺伝子発現とその制御：生命の基本原理、核酸とタンパク質の合成	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
11	遺伝子発現とその制御：遺伝子発現の調節、DNAの損傷と修復、遺伝子病	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)
12	遺伝子発現とその制御：栄養素と遺伝子、遺伝子と多型、遺伝子工学	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う (90分)

13	個体の調節機構とホメオスタシス：情報伝達の機序と役割、情報伝達物質と細胞応答	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う（90分）
14	個体の調節機構とホメオスタシス：ホルモンと生体調節	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う（90分）
15	生体防御機構：免疫機構とその特徴、アレルギー、自己免疫疾患と免疫不全	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した問題を解きながら、復習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

復習問題は、毎週、Googleフォームで出題します。毎週、期限までに解答を送信してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	復習問題	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド　生化学	園田　勝（編）	羊土社

参考書又は参考資料等

ヴォート生化学　D.Voet等著　田宮　信雄訳　東京科学同人

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

復習問題は、管理栄養士国家試験からの抜粋です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	病態生理学		
担当者名	沖　勉	実務家教員	
科目コード	1100110	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	各種疾病に対する栄養学的な評価法、治療法を理解するために必要な基礎科目である。 本講義では、各種疾病の病態について生理学的および臨床病理的な内容とそれらの病態メカニズムなどについて学ぶ。 講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。
授業の到達目標〔学習成果〕	①　病態を理解し、その原因ならびに治療について簡単に説明できる。 ②　栄養学が疾病にどのように関与するのかを理解し、疾病の治療での栄養管理の役割について簡単に説明できる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	疾患診断・治療の概要	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
2	糖尿病	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
3	肥満、脂質代謝異常、高尿酸血症・痛風	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
4	消化性潰瘍、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
5	肝炎、肝硬変、脂肪肝	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
6	高血圧、動脈硬化、虚血性心疾患、心不全	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
7	急性腎症候群、ネフローゼ症候群、腎不全、CKD	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
8	甲状腺機能亢進症・低下症、原発性アルドステロン症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
9	脳出血、脳梗塞、認知症、パーキンソン病	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）

10	COPD、気管支喘息、肺炎	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
11	骨組織、骨粗鬆症、フレイル、サルコペニア	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
12	生殖器の悪性新生物	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
13	貧血、出血性疾患	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
14	自己免疫疾患、免疫不全症候群	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
15	感染症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。
復習のために、Googleフォームでの「小テスト」を毎回実施する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
カレント　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち2	志村二三夫、石田均 編著	建帛社

参考書又は参考資料等

既に購入している他の教科の教科書（生化学、解剖生理学、臨床医学など）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

講義中の私語は厳禁。
他の受講生の迷惑になるので退室させる。
質問があれば、挙手して適宜質問すること。
小テストは成績評価の対象なので、毎週送信すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	疾病の成り立ちと病態		
担当者名	沖　勉	実務家教員	
科目コード	1100026	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	疾病の発症のメカニズム、疾病による人体の構造や代謝の変化、疾病の症状・合併症、疾病の診断方法、疾病の治療全般について学ぶ。 講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。		
授業の到達目標	疾病の病因・病態、症状、診断、治療について理解し、簡単に説明することができる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	疾患診断の概要：問診、全身状態の測定、全身症候、その他の症候・病態	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
2	検体検査：基準値の設定、尿検査、便検査、血液学検査　等	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
3	生理機能検査、画像検査：心電図、呼吸機能検査、CT、MRI、エコー、内視鏡	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
4	疾患の治療：治療の種類、治療方法	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
5	加齢・疾患に伴う変化、個体の死	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
6	循環器系疾患①：循環器の解剖生理の復習、心不全、	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
7	循環器系疾患②：動脈硬化、虚血性心疾患・高血圧症・不整脈	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
8	腎疾患①：腎臓の解剖生理の復習、急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
9	腎疾患②：ネフローゼ症候群、腎不全、CKD	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)
10	尿路系疾患：尿路結石、前立腺肥大症、腎・尿路系がん 皮膚系疾患：皮膚の構造、熱傷、褥瘡	予習：教科書の該当箇所の確認　(20分) 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(20分)

11	呼吸器系疾患①：呼吸器の解剖生理の復習、上気道炎、肺炎、肺結核	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
12	呼吸器系疾患②：COPD、気管支喘息、肺がん	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
13	運動器（骨格系）系疾患：骨の復習、骨粗鬆症、変形性関節症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
14	血液系疾患①：血液の復習、貧血総論、鉄欠乏性貧血、その他の貧血	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
15	血液系疾患②：白血病、悪性リンパ腫、出血傾向をきたす疾患	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。
復習のために、Googleフォームでの「小テスト」を毎回実施する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド　臨床医学　疾病の成り立ち　第3版	田中　明、宮坂京子等 編	羊土社

参考書又は参考資料等

既に購入している他の教科の教科書（生化学、解剖生理学など）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

講義中の私語は厳禁。
他の受講生の迷惑になるので退室させる。
質問があれば、挙手して適宜質問すること。
小テストは成績評価の対象なので、毎週送信すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	運動生理学		
担当者名	倉﨑　信子	実務家教員	
科目コード	1100027	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	現代生活は、機械化・省力化による運動不足が生活習慣の一因であることが明らかである。健康を維持・増進するためには適切な栄養とともに生活の中に運動習慣を取り入れる必要がある。本講義では身体運動によって体にどのような変化が生ずるか、その現象としくみについて学び、身体運動と食の関わりについて理解を深める
授業の到達目標〔学習成果〕	・身体活動が身体に及ぼす影響としくみについて理解する。 ・身体運動と食事の関わりについて理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：講義の目的・内容・学習方法の説明	事前：テキスト2章を通読しておくこと（90分） 事後：運動は健康を増進するエビデンスを調べ、章末予想問題、で復習する（90分）
2	環境への適応 (1)　内部環境とホメオスタシス	事前：1章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）
3	環境への適応 (2)　ストレス学説、ストレスと中枢神経系、内分泌系、免疫系	事前：1章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）
4	運動と筋、骨系(1)　骨の構造と機能	事前：4章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
5	運動と筋、骨系(2)　骨格筋の構造と機能	事前：4章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
6	運動・スポーツとエネルギー(1)　エネルギー供給系	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
7	運動・スポーツとエネルギー(2)　運動と酸素摂取	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
8	運動・スポーツとエネルギー(3)　エネルギー代謝、エネルギー消費量	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
9	運動と循環器系(1)　運動の心臓・脈管系に対する影響、血管調節機構	事前：5章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
10	運動と循環器系(2)　運動に伴う循環系の反応、運動負荷と最大酸素摂取量	事前：5章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
11	運動と呼吸器系(1)　呼吸器系のしくみ、呼吸運動の調節	事前：6章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
12	運動と呼吸器系(2)　高地滞在による生理学的変化	事前：6章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）
13	運動と神経系(1)　　運動制御における運動信号の出力、入力経路	事前：7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
14	運動と神経系(2)　　反射　伸張反射、相反抑制、自原抑制、屈曲反射	事前：7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問、配布資料で復習する（90分）

15	運動中の栄養摂取	事前：10.7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に解剖、生理学を復習しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み態度		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
エキスパート　管理栄養士養成シリーズ　運動生理学	山本順一郎 編	化学同人

参考書又は参考資料等

・講義中に適宜、資料を配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

予想問題については、「誤っているもの」を正文化する。必要に応じ提出を求めることがある。
初出の用語についてはノートに整理することを勧める。
教科書の予想問題の解答解説は、教科書名より検索できます。
予想問題の正文化したノートの提出を求めた場合は成績評価に加味します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	微生物学		
担当者名	坂尻　徹也	実務家教員	
科目コード	1100028	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	微生物は種々の病気を引き起こす一方、生活に役立つ発酵・醸造食品、工業的発酵生産物の製造・生産のために必要である。本科目では、食品衛生の観点から微生物の様々な性質について基礎から学習する。微生物の取扱い・利用についてのプレゼンテーションを行う。		
授業の到達目標〔学習成果〕	・微生物学の生理について理解し、微生物の取り扱いについて習得する。 さらに、微生物が関与する疾病を学び、微生物の利用について習得する。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	微生物学の歴史	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
2	微生物の種類と分類	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
3	微生物の増殖方法と測定法	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
4	微生物の細胞構造	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
5	微生物の食品への利用	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
6	微生物の栄養と増殖	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
7	微生物の殺滅法	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

8	食品の保存と微生物との関係性	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
9	食中毒と微生物(1)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
10	食中毒と微生物(2)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11	食中毒と微生物(3)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12	食中毒と微生物(4)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13	消毒薬と抗菌薬	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14	薬剤耐性菌	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15	まとめ ＊第1回~14回の内容でグループ別 プレゼンテーションを行う。	事前：プレゼンテーションに向けて復習し、グループごとにまとめる。（90分） 事後：プレゼンテーションについて感想をレポートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。
・覚える事項が多いため、授業の復習をこまめに行うことが望ましい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み	中間テスト	
50%	20%	30%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
予防薬学としての衛生薬学	山野茂・戸田晶久　編集	建帛社

参考書又は参考資料等
講義中に適宜資料を配布する。
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・管理栄養士としてだけでなく、日常生活においても留意すべき食品管理の方法などを学んでいきます。 疑問に思ったことはそのままにせず、すぐに解決する癖をつけましょう。
担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	生化学実験		
担当者名	渡邉　啓一	実務家教員	
科目コード	1100029	授業形態	実験
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	生化学実験では、「生化学」の講義で学んだ主要な事項について理解を深めることを目標にしている。まず、生化学検査で測定される尿のクレアチニンや血糖値などの測定を行う。ついで生命現象に深く関わるタンパク質の分離や遺伝子の本体であるDNAの抽出・単離など基本的な取り扱い方法を習得する。また、酵素の活性測定法や反応速度論についても理解する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)生化学検査の手法を習得することで、その必要性が説明できるようになる。 2)生命現象に関わるタンパク質やDNAを取扱うことで、生命の営みについて理解が深まる。 3)in vitroの酵素反応実験により、生体内の酵素反応の特徴が理解できるようになる。 4)実験器具・機器の操作や生体内物質の取扱いに習熟する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	概要説明：実験内容・実験上の注意・ レポート作成・器具の取扱いなど	※補足説明欄参照のこと
2	ヤッフェ法による尿のクレアチニンの定量	〃
3	タンパク質の定量： ローリー法による卵白のタンパク質の定量	〃
4	物質の分離(1)： 紫外部吸収法による卵白のタンパク質の定量と 溶解性による分画	〃
5	物質の分離(2)： タンパク質の電気泳動 (ポリアクリルアミドゲルの作成)	〃
6	物質の分離(3)： タンパク質の電気泳動(泳動と分子量の推定)	〃
7	DNA(1)：肝臓からのDNAの抽出と単離	〃
8	DNA(2)：DNAの紫外吸収とその変化	〃
9	細胞分画(1)： ミトコンドリアの分離とマーカー酵素(GDH) による純度	〃
10	細胞分画(2)： サイトゾルの分離とマーカー酵素(LDH) による純度	〃
11	酵素反応(1)：アルカリフォスファターゼ活性と酵素量	〃
12	酵素反応(2)：アルカリフォスファターゼ活性と反応時間	〃

13	酵素反応(3)： 　アルカリフォスファターゼ活性のKm・Vmax値と阻害	〃
14	各班ごとに割り当てられた実験の目的、方法、結果及び考察についてパワーポイントにまとめ発表し、クラス全体で質疑応答を行い理解を深める。	〃
15	全実験についての練習問題を実施し、 グループディスカッションを行い、まとめをする	〃

準備学習・事後学習等についての補足説明

①準備学習として、前もって配布された次回のプリントで実験手法や手順を把握しておく（45分）。
②事後学習として、レポートを作成する際に、関連情報を書籍やインターネット等でよく調べ理解を深める（90分）。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取組み	
60%	20%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない（資料を配布）		

参考書又は参考資料等

○「Nブックス実験シリーズ　生化学実験」（建帛社）
・その他実験室に常備

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・各種器具や試薬の特性を理解し、安全には十分に留意すること。
・提出されたレポートは添削・評価し、次回に返却するので、事後学習及び定期試験に活用すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	実験終了後10分間は実験室又は準備室にて質問等対応可。

授業科目名	解剖生理学実習		
担当者名	田畑　純	実務家教員	
科目コード	1100030	授業形態	講義・実習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員について	解剖生理学の講義で得た知識をもとに、解剖学と組織学の観察実習を行う。時間内に課題（スケッチやレポート）を完成させて提出する。事前に該当箇所の復習をしておくこと。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 人体の観察方法と記載の方法を修得し、正確な用語と概念を用いたスケッチやレポートを書けるようにする。 2. マクロ解剖（骨学・筋学）では構造理解だけでなく動きをイメージできるようにする。 3. 顕微鏡観察（組織実習）ではさまざまな構造の立体的な配置をイメージできるようにする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	骨学実習1	① 脊椎、胸郭、骨盤
2	骨学実習2	② 肩帯と上肢
3	骨学実習3	③ 骨盤と下枝
4	骨学実習4	④ 頭蓋骨　　各自で①～④をローテーションする
5	筋学実習	脊椎の筋、四肢の筋
6	組織実習1	① 胃、小腸
7	組織実習2	② 肝臓、膵臓
8	組織実習3	③ 脳下垂体、副腎
9	組織実習4	④ 筋、神経
10	組織実習5	⑤ 皮膚、気管　　各自で①～⑤をローテーションする
11	喉頭・咽頭・声帯	立体紙模型を用いた学習
12	動物の解剖	解説＋実習
13	動物の解剖	解説＋質疑応答＋課題提出
14	予備日	
15	実習テスト	

準備学習・事後学習等についての補足説明

実習課題や資料は毎回配布する。参考資料も提示するので、活用すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題提出	受講状況	
40%	50%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

なるほどなっとく！解剖生理学

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	解剖生理学実験		
担当者名	田畑　純	**実務家教員**	
科目コード	1100031	**授業形態**	講義・実験
学年	2年	**開講期**	2024年度前期
単位数	1	**履修**	必修・栄養士必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	解剖生理学の講義で得た知識をもとに、生理学の観察実習を行う。時間内に課題（スケッチやレポート）を完成させて提出する。また、実験によっては班ごとにプレゼン発表と質疑応答を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 実験や計測に必要な器具の使い方や数値の読み方を学ぶ。 2. 対照群（たとえば安静状態）と実験群（たとえば運動状態）の設定方法と比較方法を学ぶ。 3. 実験の目的、方法、結果、考察の4つの概念を学ぶ。 4. 正確な用語と概念を用いたレポートを書けるようにする。 5. 研究発表の方法や質疑応答の仕方を学ぶ。

授業計画		**準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間**
1	末梢組織	毛細血管の観察、血球観察
2	バイタルサイン1	①体温、②心拍数と脈拍数
3	バイタルサイン2	③血圧、④呼吸数　　各自で①～④をローテーションする
4	バイタルサイン3	温冷刺激実験、運動負荷実験
5	バイタルサイン4	報告会：班ごとに発表と質疑応答
6	呼吸生理	肺活量の計測
7	感覚生理1	味覚試験のための溶液づくり（糖・塩・酸）
8	感覚生理2	味覚試験（糖・塩・酸）
9	感覚生理3	皮膚実験、視覚実験
10	感覚生理4	報告会：班ごとに発表と質疑応答
11	心電図1	四肢誘導（安静時計測）
12	心電図2	四肢誘導（運動後計測）
13	心電図3	報告会：班ごとに発表と質疑応答
14	予備日	
15	実習テスト	

準備学習・事後学習等についての補足説明

実習課題や資料は毎回配布する。参考資料も提示するので、活用すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題提出	受講状況	
40%	50%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「解剖生理学・病理学 第7版」　　著者：加藤昌彦ほか　　出版社：第一出版		
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授業科目名	食品学総論		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100032	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品を総論的に解説し、食品学各論、食品加工や機能性などを学習するための基盤的知識を習得する。人間と食品の関わり、食品の主要成分、微量成分、嗜好成分、物性、生体調節機能成分、食品表示制度などについて具体例をあげて解説する。特に食品成分の種類と構造、化学的・物理的性質を詳しく解説して理解を深める。
授業の到達目標〔学習成果〕	① 食品の一次機能成分（たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）の構造や化学的性質を理解する。 ② 食品の二次機能成分（水分、色素成分、呈味成分、香気・におい成分）の構造や性質を理解する。 ③ 食品の物理的な特性（物性、テクスチャー）について理解する。 ④ 食品の三次機能（生理機能性）とその成分、作用メカニズムの基本について理解する。 ⑤ 身につけた知識を他の専門科目や実生活においてもその知識を応用・活用できるようになるための練習を積む。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	第1章 人間と食品（食文化と食生活、食生活と健康）	準備：テキスト指定範囲(p.1-12)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
2	第1章 人間と食品（食料と環境問題）	準備：テキスト指定範囲(p.12-23)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
3	第2章 食品の一次機能（水、たんぱく質）	準備：テキスト指定範囲(p.23-30)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
4	第2章 食品の一次機能（たんぱく質）	準備：テキスト指定範囲(p.30-41)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
5	第2章 食品の一次機能（酵素、炭水化物）	準備：テキスト指定範囲(p.41-57)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
6	第2章 食品の一次機能（食物繊維、脂質）	準備：テキスト指定範囲(p.57-70)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
7	第2章 食品の一次機能（脂質）	準備：テキスト指定範囲(p.70-78)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
8	第2章 食品の一次機能（ビタミン）	準備：テキスト指定範囲(p.79-96)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
9	第2章 食品の一次機能（ミネラル）	準備：テキスト指定範囲(p.96-104)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
10	第3章 食品の二次機能（色素成分）	準備：テキスト指定範囲(p.107-115)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
11	第3章 食品の二次機能（呈味成分、香気・におい成分）	準備：テキスト指定範囲(p.115-123)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
12	第3章 食品の二次機能（コロイド、テクスチャー）	準備：テキスト指定範囲(p.123-129)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

13	第3章 食品の二次機能（官能評価）	準備：テキスト指定範囲(p.129-134)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
14	第4章 食品の三次機能（消化管内で機能する成分他）	準備：テキスト指定範囲(p.134-142)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
15	第4章 食品の三次機能（免疫系で作用する成分他）、小テスト	準備：テキスト指定範囲(p.142-151)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

① 準備学習として、授業計画に従って授業を進めるので、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにし、授業に臨むこと。
② 事後学習として、授業で学習した部分を簡潔にまとめながら復習する。疑問があれば質問して解決しておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	授業への取り組み状況	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食べ物と健康　「食品の科学」	太田英明・白土英樹・古庄　律　編	南江堂

参考書又は参考資料等

食べ物と健康Ⅰ「食品学総論」食品成分と機能　寺尾純二・村上明　編　中山書店
参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

① 食品学総論の内容は、食品に関する科目（食品学各論、食品加工学など）だけでなく、生化学、栄養学、調理学などとも密接に関連しています。
② 覚えることが多い科目ですが、答だけを丸暗記するようなことはしないで、教科書を中心に必ず予習復習をして理解を深め、他の科目でもその知識を活用することが大切です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	食品衛生学		
担当者名	坂尻　徹也	実務家教員	
科目コード	1100033	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品の安全性を確保するためには食品の衛生管理が重要である。本講義では、飲食によって発生する健康上の危害を防止する内容を学ぶ。食品衛生について興味を持ったことをグループごとにプレゼンテーションを行う。		
授業の到達目標〔学習成果〕	食品衛生に関する法規、食品の変質、食品成分の変質、飲食による食中毒及び感染症、食品中の汚染物質、食品添加物、食品衛生管理について学び、食品の衛生管理についての知識を習得する。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	食品衛生とは　―食のリスクと関連法規―	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
2	食品の変質　(1)腐敗	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
3	食品の変質　(2)油脂の酸化	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
4	食品の変質　(3)鮮度の判定と劣化測定	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
5	食品の変質　(4)変質防止法	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
6	食品保存と容器包装	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
7	食中毒　(1)細菌性食中毒	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

8	食中毒　(2)自然毒食中毒　(3)化学性食中毒	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
9	食中毒予防	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
10	残留農薬	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11	食品添加物(1)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12	食品添加物(2)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13	食品表示	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14	特別食品	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15	まとめ ＊第1回~14回の内容でグループ別 プレゼンテーションを行う。	事前：プレゼンテーションに向けて復習し、グループごとにまとめる。（90分） 事後：プレゼンテーションについて感想をレポートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。実施した小テストと、配布したプリントの内容も学習すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み	小テスト	
50%	20%	30%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
予防薬学としての衛生薬学	山野茂・戸田晶久　編集	廣川書店

参考書又は参考資料等	
講義中に適宜資料を配布する。	
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
・実施した小テストや、配布プリントの内容をしっかり復習すること。授業内容を理解し、覚えるための工夫を各自で行うことが重要です。	
担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品加工学		
担当者名	杉元　康志	実務家教員	
科目コード	1100034	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品学総論およぼ各論で学んだ一般的知識と食品の個々の化学的性質や栄養的特性を十分理解した上で、食品加工学を学ぶ。貴重な食品を有効に活用し、付加価値を増すために加工の目的をしっかりと理解することが必要である。加工の目的である食品の貯蔵および加工法について説明する。食品成分の貯蔵・加工中の変化について個々の食品を取り上げ解説する。加工に関わる問題点や管理栄養士として必要な知識および取り組み方も習得する。発酵の目的と方法、食品表示についても解説する。　学生は食品学総論及び各論を十分復習し、本講義の意義を確認しながら食品加工学を学ぶ。
授業の到達目標〔学習成果〕	・食品加工学および食品貯蔵学を管理栄養士として十分習得することを目指す。 本講義で学んだことが食と健康の分野に大いに活用できるよう食の熟知者となることを期待する。 管理栄養士として加工食品について十分な知識と素養を身につける。 管理栄養士国家試験における食と健康の問題を正解できる能力を養う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義の概要：食品加工・貯蔵の意義と目的	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
2	食品成分の基礎１：タンパク質、糖質、脂質	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
3	食品成分の基礎１ービタミン、ミネラル、 食品の２次機能性、食品の３次機能性	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
4	食品加工の原理と技術1 食品加工の目的と原理	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
5	食品加工の原理と技術2 食品の物性、品質変化	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
6	食品加工の原理と技術3 食品の特性と加工、食品の包装	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)

7	植物性食品の栄養と加工1	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
8	植物性食品の栄養と加工2	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
9	植物性食品の栄養と加工3	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
10	動物性食品の栄養と加工1	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
11	動物性食品の栄養と加工2	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
12	各種食品、発酵食品	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
13	食品の機能性、機能性食品	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
14	食品表示と規格1	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
15	食品表示と規格2	事前:ディベートに向け、初回~14 回の内容についてノートを活用し復習する。(90分) 事後:レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・食品学の基礎をしっかりマスターすること。食品加工学の意義をよく理解し、興味を持って資料などの収集に努めること。自分で講義ノートを作成することを勧める。農林水産省、厚生労働省、消費者庁などのwebサイトや食品関連専門書を参考にして予習、復習をすること

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト・レポート	授業態度（予習・復習を含める）	
70%	10%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食べ物と健康ー食品の栄養成分と加工　改訂第2版	國﨑直道、西塔正孝　著	同文書院

参考書又は参考資料等

・講義中に、補足資料を必要に応じて配布する。
・太田英明ら著、食べ物と健康：食品の科学ー改訂第2版（南江堂）
・太田英明ら著、食べ物と健康：食品の加工ー改訂第2版（南江堂）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※予習復習を怠らないこと。講義内容について必ずノートに記録し、内容について正しく理解するように努めること。
※ノート提出を求めることがある。
※また、配布したプリントやパワーポイントの内容をよく勉強すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	調理学		
担当者名	楠瀬　千春	実務家教員	
科目コード	1100035	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	調理学とは、調理全般の基礎知識と調理操作の意義を理論的に学び、調理過程が栄養・嗜好に及ぼす影響について科学的な視点から理解する基礎科目である。食は単に栄養素を摂取して生命を維持するためだけでなく、「おいしい食事」に伴う精神的意義は大きい。さらに食事や調理法は歴史的背景を反映して発展してきた文化の一つであり、対象者に適した献立作成する上でその背景の理解が必要である。これら美味しい食事を提供するために必要な調理に関する知識を総合的に理解する。
授業の到達目標〔学習成果〕	安全でおいしい食事の提供を可能とするため、食事計画、食材の選択、調理、供食にいたるまでの一連の過程を十分に理解する。食品の調理特性と調理操作の意義を結びつけ、深く理解することによって、将来管理栄養士として傷病者に食事を提供する際に要求される多様な調理条件に、対応するための基礎知識を習得する。管理栄養士として、調理員等へ調理科学的な観点から調理指導ができるようになる。また、単に生命維持のためではない豊かな食事の提案ができるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：授業評価及び授業の進め方について　調理の定義と意義	予習：シラバス、教科書の前書きを読み、本講義科目の特徴と到達目標と各自の目標を確認する。（90分） 復習：科目の特徴と到達目標を確認する。各自が目標を達成するための計画を立案する。（90分）
2	調理操作：加熱調理操作①　加熱調理操作の分類　湿式加熱　乾式加熱	予習：熱を伝える3つの方法を調べて、第三者に説明できるまで理解を深める。教科書の指定箇所を読む。（90分） 復習：調理操作の分類を踏まえ、どのような調理操作が各々に該当するのかを調べる（90分）
3	調理操作：加熱調理操作②　乾式加熱　焼く　直火　間接焼き	予習：教科書の指定箇所を読み、記述されている内容の中で理解できなかったところを明確にする。（90分） 復習：乾式加熱に分類される「焼く」調理操作について、要点をノートにまとめる（90分）
4	調理操作：加熱調理操作③　乾式加熱　揚げる　炒める　オーブン加熱	予習：教科書の指定か所を読み、記述されている内容で理解できなかったところを明確にする。比熱と熱容量について調べ、ノートにまとめ、授業に備える。（90分） 復習：「揚げる」および「炒める」調理操作の特徴を理解する。また、乾式加熱のまとめを行う（90分）
5	調理操作： 加熱調理操作④　誘電加熱・誘導加熱	予習：電磁波について調べる（90分） 復習：食材の温度上昇の要因が大きく異なることに焦点を当てて、誘電加熱と誘導加熱を対比させながらまとめる。同じような形状の加熱機器であるオーブンとの違いについても理解しておく。（90分）

6	調理操作：加熱調理操作⑤　湿式加熱　茹でる 煮る　蒸す 非加熱調理操作①計量 洗浄 浸漬 切る 砕く 混ぜる	予習：第2回の講義の際に学習した加熱調理操作の分類を確認する。（60分） 復習：湿式加熱調理操作にどのような調理法があるのかを調べてまとめる。非加熱調理操作の各調理操作の特徴を理解する。第2回から6回までの加熱調理操作と非加熱調理操作について総合的にまとめておく。（120分）
7	栄養計算：栄養計算の基礎・献立作成	予習：成分表の使用方法を読み、理解する。（90分） 復習：栄養計算および献立の基礎を復習し、実際に成人の1日当たりの献立を立てる。（90分）
8	植物性食品の調理特性と調理法：米の調理	予習：米に関する該当箇所を読み、分からない単語等を調べる。（60分） 復習：米の調理方法を世界に目を向けて調査する。（120分）
9	植物性食品の調理特性と調理法：米製品の調理	予習：米製品について、調べる（30分） 復習：市販の製品にどのようなものがあるかについて市場調査を行う（180分）
10	植物性食品の調理特性と調理法：小麦粉の調理性①　グルテン	予習：小麦粉の種類を調べる（60分） 復習：小麦粉を利用した調理についてまとめ、世界の調理方法を調べる（120分）
11	植物性食品の調理特性と調理法：小麦粉の調理性②　小麦でんぷんとその他のでんぷんの調理性	予習：でんぷんについて、調べる（60分） 復習：小麦粉に含まれるでんぷんとその他のでんぷんについて理解を深める（120分）
12	植物性食品の調理特性と調理法：野菜・豆・イモ類・	予習：野菜・豆・イモ類について教科書の指定箇所を読み、分からないところを明確にする（60分） 復習：調理性について理解を深め、これらを使用した料理を調べる（120分）
13	動物性食品の調理特性と調理法：食肉・魚介類の調理性	予習；該当箇所を読み、分からないところを明確にする。（60分） 復習：肉と魚について料理方法を調べる（120分）
14	動物性食品の調理特性と調理法：牛乳・鶏卵の調理性	予習：該当箇所を読み、種類を市場調査する（120分） 復習：予習で調査した結果と授業内容を合わせて整理する。第７回から14回までの各食材の調理性をまとめる（180分）
15	嗜好性　まとめ 嗜好の要因と評価　食文化　食具まとめ	予習：食具について調べる（60分） 復習：これまでのまとめ学習を行う（120分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・教科書の指定箇所を読み、知らない語句や漢字があれば事前に調べておく。
・わからない事項、興味のある事項を明らかにしてから授業に臨む。
・事後は、授業で学習した事項を復習する。授業の内容の関連事項を調べる。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

食べ物と健康　調理学	金谷昭子　編著	医歯薬出版
七訂 食品成分表2023	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部

参考書又は参考資料等

○「Nブックス　調理科学［第3版］」（建帛社）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、定期試験の結果と授業時間内に実施する小テスト結果を合わせて総合評価する。

・この講義では、前回の講義で学習した知識を利用して、次回の講義が理解できるように構成されている。

前回の講義で得た知識が自分のものとなるまで理解したうえで次回の授業を受講すること。

・同時開講の調理実習と関係が深く、本講義の授業内容と関連付けて理解を深めること。

中学校理科、熱と温度（熱の伝わり方3つ）、比熱、熱容量を利用した授業内容である。また、割合計算が必要とされるので、受講前までに復習をしてできるようにしておく。

授業は、講義形式であるが、要所要所に学生同士のディスカッションを取り入れるので、積極的に発言すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品学実験Ⅰ		
担当者名	杉元　康志、小野　要、坂尻　徹也	実務家教員	
科目コード	1100036	授業形態	実験
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	日本食品標準成分表に記載されている一般成分の水分、たんぱく質、炭水化物、脂質、灰分の測定と算出に関しての技術を習得し、成分表に対する理解を深める。また、水分活性、全糖、還元糖の測定を行い、食品分析の基礎的技術を習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	①一般分析の実施によって、基礎的な分析・測定技術を習得する。 ②水分、たんぱく質、炭水化物、脂質、灰分の含量及びエネルギー量を求める方法を知る。 ③水分活性の測定から食品の保存性について理解を深める。 ④データの解析と報告書作成の基本を理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	実験の概要説明（資料配付、諸注意他）	
2	一般分析用の試料（動物性食品と植物性食品）の調製	
3	水分の定量（秤量容器の恒量測定）	
4	水分の定量（常圧加熱乾燥法）	
5	脂質の定量（ソックスレー抽出法（抽出））	
6	脂質の定量（ソックスレー抽出法（定量））	
7	たんぱく質の定量（ケルダール法（分解））	
8	たんぱく質の定量（ケルダール法（蒸留、滴定））	
9	灰分の定量（乾式灰化法）	
10	炭水化物の算出（差し引き法）	
11	エネルギーの算出（エネルギー換算係数の適用）	
12	水分活性の測定	
13	水分の定量（電子式水分計）	
14	データの解析・レポート作成	
15	まとめ	

準備学習・事後学習等についての補足説明

①準備学習として、授業計画に従って前もってテキストの該当部分を読んでおく。
②事後学習として、実験ノートの整理とレポートの作成をする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み姿勢	レポート	課題提出	
20%	60%	20%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
基礎から学ぶ食品化学実験テキスト	谷口亜樹子　他	建帛社

参考書又は参考資料等

参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

集中講義であるために、1日の休みが数回の欠席に相当しますので、欠席せずに実験に取り組むことが必須です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品学実験Ⅱ		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100037	授業形態	実験
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品の素材及び加工・調理・貯蔵した食品の理化学的特性変化について、栄養・安全・嗜好・生理機能の観点から代表的な食品をとりあげて分析する。分析対象項目は、栄養・嗜好成分では糖質、微量成分（ミネラル）を、生理機能成分ではビタミンC、ポリフェノールを、栄養・安全性成分では脂質（ケン化価、ヨウ素価）、水の硬度などをとりあげる。全回アクティブラーニングの内容を含む。
授業の到達目標〔学習成果〕	①食品成分の分析技術を習得する。 ②食品の特性及び特性に及ぼす要因について理解する。 ③卒業論文研究や社会でも活用できる高度で実践的な実験能力と考察力を身につける。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	食品学実験Ⅱについて（講義・準備）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
2	測定値の取り扱いとレポートの書き方についての基本事項の理解	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
3	油脂のケン化価の測定・油脂のヨウ素価の測定の実験説明	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
4	油脂のケン化価の測定	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
5	油脂のヨウ素価の測定	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
6	糖の分離・検出、モリブデンブルー比色法によるリン定量の実験説明	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
7	薄層クロマトグラフィー による糖の分離・検出	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
8	モリブデンブルー比色法によるリン定量	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
9	水の硬度測定、食品中のポリフェノールの定量、食品中のビタミンCの定量の実験説明	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）

10	水の硬度測定（キレート滴定法）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
11	水の硬度測定（原子吸光度測定）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
12	食品中のポリフェノールの定量（フォリン・デニス法）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
13	食品中のビタミンCの定量（α,α'-ジピリジル法）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
14	プレゼンテーション実習	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
15	総括・小テスト	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

①準備学習として、前もって次回実験項目の内容を読み、目的・原理・方法を実験ノートに簡潔にまとめておく。
②事後学習として、測定データをもとに結果をまとめ、実験ノートに記録し、それをもとにレポートを作成する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	小テスト	実験への取組み状況	
60%	30%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
基礎から学ぶ食品化学実験テキスト	谷口亜樹子　他　編著	建帛社

参考書又は参考資料等

参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

①食品学実験Ⅱ」は、実際の食品分析に関する知識や技術を深める実験であり、また日本食品標準成分表の項目にもある成分分析を行うので、卒業後の就職現場でも役に立つ実験です。
②実験の基礎を身につけるための重要な科目です。テキストを中心に必ず予習復習をし、欠席しないで取り組むことが必要です。
③レポートは5段階で評価する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	食品加工学実習		
担当者名	杉元　康志	実務家教員	
科目コード	1100038	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「食品加工学」（3年前期）で学んだ食品の加工・貯蔵の原理、しくみを、実際に実習によって理解を深める。 実習項目は、４回分の講義を２回、２回分の講義を１回、実習前に行う。実習食品についてはプリントを配布する。 （1）加工食品の製造（動物性加工食品、植物性加工食品、発酵食品） （2）食品の包装（缶詰、真空包装）、食品の貯蔵 （3）食品の品質検査（糖度、酸度、pHなど）
授業の到達目標〔学習成果〕	（1）加工食品の原理、仕組みをよく理解する。加工前と加工後の食品性質を比較をできるようにする。 （2）食品加工操作の方法を習得する（凝固、混合、加熱・焙焼・冷却・熟成・発酵・化学処理・燻煙など）。 （3）貯蔵法の原理を理解する（冷蔵・冷凍・塩蔵・真空包装・缶詰など、食品の品質管理および包装法）。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	実習のガイダンス（日程、実習食品の説明、実施方法、レポートの書き方など）	
2	講義：実習する　４回分（１　ヨーグルト・酸乳飲料 ２ 納豆、麹 ３ 豆腐　４ うどん・そば　）の製造目的と方法について解説する	
3	ヨーグルト・酸乳飲料	
4	納豆、麹の製造	
5	豆腐	
6	うどん・そば	
7	味噌の製造 講義：実習する　４回分（１　こんにゃく・かまぼこ ２ みかんの缶詰 ３ リンゴジャム　４ モッツアレラチーズ　）の製造目的と方法について解説する	
8	こんにゃく・かまぼこ	
9	みかんの缶詰	
10	リンゴジャムの製造	
11	モッツアレラチーズ	

12	講義：実習する　2回分（1　パン・バター 2 ソーセージ　）の製造目的と方法について解説する	
13	パン・バターの製造	
14	ソーセージ　の製造	
15	製造した味噌の出来上がり試験 まとめ	

準備学習・事後学習等についての補足説明

・食品学総論をよく熟知しておくこと。加工食品に関連する図書館の関係書籍及びwebサイトを参考にして事前に準備し、製造し、その結果をレポートに作成すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業態度	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

・実習する加工食品の資料を配布し、説明を行う。
参考書：菅原龍幸編　新版食品加工実習書　　建帛社

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※評価は、主として、レポートおよび定期試験価で行うが、実習を行うことが重要でもある。
※各実習内容にについては、入手材料の都合や臨時実習の日程などで変更することがある。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品衛生学実験		
担当者名	坂尻　徹也	実務家教員	
科目コード	1100039	授業形態	実験
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-2-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品の安全性を確保するための基礎的実験を学び。初歩的な微生物実験を行い微生物実験の基本を習得する。食品を実験材料として各種の食品衛生検査を行い、食品衛生実験の基本を習得する。		
授業の到達目標〔学習成果〕	微生物実験を実際に行い、微生物の扱い、無菌操作について学ぶ。そして食品衛生検査の微生物試験を行い、理化学試験による油脂劣化測定等を行う。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	微生物学実験(1)　実験準備	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
2	微生物学実験(2)　手指付着菌、空中落下菌	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
3	微生物学実験(3)　グラム染色	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
4	微生物学実験(4)　生菌数測定法①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
5	微生物学実験(5) 生菌数測定法②（調理室の細菌調査）	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
6	微生物学実験(6)　自由実験①	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
7	微生物学実験(7)　自由実験②	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

8	微生物学実験(8)　自由実験③	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
9	食品衛生学実験(1)　食品衛生学について(講義)	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
10	食品衛生学実験(2)　油脂の劣化測定①　酸価	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11	食品衛生学実験(3) 油脂の劣化測定②　チオバルビツール酸価	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12	食品衛生学実験(4) 油脂の劣化測定③　過酸化物価	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13	食品衛生学実験(5) 食品添加物の測定①　亜硝酸塩の簡易測定	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14	食品衛生学実験(6) 食品添加物の測定②　食品中の漂白剤の検出	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15	実技試験・まとめ	事前：テキスト指定範囲（掲示又はUNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に実験手法や手順について、予習する必要がある。
・実験後は結果をまとめ、考察し、関連した情報を調べ体系的な知識を得る。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取組み	実技試験・実験発表
20%	40%	10%	30%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
三訂　食品衛生学実験	後藤政幸	建帛社

参考書又は参考資料等

講義中に適宜資料を配布する。
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・事前に実験手法や手順について、予習する必要がある。 ・実験後は結果をまとめ、考察し、関連した情報を調べ体系的な知識を得る。
担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	調理学実習Ⅰ		
担当者名	森山　美加代	実務家教員	
科目コード	1100040	授業形態	実習
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は調理の際の衛生管理を学び、基礎的な調理技術を習得することを目的とする。調理器具の使用方法、材料の標準的な配合や調味パーセント、基礎的な調理技術や調理操作について実習を通じて学ぶ。さらに、今後、ライフステージにあわせた献立作成ができるようになるために、調理法や食品の組み合わせ、献立の考え方について学ぶ。また、班単位で実習を行うため、円滑に進めることができるようにコミュニケーション能力をつけていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	基礎的な切り方や調理法の実践ができる。基礎的な献立作成ができるようになる。また、将来管理栄養士となった際に対象となる傷病者は、それぞれに食べやすい形態や物性が異なる。単に栄養素を充足するだけでなく、各人の嗜好を満足させ、その上で各人が食べやすくなるための調理法を考える力を修得する。さらに、班単位で協力して目標時間内で円滑に実習を進めることができるようにコミュニケーション能力を修得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション① 授業の進め方、評価について 調理実習着の配布 調理に関する基本的事項（栄養価計算）	予習：教科書の前書きとシラバスを読み、当該科目の概要を理解する。（30分） 復習：授業の進め方を復習する。（60分）
2	オリエンテーション② 調理実習室の使用方法 調理に関する基本的事項（計量、食品重量の目測）	予習：前回配布のプリントを熟読する。（15分） 復習：調理実習室の使用方法や注意事項を確認する。正しい手洗いができるように手順を覚える。（75分）
3	調理実習① 日本料理：炊飯・だしをとる	予習：前回配布された調理実習室の使用方法と注意事項のプリントを授業までに確認しておく。正しい手洗いができるようにしておく。（15分） 復習：鰹節と昆布の種類についてレポートにまとめる。だしと炊飯ができるようになる。（75分）
4	調理実習② 日本料理：蒸し物（せん切り）	予習：蒸し物について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。せん切りの練習をする。（60分）
5	調理実習③ 日本料理：煮物（乱切り、短冊切り等）	予習：煮物について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。乱切り、短冊切り等の練習をする。（60分）
6	調理実習④ 日本料理：和え物、酢の物、浸し物	予習：和え物、酢の物、浸し物について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。調味配合について復習する。（60分）
7	調理実習⑤ 日本料理：焼き物（だし巻き卵）	予習：焼き物について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。だし巻き卵の練習をする。（60分）

8	調理実習⑥ 日本料理：揚げ物（天ぷら）	予習：揚げ物について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。（60分）
9	調理実習⑦ 西洋料理：めん類	予習：めん類の調理について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。（60分）
10	調理実習⑧ 西洋料理：魚料理	予習：魚の調理性について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。味の三枚おろしを練習する。（60分）
11	調理実習⑨ 西洋料理：肉料理	予習：獣鳥肉類の部位と名称について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。（30分）
12	調理実習⑩ 中華料理：前菜・炒菜	予習：イカ・貝類の調理性について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。（60分）
13	調理実習⑪ 中華料理：点心	予習：肉類の加熱による変化、肉を軟化する方法について調べる。（30分） 復習：レポートにまとめる。（60分）
14	調理実習⑫ 製菓	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（70分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（20分）
15	実技試験	予習：実技試験の練習をしておく。（70分） 復習：実技試験で不十分であったところを練習する。（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事後のレポート作成時には調理実習を行った献立の栄養価計算を行い、授業で学んだポイントも含めてレポートにまとめる。
・授業で行った基本的な切り方は、次回の授業までに自宅で出来るようになるまで練習しておくこと。
・授業の復習は、各自が知識として理解できるようになることはもちろんのこと、どのような対象者にもわかるように説明できることが必要である。わかりやすく説明する工夫までを学習とする。また、これは調理技術も同様で、各自ができるようになるだけでなく、調理が苦手な人でも作れるように指導できることを念頭に置くこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	実技試験	レポート・実習の積極性等	
50%	35%	15%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
NEW調理と理論　第二版	山崎清子　島田キミエ他 共著	同文書院
八訂食品成分表2024	香川明夫　監修	女子栄養大学出版部

参考書又は参考資料等

・『たのしい調理～基礎と実習～』　安東真美・村上恵　他著　医歯薬出版株式会社
・『調理・献立作成の基礎』　坂本裕子・森美奈子　化学同人

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・授業は、グループに分かれて行うが、各回に持ち回りのリーダーをおく。リーダーは、グループの意見をまとめたり、教員の指示を伝えたりといった重要な役割を担う。管理栄養士に要求されるリーダーシップの涵養を目指すものであるので積極的に取り組むこと。 ・自宅においても切り方や調理の練習をすること。また、献立作成に必要となるので、安価なものでよいのでデジタルはかりを購入しておくことを強く勧める。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	調理学実習 II		
担当者名	森山　美加代	実務家教員	
科目コード	1100041	授業形態	実習
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「調理学実習Ⅰ」で学んだ基礎的な調理操作の技術を踏まえ、実際の献立一食分の調理へ発展させる。将来管理栄養士として傷病者への食事を提供する際に要求される高度な調理条件に対応可能な調理技能と理論を体得することを目的としている。実習する食事は、日本食を中心に一汁二采～三菜とし、調理操作の特徴と食品の特性を生かした献立とする。同時に食事構成、供卓方法、食事作法について理解する。また、日常食および行事食の献立作成や調理の基礎技能の習得、調理器具の扱い方および調味法を学習する。
授業の到達目標〔学習成果〕	日本食を中心に一汁二采～三菜とし、調理操作の特徴と食品の特性を生かした献立とする。同時に食事構成、供卓方法、食事作法について理解する。また、成人の献立を立案できる基礎的な力を修得する。日常食および行事食の調理の基礎技能の習得、食品の特性、調理性、調理器具の扱い方および調味法を修得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション： 授業内容について 評価について 献立作成の基本について	予習：シラバス、教科書の前書きを読み、本科目の特徴と到達目標と各自の目標を確認する。（30分） 復習：献立作成の基本について復習する。（60分）
2	調理実習① 日本料理：基本的な和食の献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
3	演習（献立作成）： 献立作成の基本について 献立作成の実施（一汁三菜）	予習：一汁三菜の献立を考える。（30分） 復習：作成した献立の栄養価計算をする。（60分）
4	調理実習② 日本料理：秋の献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
5	調理実習③ 中華料理：基本的な中華の献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
6	調理実習④ 西洋料理：基本的な洋食の献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）

7	調理実習⑤ 日本料理：冬の献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
8	調理実習⑥ 日本料理：行事食	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
9	調理実習⑦ 日本料理：行事食	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
10	調理実習⑧ 行事食	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
11	調理実習⑨ 行事食	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
12	演習② プレゼンテーション発表	予習：プレゼン発表に向けて資料をまとめる。（30分） 復習：課題、問題点をまとめて整理しておく。（60分）
13	調理実習⑪ 災害時の食事について：パッククッキング	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
14	調理実習⑫ 学生考案献立	予習：事前に配布されたプリントに沿って、当日の手順を計画する。（30分） 復習：実習で調理した献立を自宅で調理し、自分で作れるように練習しておく。（60分）
15	実技試験	予習：これまで学んだ実技をすべて練習する。（120分） 復習：これまでのまとめ学習を行う。（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業時間に次回の実習献立プリントを配布する。次回までに献立の調理方法や作業の順番、質問事項等を班員で打ち合わせをした上で授業に臨むこと。
・実習で調理した献立を自宅でも再現できるように復習しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	実技試験	レポート・実習の積極性等	
50%	35%	15%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
NEW調理と理論　第二版	山崎清子　島田キミエ他 共著	同文書院

八訂食品成分表2024	香川明夫　監修	女子栄養大学出版部

参考書又は参考資料等

・『たのしい調理～基礎と実習～』　安東真美・村上恵　他著　医歯薬出版株式会社
・『調理・献立作成の基礎』　坂本裕子・森美奈子　化学同人

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・特に高学年で行われる大量調理の授業や臨地実習では、正確な切り方の習得だけでなく、切る速さも要求される。日ごろから練習して早く切れるように努力すること。
・調理学実習Ⅱは、献立のとおりに正確に作ることが目的ではなく、前期に履修した調理の基本を踏まえて、美味しく作ることが目的である。前回の講義で得た知識が自分のものとなるように理解したうえで、次回の授業を受講すること。
・前期開講の調理学と調理学実習Ⅰと関係が深く、これらの授業内容と関連付けて理解を深めること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	調理学実習III		
担当者名	渡辺　響子、室井　由起子	実務家教員	
科目コード	1100042	授業形態	実習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、食に関する関心が高まり、食育の重要性が見直されている。栄養面・衛生面の知識を活かし、科学的に実践するのが調理学である。また調理は食品を洗浄・切る・加熱する・混ぜる・盛り付けるなどの操作を行って食品をおいしく・食べやすく・消化吸収の点を考慮して食品の持つ栄養素を十分に利用することが重要となる。「調理学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎的な技術を基盤としてさらに調理技術の取得を目指し、和・洋・中・イタリア・スペイン等の各料理様式についてそれぞれの特色を把握する。また郷土料理に見られる特色と季節の違いなどを学び、調理学全般にわたる応用力を取得していく。
授業の到達目標〔学習成果〕	・「調理学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎的な技術を基盤としてさらに調理技術の取得を目指し、和、洋、中の各料理様式についてそれぞれの特色を把握する。 ・自らが料理をすることが好きになり、家庭で実践できる能力を養う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この実習の目的と学習方法についての説明　(渡辺・室井)	事前：テキスト全体に目をとおしておく。(120分) 事後：本日習ったことを復習する。(60分)
2	実習① 西洋料理：圧力鍋を使用したトマトソースの作り方　(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)
3	実習② 日本料理：蒸し器を使用した強飯の炊き方 旬の山菜を使用して　(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)
4	講義：献立作成について　(渡辺)	事前：献立作成について、注意点を調べ、使いたい食材や調理法を考えておく。(30分) 事後：課題の献立作成(180分)
5	実習③ 中華料理：かん水を使用した中華麺の作り方(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)
6	講義：衛生管理について(渡辺)	事前：調理を行う際の衛生管理について復習しておく。(90分) 事後：衛生管理についてノートにまとめる。(90分)
7	実習④ カルシウム・鉄たっぷり献立(渡辺)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)
8	実習⑤ 西洋料理：パイ生地、ポーチドエッグについて　(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)
9	実習⑥ 日本料理：乾物の使い方・戻し率について(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。(60分) 事後：レポート作成(120分)

10	実習⑦ イタリア・スペイン料理：ラザニア・一次発酵で作るパンについて(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）
11	実習⑧ 郷土料理：鯛めしの炊き方・揚げ物の仕方について(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）
12	実習⑨ 中華料理：生地から作る小龍包の作り方について(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）
13	実習⑩ 味噌作り：日本の代表的な発酵食品手前味噌について(室井)	事前：味噌作りについて、調べておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）
14	実習⑪ 行事食：七夕にちなんだ行事食の展開について(室井)	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）
15	実習⑫第4回で立案した献立の中から、学生献立を1クラス1献立採用し行う。 全体のまとめ （室井、渡辺）	事前：献立表をよく読み込み、手順を頭に入れておく。 各班で役割分担をしておく。（60分） 事後：レポート作成（120分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・調理実習の献立は、事前配布をするので、班で事前学習をし、献立のイメージをつかみ実習に望んでください。
また、実習後、再度同じ料理を作る、又は展開できるようにして、「臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「給食管理実習」、「応用栄養学実習」、「臨床栄養学実習」に繋げてください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	献立作成	
60%	30%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
「調理のためのベーシックデータ［第6版］	松本仲子	女子栄養大学出版部

参考書又は参考資料等

○「新版調理と理論」（同文書院）
○「食品成分表2022」（女子栄養大学出版部）
○「日本人の食事摂取基準（2020年度版）」（第一出版）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

レポート・献立の栄養計算については、実習が終わった次の週の実習までに提出し、再提出の場合は、研究室まで持ってきてください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	基礎栄養学		
担当者名	渡邉　啓一	実務家教員	
科目コード	1100043	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	基礎栄養学では、まず栄養学の概念を把握する。摂食行動、糖質・脂質・たんぱく質の消化と吸収及びエネルギー代謝、ビタミン・無機質と他の栄養素との関連を学習する。生化学で学習した栄養素の生化学的特性も加味して、栄養学の基礎知識を的確に習得する。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 栄養学の概念、栄養学史及び、食欲・摂食行動を理解する。 2) 糖質・脂質・たんぱく質の消化・吸収及び代謝・栄養学的機能を理解する。 3) 栄養素相互の関連、栄養素の過不足と健康との関連を理解する。 4) 栄養と遺伝子及び遺伝子多型・倹約遺伝子と健康の関連について理解し、関連専門科目に対応できる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養の概念；栄養の定義、栄養と健康、栄養学史及び遺伝形式と栄養の相互関係　（栄養と遺伝子及び遺伝子多型・倹約遺伝子）	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
2	食物の摂取；満腹感・空腹感と食欲、摂食の調節、食事のリズムとタイミング	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
3	消化吸収と栄養素の体内動態（1）；消化液、消化酵素及び消化の調節と吸収糖質の消化と吸収、血糖及び糖質の代謝	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
4	消化吸収と栄養素の体内動態（2）；膜消化・吸収、栄養素別の消化吸収　栄養素の体内動態、生物学的利用度	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
5	糖質の栄養（1）エネルギー源としての糖質、血糖とその調節	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
6	糖質の栄養（2）糖質の体内代謝及び糖質と他の栄養素との関係　食物繊維及びオリゴ糖の生理作用・機能	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
7	脂質の栄養（1）脂質の種類と働き、脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
8	脂質の栄養（2）貯蔵エネルギーとしての作用、脂質由来の生理活性物質、他の栄養素との関係	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
9	たんぱく質の栄養（1）アミノ酸・たんぱく質の体内代謝（動的状態、合成、アミノ酸プール）	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと (90分) 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)

10	たんぱく質の栄養（2）たんぱく質の栄養価の評価、他の栄養素との関係及び不足と過剰	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
11	ビタミンの栄養（1）水溶性ビタミンの構造と栄養学的機能	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
12	ビタミンの栄養（2）脂溶性ビタミンの構造と栄養学的機能　他の栄養素との関係	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
13	ミネラルの栄養；無機質の分類と機能、生体機能の調節機構、鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
14	水・電解質の栄養的概念；水の出納、脱水・浮腫、電解質の代謝と栄養	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
15	エネルギー代謝；概念、エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法	事前：テキストのシラバス範囲を通読しておくこと（90分） 事後：授業の最後に出す問題を解く。指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

生化学や基礎栄養学では略号、化学記号や構造式が多く使用される。予習・復習（特に復習）が大切です。
復習問題は、毎週、Googleフォームで出題します。毎週、期限までに解答を送信してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

期末テスト	各授業後の問題解答、キーワードノート	授業への取組姿勢	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学　第4版	田地 陽一 編	羊土社

参考書又は参考資料等

栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート　第4版　田地 陽一 編　　羊土社

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

生化学、基礎化学、化学など基礎をしっかり学習して望んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	基礎栄養学実験		
担当者名	原　　研治	実務家教員	
科目コード	1100044	授業形態	実験
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養学に関する基本的な実験を行う。器具の取り扱い・成分分析・化学反応・実験データの数値処理・レポート作成を通して、実験の操作や機器の取り扱いの技術を身につけると共に実践的思考力を培う。栄養素や体成分の分析・定量は、栄養学的知識を深めると共に、病院や施設など実社会においても必要な技術であり、しっかりとした基礎固めをする。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 実験の基礎知識として、危険物や機器の取り扱い、pHと緩衝作用を理解する。 2) 酵素反応に対する温度やpHが与える影響を調べ、酵素作用の最適条件の重要性を理解する。 3) 糖質・脂質・たんぱく質の消化実験を行い、各栄養素の消化及び酵素作用を理解する。 4) 生体成分定量キットを利用して、血糖・リン脂質・アルブミンなどの定量を行い、その操作と意義を理解する。 5) 生体成分の定量法を修得し、後続の実験に対応できる技術を修得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	本実験の概要説明、実験を安全に行うための説明と注意。測定データの標準偏差・誤差の計算	事前：実験プリントの第1回を通読しておくこと (30分) 事後：標準偏差、誤差など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
2	pHの意味を理解。市販飲料や消毒液などのpHを測定する。食品中の色素とpHの関係。	事前：実験プリントの第2回をを通読しておくこと (30分) 事後：pHの意味など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
3	緩衝液の緩衝作用を理解し、アミラーゼ、リパーゼなどの消化酵素実験のための緩衝液を調製する。	事前：実験プリントの第3回を通読しておくこと (30分) 事後：緩衝液の作用など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
4	糖の消化（1）実験内容の説明及び試薬の準備	事前：実験プリントの第4回をを通読しておくこと (30分) 事後：糖質の消化・吸収など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
5	糖の消化（2） 唾液アミラーゼによるでんぷんの加水分解における温度の影響を調べる。	事前：実験プリントの第5回をを通読しておくこと (30分) 事後：アミラーゼの作用など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
6	糖の消化（3） アミラーゼによるでんぷんの加水分解におけるpHの影響を調べる。	事前：実験プリントの第6回をを通読しておくこと (30分) 事後：酵素の最適pHなど、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
7	市販キットを用いた血糖の定量 第1回～6回までの実験レポートを提出する。	事前：実験プリントの第7回をを通読しておくこと (30分) 事後：血糖値やコントロールするホルモンなど、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
8	リパーゼ、トリプシンによる加水分解実験のための試薬の調製	事前：実験プリントの第8回をを通読しておくこと (30分) 事後：脂質代謝、たんぱく質代謝の指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)

9	脂質の消化　リパーゼによる油脂の加水分解	事前：実験プリントの第9回をを通読しておくこと (30分) 事後：脂質の構造、リパーゼの作用など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
10	市販キットを用いたコレステロールの定量	事前：実験プリントの第10回をを通読しておくこと (30分) 事後：コレステロール代謝など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
11	たんぱく質の消化　トリプトシンによるスキムミルク・卵白の加水分解実験（予備実験）。 第7回～10回までの実験レポートを提出する。	事前：実験プリントの第11回をを通読しておくこと (30分) 事後：たんぱく質の構造など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
12	たんぱく質の消化　トリプトシンによるスキムミルク・卵白の加水分解	事前：実験プリントの第12回をを通読しておくこと (30分) 事後：トリプシンの作用機構など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
13	市販キットを用いた血中アルブミン・グロブリン比の定量	事前：実験プリントの第13回をを通読しておくこと (30分) 事後：AG比測定など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
14	市販キットを用いた尿素の定量と意義 第11回～13回までの実験レポートを提出する。	事前：実験プリントの第14回をを通読しておくこと (30分) 事後：尿酸代謝や痛風など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
15	分子モデルの作成法の説明及びアミノ酸・ペプチドの分子モデルの作成 第14回～15回の実験レポートを提出する。	事前：実験プリントの第15回をを通読しておくこと (30分) 事後：ペプチドの構造など、指定した語句の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

基礎栄養学や生化学の教科書で関連事項について勉強しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

期末テスト	授業への取り組み姿勢	レポート・キーワードノート	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

テキストとして15回分の基礎栄養学実験書（原理・操作などの資料）を配布する。
その他、基礎栄養学および生化学I・IIの講義で使用するテキスト。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

各実験終了後、レポートを提出してもらいます。欠席・遅刻は理由なくしないように。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	応用栄養学Ⅰ		
担当者名	池本　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100045	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養アセスメントが出来ることは栄養管理の基本となる。栄養アセスメントの意義・目的を理解し、健常者における栄養アセスメントの第1歩として食事摂取基準を学ぶ。これをふまえてのライフステージ別の栄養管理の理解となる。この講義では、病院管理栄養士経験を有する教員が、母体、及び胎児期から成長期までの各ライフステージ（妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期、学童期）における成長，発達に伴う生理機能の変化や栄養状態の変化などについて講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 栄養アセスメントについて理解し、アセスメント技術の基本的知識を習得する。 2) 日本人の食事摂取基準について理解し、活用できるようになる。 3) 生理・生化学，基礎栄養学を基礎とした成長期までの各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理についての理解を深め、説明できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法についての説明。	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
2	栄養ケアマネジメント(1)：栄養管理プロセスの概念	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
3	栄養ケアマネジメント(2)：栄養アセスメントの意義と目的	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
4	日本人の食事摂取基準(1)：食事摂取基準の意義，策定の基礎理論	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
5	日本人の食事摂取基準(2)：エネルギー・栄養素別食事摂取基準	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
6	妊娠期・授乳期(1)：妊娠期・授乳期の特性	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

7	妊娠期・授乳期(2)：妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
8	新生児期・乳児期(1)：新生児の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
9	新生児期・乳児期(2)：乳児期の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
10	新生児期・乳児期(3)：新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
11	成長期・小児の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
12	幼児期(1)：幼児期の食生活；咀嚼能力の発達と食事	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
13	幼児期(2)：幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
14	学童期：学童期の食生活；咀嚼能力の発達と食事、栄養アセスメント	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
15	総括	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・「事後学習」については、こまめにノートまとめを行い、学んだ知識を整理しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト・授業態度等		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

五訂　応用栄養学［第2版］	津田 博子、麻見直美	建帛社
日本人の食事摂取基準〔2020年版〕	伊藤 貞嘉、佐々木 敏	第一出版

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・単元ごとに、授業習得状況確認（小テスト形式）を行います。これは成績評価の対象となり、またフィードバック資料として、定期試験に向けた学習にも活用できます。
・講義中の私語は厳禁です。スマホは指示がない限り授業中の使用を禁じます。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	応用栄養学Ⅱ		
担当者名	楠瀬　千春	実務家教員	
科目コード	1100046	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	ヒトが誕生してから一生を終えるまでには、様々な段階（ライフステージ：妊娠期・授乳期・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・閉経期・高齢期）がある。その各ライフステージは、継続的な変化の一過程であるが、各々のライフステージおいて共通の特徴を持っている。従って、他のライフステージとは異なる社会的な背景や生活習慣の特徴および生理的な特徴を理解することが重要であり、それに基づいた養学的な対応や配慮が必要とされる。
授業の到達目標〔学習成果〕	これらの知識を背景として、栄養アセスメント（栄養状態の評価・判定）の基礎的な考え方について理解する。「応用栄養学Ⅱ」では、「応用栄養学Ⅰ」に基づき、思春期・成人期・閉経期・高齢期における生理状態の変化について講義を行う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：応用栄養学の概要、成績評価について	予習：シラバス、教科書の前書きを読み、本科目の特徴と到達目標と各自の目標を確認する。（90分） 復習：科目の特徴と到達目標を確認する。各自が目標を達成するための計画を立案する。（90分）
2	学童期：成長・発達	予習：幼児期までの発達に関して、スキャモンの発達曲線を復習し、説明できるようにする。（90分） 復習：学童期までの成長の速度について、スキャモンの発達曲線で一般の方にもわかりやすく説明できるようになるまで、各自が理解をする。（120分）
3	学童期：栄養アセスメント　病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：教科書の該当項目を読み、わからない単語などを調べる。（90分） 復習：授業内容を再確認し、学童期の子供への適切なアセスメントについてまとめる（90分）
4	思春期：思春期の特性	予習：教科書の該当ページを読む。思春期女子については、解剖生理学の月経周期をホルモンと関連させて説明できるようにする。（90分） 復習：思春期の月経周期について復習し、成長の特徴を説明できるようにする。（90分）
5	思春期：栄養アセスメント　病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：思春期の生理的な変化を復習する。（90分） 復習：適切なアセスメントを、根拠を示したうえでまとめる。（90分）
6	成人期：成人期の特性　栄養アセスメント　病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：当該ページをよく読み、身体的な特徴を理解する。（90分） 復習：成人期に特に問題となる特徴について、社会的背景と関連付けてまとめる。（120分）
7	高齢期：高齢期の特性	予習：当該ページを読む。（90分） 復習：生理学的な特徴をまとめておく。（90分）

8	高齢期：栄養アセスメント	予習：当該ページを読む。また、新生児、幼児期、成人期の体組成を調べる。（90分） 復習：高齢期の変化をまとめる。（90分）
9	高齢期：病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：当該ページを読む。（90分） 復習：病態について、身体的な変化との関連性をまとめる。（90分）
10	閉経期：閉経期に伴う身体各部の変化	予習：思春期の性周期をホルモンと関連付けて説明できるように復習する。（90分） 復習：閉経期の変化を、ホルモンと関連付けて説明できるように復習する。（90分）
11	閉経期：栄養アセスメント　病態・疾患、栄養ケアのあり方	予習：前回の講義で学習した内容を復習する。（90分） 復習：高齢期の内容を復習する。（90分）
12	生体リズム	予習；成長期のホルモンを調べる。（90分） 復習：概日リズムを中心にまとめる。（90分）
13	ストレス	予習：当該ページを読む。副腎のホルモンを調べる。（90分） 復習：ストレスの経過をまとめる（90分）
14	特殊環境（書熱環境）	予習：ストレスに関するホルモンの復習をする。（90分） 復習：（90分）
15	まとめ　（各ライフステージの病態と身体的特徴を関連付ける）	予習：これまで学んだ内容を復習する。（90分） 復習：これまでのまとめ学習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・応用栄養学は、解剖生理学、生化学、基礎栄養学の知識と特に関連が深く、その知識の上に成り立っている科目である。予習復習の際には、これらの関連科目の教科書と照らし合わせて理解を深めること。授業にも上記3教科の教科書を持参することを推奨する。また、前期で履修済みの応用栄養学Ⅰの知識は、本科目の理解をするうえで必要である。応用栄養学Ⅰの知識を定着させてから受講すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
5訂　応用栄養学	江澤郁子、津田博子	医歯薬出版
日本人の食事摂取基準〔2020年版〕	菱田明、佐々木敏	第一出版

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、定期試験の結果と授業時の小テストを合わせて総合評価する
　応用栄養学では、講義した内容を基に、管理栄養士として架空の対象者にどのようにアプローチするのかを学生同士でシミュレーションすることが多い。積極的に学生同士でディスカッションを行うこと（対面授業の場合、感染状況によっては、ディスカッションを行う際にマスクの着用を必須とする場合がある）。
　知識の丸暗記でなく、「得た知識をどのように管理栄養士として利用していくのかを常に意識して」授業に臨むこと。
※本教科の開講にあたっては、以下の教科と関連が深い。以下の教科で学んだことはすべて重要であるが、特に以下の項目については理解した上で受講すること。
①応用栄養学Ⅰ
　授業でなまんだことはすべて復習し、理解しておく
②生化学・基礎栄養学について
　ホルモンの「名称と働き」について理解しておく。
　生体内で行われる一連の「代謝について補酵素も含めて」理解しておく。
③解剖生理学について
　身体の各部位の名称（特に口腔内、唾液分泌にかかわる部位、骨格の名称）を覚えておく。
　消化にかかわる臓器の「正常構造と機能」について理解しておく。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	応用栄養学III		
担当者名	楠瀬　千春	実務家教員	
科目コード	1100047	授業形態	講義
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	ヒトの一生は、様々な段階（ライフステージ）がある。その各ライフステージは、継続的な変化の一過程であるが、各々のライフステージおいて共通の特徴を持っている。従って、他のライフステージとは異なる社会的な背景や生活習慣の特徴および生理的な特徴を理解することが重要であり、それに基づいた養学的な対応や配慮が必要とされる。これらの知識を背景として、栄養アセスメント（栄養状態の評価・判定）の基礎的な考え方についても修得する。「応用栄養学III」では、「応用栄養学Ⅰ・Ⅱ」に基づき、さらに社会環境でうけるストレスや宇宙などの特殊環境下における生理状態の変化についても理解を深める。
授業の到達目標〔学習成果〕	各ライフステージに特有の社会的な背景や生活習慣の特徴および生理的な特徴を理解し、この知識を背景として、各ライフステージに適切な栄養アセスメント（栄養状態の評価・判定）の基礎的な考え方について修得する。「応用栄養学III」では、各ライフステージの復習と、特殊環境、生体リズム、運動時の栄養について学ぶ。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：授業の評価について	予習：シラバス、教科書の前書きを読み、本科目の特徴と到達目標と各自の目標を確認する。（90分） 復習：科目の特徴と到達目標を確認する。各自が目標を達成するための計画を立案する。（90分）
2	ストレスと栄養：生体のストレス応答	予習：ストレスの基本項目を復習する。（90分） 復習：身体的特徴を理解する（90分）
3	ストレスと栄養：ストレスと病態（ホルモンとの関連性）	予習：教科書の該当項目を読み、わからない単語などを調べる。（90分） 復習：病態の特徴を理解する。（90分）
4	ストレスと栄養：ストレスと栄養	予習：教科書の該当ページを読む。をホルモンと関連させて説明できるようにする。（90分） 復習：ストレスに関連するホルモンと関連する栄養素についてまとめる。（90分）
5	環境と栄養：高温環境①	予習：高温環境下について復習する。（90分） 復習：適切なアセスメントを、根拠を示したうえでまとめる。（90分）
6	環境と栄養：高温環境②	予習：当該ページをよく読み、身体的な特徴を理解する。（90分） 復習：ホルモンとの関連性と必要とされる栄養素についてまとめる。（90分）
7	環境と栄養：高温環境②	予習：当該ページを読む。（90分） 復習：生理的変化をまとめる。（180分）
8	環境と栄養：低圧環境①	予習：酸素解離曲線について理解する。（90分） 復習：生理的変化をまとめる（90分）

9	環境と栄養：低圧環境②	予習：当該ページを読む。（90分） 復習：病態について、身体的な変化との関連性をまとめる。（90分）
10	環境と栄養：高圧環境①	予習：酸素解離曲線を理解する。（90分） 復習：ガスの溶解度によってどのような変化が生じるに課についてまとめる。（90分）
11	環境と栄養：無重力環境	予習：前回の講義で学習した内容を復習する。（90分） 復習：重力の与える影響を、循環血液量と関連させてまとめる。（90分）
12	生体リズム：生体リズムと栄養・時間栄養学	予習；成長期のホルモンを調べる。（90分） 復習：概日リズムを中心にまとめる。時間栄養学の概要を理解する。（90分）
13	エネルギーと栄養素の必要量：適正摂取量の基準	予習：当該ページを読む（90分） 復習：学習内容をまとめる。（90分）
14	高齢者の特徴（嚥下障害）	予習：高齢者の特徴を復習する。口腔から咽頭、食道について、解剖学生理学の教科書を熟読する。（90分） 復習：嚥下障害について、復習する。（90分）
15	まとめ　（各ライフステージの病態と身体的特徴を関連付ける）	予習：これまで学んだ内容を復習する。（90分） 復習：これまでのまとめ学習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

「応用栄養学」は、「解剖生理学」、「生化学」、「基礎栄養学」の知識と特に関連が深く、その知識の上に成り立っている科目である。予習復習の際には、これらの関連科目の教科書と照らし合わせて理解を深めること。授業にも上記3教科の教科書を持参することを推奨する。　また、これまで履修済みの応用栄養学ⅠおよびⅡの知識は、本科目の理解をするうえで必要である。特に、応用栄養学Ⅱの内容については、応用栄養学Ⅲでさらに詳細に学ぶので、復習し、知識を定着させてから受講すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
四訂　応用栄養学［第2版］	江澤郁子、津田博子	医歯薬出版
日本人の食事摂取基準〔2020年版〕	菱田明、佐々木敏	第一出版

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、定期試験の結果と授業時の小テストを合わせて総合評価する
　応用栄養学では、講義した内容を基に、管理栄養士として架空の対象者にどのようにアプローチするのかを学生同士でシミュレーションすることが多い。積極的に学生同士でディスカッションを行うこと（対面授業の場合、感染状況によっては、ディスカッションを行う際にマスクの着用を必須とする場合がある）。
　知識の丸暗記でなく、「得た知識をどのように管理栄養士として利用していくのかを常に意識して」授業に臨むこと。
※本教科の開講にあたっては、以下の教科と関連が深い。以下の教科で学んだことはすべて重要であるが、特に以下の項目については理解した上で受講すること。
①応用栄養学Ⅰ・Ⅱ
　授業でなまんだことはすべて復習し、理解しておく
②生化学・基礎栄養学について
　ホルモンの「名称と働き」について理解しておく。
　生体内で行われる一連の「代謝について補酵素も含めて」理解しておく。
③解剖生理学について
　身体の各部位の名称（特に口腔内、唾液分泌にかかわる部位、骨格の名称）を覚えておく。
　消化にかかわる臓器の「正常構造と機能」について理解しておく。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	応用栄養学実習		
担当者名	中野　眞弓	実務家教員	○
科目コード	1100048	授業形態	実習
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	ライフステージにおける栄養は、栄養状態や身体的特徴、生活状況の違いを理解して管理する必要がある。本実習では、「ライフステージの栄養学」で修得した知識を踏まえ、事例を通した対象者の栄養・身体状況を把握し、栄養ケアプラン及び適切な献立を作成し、指導教育に関する事項を習得する。実際の外来・入院栄養指導の実務経験を活かし、アクティビティーなグループデスカッションを授業に取り入れた授業を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1）対象者の栄養アセスメントから問題点を読み取り、改善に向けてのアプローチを習得する。 2）栄養ケアプランに基づいた献立を対象者に作成できるようになる。 3）各ライフステージに応じた栄養管理の知識を統合し、応用できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	応用栄養学実習の概要 （1）ライフステージ別栄養管理 （2）糖尿病食事療法の食品交換表	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、食品交換表を習得する（30分）
2	乳幼児期の栄養管理 講義及び実習・グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
3	幼児期の栄養管理 講義及び実習・グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
4	学童期の栄養管理 講義・献立作成、実習・グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
5	青年期の栄養管理 講義及び実習・グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
6	壮年期の栄養管理 （1）講義・献立作成、グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、献立作成する（30分）
7	壮年期の栄養管理 （2）講義及び実習　ディスカッション	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
8	高齢期の栄養管理 （1）講義及び実習　サルコペニア栄養管理	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
9	高齢期の栄養管理 （2）講義及び実習　嚥下障害栄養管理　ディスカッション	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
10	壮年期の栄養管理 （1）講義・献立作成（個別・班）、発注　グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、献立作成する（30分）
11	壮年期の栄養管理 （2）講義及び実習　壮年期の栄養管理　ディスカッション	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）

12	妊産婦の栄養管理 講義及び実習・グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
13	行事食の栄養管理 （1）講義・献立作成（個別・班）、発注　グループワーク	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、献立作成する（30分）
14	行事食の栄養管理 （2）講義及び実習　ディスカッション	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）
15	ライフステージ別栄養管理まとめ・グループワーク (1)　行事食発表	事前：テキスト指定範囲を通読する（30分） 事後：授業を復習し、ワークシートをまとめる（30分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・受講に際し、事前にテキストの該当項目を通読すると共に、事後も再確認を行って疑問点は質問等で確実に理解して、積極的に取りくんでください。
・ワークシートは、授業終了後又は翌週授業日に提出を求めます。
・献立作成表の提出を適時求めます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	ワークシート提出・完成度	献立作成提出・完成度	授業への取り組み
70%	10%	15%	5%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
ライフステージ実習栄養学?健康づくりのための栄養と食事［第6版］	内田和宏　小川洋子他	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

・調理のためのベーシックデータ［第5版］　松本仲子 監修　　女子栄養大学出版部
・応用栄養学実習［第3版］ライフステージ別の栄養管理」原田まつ子、牧野登志子、白尾美佳 編（講談社サイエンティフィク）
・必要に応じ関係資料を配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨んでください。
・提出された献立作成は、添削後返却します。事後学習及び定期試験に向けた資料として活用してください。
・実習中の怪我がないように集中して取り組んでください。
・講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養教育論Ⅰ		
担当者名	渡辺　響子	実務家教員	○
科目コード	1100049	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養教育は、管理栄養士・栄養士にとって専門性を発揮して行なう業務そのものである。管理栄養士としての使命感、職業観を育み、健康の維持・増進ならびに傷病者の治療を目的とする食生活の指導ができるように、栄養教育に必要な基礎的知識と技能について、実際に即して学習する。 また現代社会の食環境を踏まえ、必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とし、その実践が栄養教育論実習において展開できるよう連携していく。 この講義では、病院や行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、実践に活かせる方法について学習する。 授業は、教科書をもとに構成し、さまざまな資料を加筆し、スライドを用いてわかりやすく説明、解説をして進めていく。一方的な講義にならにように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 栄養教育の意義と特性および現在必要とされている栄養教育の課題について理解し、説明できる。 2. 栄養改善活動の現状について学習し、制度、法規について理解を深める。 3. わが国の栄養摂取状況を把握し、栄養素等摂取不足、摂取過剰による問題点と解決策を具体的に説明できる。 4. 栄養教育を実施する上で、栄養評価の重要性を理解し、的確に評価をすることができる。 5. 問題解決のための栄養マネジメントを理解し、栄養教育計画を立案することができる。 6. 問題解決のための情報取集の方法及び適切な学習方法を活用することができる。 7. 栄養教育の評価の方法を理解し、それぞれの評価を行い、目的評価と技術評価ができる。 これらの学習を通して，栄養教育の方法と技術の基本を理解し，管理栄養士として行動できる態度を養う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養教育の概念1 栄養教育の定義と目的	事前：テキスト全体にざっと目を通しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
2	栄養教育の概念2 栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション・食育	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
3	栄養教育マネジメントとは　　PDCAサイクル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
4	栄養教育の対象と機会	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
5	栄養教育のためのアセスメント1 栄養教育におけるアセスメントの意義と目的	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
6	栄養教育のためのアセスメント2 情報収集の方法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

7	栄養教育のためのアセスメント3 栄養アセスメントの種類と方法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
8	栄養教育の目標設定と計画立案1 プログラム	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
9	栄養教育の目標設定と計画立案2 目標設定	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
10	栄養教育の目標設定と計画立案3 栄養教育方法の選択、　学習形態選択と組み合わせ	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
11	栄養教育の目標設定と計画立案4 教材、食事バランスガイド等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
12	栄養教育の目標設定と計画立案5 プログラム作成	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	栄養教育の実施と評価1 栄養教育の実施	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	栄養教育の実施と評価2 栄養教育の評価	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前学習：食を取り巻く社会情勢について、日々、新聞、ニュース等から情報を得ておく。
・事後学習：学習内容を整理して記載し、復習を常に行ない、次週の授業に備える。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、小テスト	授業への積極的な取組み	
80%	10%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養教育論 〔改定第5版〕	武見ゆかり 、足達淑子 他編	南江堂

参考書又は参考資料等

厚生労働省のホームページからのプリントアウト等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価について、
①課題は期限を守って提出する。
②講義終了時に、レポート又は小テストを実施することがある。
③学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。
　①～③を総合して習熟度を評価する。
・必要な教材・資料として、プリントを適宜配付するので、各自ファイリングして活用すること。
・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	後日、オフィスアワーの時間を知らせるので、自由に質問に来てほしい。

授業科目名	栄養教育論Ⅱ		
担当者名	渡辺　響子	実務家教員	○
科目コード	1100050	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	「栄養教育論Ⅰ」の学習内容をふまえ、ライフステージ・ライフスタイルの栄養の特性に応じた栄養教育の特徴と留意事項を学習する。 この講義では、病院や行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、その中で、個人または集団の改善計画の立案、栄養教育の実施に必要な知識を習得し、健康増進、疾病の発症予防、重症化予防、治療に貢献することをめざす。 また現在必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とする。その実践が栄養士・管理栄養士の現場において展開できるよう連携していく。 授業は、教科書にそってスライド及び当日配付の資料により説明、解説をして進めていく。 一方的な講義にならにように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. ライフステージ・ライフスタイルの栄養の特性に応じた栄養教育の特徴と留意事項を理解する。 2. ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養、食生活の諸問題，課題を述べることができる。 3. ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と教育カリキュラムの要点を理解する。 4. ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育を効果的に適用することができる。 5. さまざまな分野における栄養教育について目指す方向性を述べることができる。 6. 食育推進基本計画の推進と栄養教育について理解を深める。 これらの学習を通して、栄養教育の方法と技術の展開を理解し、管理栄養士として行動できる能力を培う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	ライフステージ別の栄養教育の展開１ 妊娠・授乳期の母子を取り巻く現状 妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針	事前：テキストの第９章にざっと目を通しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
2	ライフステージ別の栄養教育の展開2 妊娠・授乳期の特徴と栄養教育	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
3	ライフステージ別の栄養教育の展開3 乳児期の栄養教育の特徴と課題	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
4	ライフステージ別の栄養教育の展開4 乳児期の栄養教育（市町村母子保健事業）	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
5	ライフステージ別の栄養教育の展開5 幼児期の栄養教育の特徴と課題	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
6	ライフステージ別の栄養教育の展開６ 幼児期の食育（保育所、幼稚園等）	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
7	ライフステージ別の栄養教育の展開7 学童期１・食育推進基本計画	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

8	ライフステージ別の栄養教育の展開8 学童期2　学校を拠点とした食育	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
9	ライフステージ別の栄養教育の展開9 思春期の栄養教育の特徴と留意事項	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
10	ライフステージ別の栄養教育の展開10 成人期の食生活の特徴	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
11	ライフステージ別の栄養教育の展開11 成人期の栄養教育の特徴と留意事項	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
12	ライフステージ別の栄養教育の展開12 高齢期の健康課題と栄養教育の特徴	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	ライフステージ別の栄養教育の展開13 介護保険制度と栄養教育	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	ディスカッション テキスト内の課題をテーマに検討	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	栄養教育に関連する指針・新基準　　栄養教育の実際の場において関連する指針及び新基準	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前学習：食生活の現状について、情報収集を心がける。
・事後学習：学習内容を整理して記載し、復習を常に行ない、次週の授業に備える。
・「応用栄養学Ⅰ・Ⅱ」を復習し、理解を深めておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、小テスト	授業への積極的な取組み	
80%	10%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論〔改定第5版〕	武見ゆかり 、足達淑子 他編	南江堂
日本人の食事摂取基準2020年版	佐々木敏 監修	第一出版

参考書又は参考資料等

・講義時に、適宜提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価について、
①課題は，期限を守って提出する。
②講義終了時に、小テストを実施することがある。
③学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。
　①～③を総合して習熟度を評価する。
・必要なものは事前に連絡をするので、忘れ物がない状態で授業には臨むこと。
・毎時間，必要な教材・資料として、プリントを適宜配付するので、各自ファイリングして活用すること。
・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	後日、オフィスアワーの時間を知らせるので、自由に質問に来てほしい。

授業科目名	栄養教育論III		
担当者名	渡辺　響子	実務家教員	○
科目コード	1100051	授業形態	講義
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-4-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生活習慣病をはじめとする多くの疾患の予防・治療のために、現行の食行動を変容させる必要がある人を援助し、食行動変容に関する理論と技法を学ぶ。そのために必要な心理、行動科学的理論を学ぶ。さらに、カウンセリングの理論とその技法を栄養教育へ応用する方法を理解し、栄養士・管理栄養士の現場において展開できるようにする。この講義では、行政や病院の管理栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の栄養指導について経験を踏まえて講義をする。 授業は、教科書にそってスライド及び当日配付の資料により説明、解説をして進めていく。 ロールプレイングを取り入れ、体験しながら、理解を深めていく。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 食行動変容に関する理論がわかる。 2. 食行動変容の段階と各ステージにおける心理的特徴と援助法がわかる。 3. 食行動変容により生じる心理的問題がわかる。 4. セルフコントロールの効用と問題点がわかる。 5. 栄養教育の目標設定の意義と方法を理解し、応用ができる。 6. 栄養教育の評価の種類と評価デザインについて理解する。 教科内容は，栄養教育論の国家試験問題の中では、難解の部分であるため、授業では練習問題を活用して理解を深める修練を行う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養教育の定義と目的 栄養教育と行動科学　行動の種類 レスポンデント行動とオペラント行動	事前：テキストの第２章を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
2	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論１ ヘルスビリーフモデル、計画的行動理論	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
3	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論２ トランスセオレティカルモデル（行動変容ステージモデル）	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
4	対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論 社会的認知理論、自己効力感、ソーシャルサポート	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
5	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論１ 大規模集団等の変化についての行動科学理論 コミュニティオーガニゼイション、エンパワメント、ソーシャルキャピタル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
6	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論２ ヘルスリテラシー	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
7	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論３ イノベーション普及理論、	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

8	栄養カウンセリング１ 　カウンセリングとは何か 　行動カウンセリングの方法論 　カウンセリングの基礎	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
9	栄養カウンセリング２ 　認知行動療法 　動機づけ面接	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
10	栄養カウンセリング３ 　行動療法面接の実際	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
11	行動変容のための技法１ 　ナッジ、刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
12	行動変容のための技法２ 　オペラント強化法、認知再構成法、目標宣言等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	行動変容のための技法３ 　ストレスマネジメント、社会技術訓練	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル１ 　ﾌﾟﾘｼｰﾄﾞ･ﾌﾟﾛｼｰﾄﾞﾓﾃﾞﾙ、生態学的モデル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル２ 　ソーシャルマーケティング	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前学習：食を取り巻く社会情勢について、日々、新聞、テレビ、インターネットのニュース等から情報を得ておく。
・事後学習：学習内容を整理して記載し、予習、復習を常に行ない、次週の授業に備える。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、小テスト	授業への積極的な取組み	
80%	10%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論〔改定第5版〕	武見ゆかり 、足達淑子 他編	南江堂

参考書又は参考資料等

・講義時に、適宜提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

成績評価について、
①課題は，期限を守って提出する。
②講義終了時に毎回、小テストを実施する。
③学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。
①～③を総合して習熟度を評価する。
・必要なものは事前に連絡をするので、忘れ物がない状態で授業には臨むこと。
・毎時間、必要な教材・資料として、プリントを適宜配付するので、各自ファイリングして活用すること。
・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	後日、オフィスアワーの時間を知らせるので、自由に質問に来てほしい。

授業科目名	栄養教育論実習Ⅰ		
担当者名	安倍　ちか、渡辺　響子	実務家教員	○
科目コード	1100052	授業形態	実習
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養教育論実習については、「栄養教育論Ⅰ」の学修を踏まえて、栄養教育の対象（学習者）の実態を把握して,課題を抽出し、それに基づいて計画を立て、教育を実施する。この実習では、行政及び病院の管理栄養士や栄養教諭の職務経験を有する教員それぞれが、対象者の実態把握の方法から栄養教育の立案、そして実践、評価、改善までの一連の流れについて、実践事例をもとにアドバイスし、実際にＰＤＣＡサイクルの体験学習をする。（ロールプレイ・グループワーク・プレゼンテーション・発表）具体的には、学習者個人または集団のライフステージに対応した情報収集、教材・学習方法・学習形態・メディアなどについての知識を深め、栄養教育に活かすことができるようスキルを習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 対象（個人、集団）の健康状態の把握に際して、各種実態調査方法を適用し、個人及び集団の情報データの入力をすることができるようになる。 2) 栄養評価(分析、データのまとめ、評価)のための情報収集ができるようになる。 3) 対象（個人、集団）の改善・解決のための栄養教育計画を各々に相応して、結果目標、行動目標等を設定し、立案できるようになる。 4) 対象（ライフステージ別）に相応した栄養教育教材の作成ができるようになる。 （グループワーク） 5) 高度な知識を対象者に適切（平易）な言葉で表現することや、カウンセリング技法を活用することで、行動変容を意識した栄養教育を行うことができるようになる。 （ロールプレイ・プレゼンテーション・発表） 6) 栄養教育のPDCAを事例報告としてまとめることができる。 これらの学習を通して、栄養教育をより効率的に行うための基本を修得し、管理栄養士課程の臨地実習に繋げる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション / 栄養教育の基礎知識1　（渡辺・安倍）	事前：栄養教育の目的や必要性について調べる。日本人の食事摂取基準（2020年版）、日本食品成分表について復習しておく。（90分） 事後：栄養教育への自分自身の心構えについてキーワードノートに整理する。日本人の食事摂取基準（2020年版）、日本食品成分表についてキーワードノートに整理する（90分）
2	栄養カウンセリング1： 栄養カウンセリングの基本的技法（ロールプレイ）　（安倍）	事前：栄養教育の必要なカウンセリングの基礎についてテキストを通読しておく。（90分） 事後：カウンセリングに必要な基本的技法についてキーワードノートに整理する。(90分)
3	栄養カウンセリング2： 栄養カウンセリングの演習（ロールプレイ）（安倍）	事前：栄養カウンセリングの基本的技法の活用方法について調べる。（90分） 事後：行動変容を目的とした栄養カウンセリングの応用についてキーワードノートに整理する。（90分）

4	実態把握の方法1： 栄養・食事調査　生活時間調査　（渡辺）	事前：課題（歩数・生活時間・食事調査）（120分） 事後：食事調査法の種類とその特徴についてキーワードノートに整理する。（60分）
5	実態把握の方法2： 身体状況調査（体重・体脂肪率等測定）　体力測定（握力測定）　（渡辺）	事前：身体状況調査について調べておく。（90分） 事後：身体状況調査のポイントについてキーワードノートに整理する。（90分）
6	実態把握の方法3： 医学的検査法（骨密度、上腕周囲長、安静時代謝等測定）/ 特定健康診査の実際 / 食品構成について　（渡辺）	事前：医学的検査法について調べておく（60分） 事後：医学的検査法についてキーワードノートに整理する。 課題：食品構成を用いた献立作成をする。（120分）
7	栄養評価1： 栄養診断の方法　（渡辺）	事前：栄養診断の方法について情報収集する。（90分） 事後：栄養アセスメントを行うための栄養診断の方法について整理する。(90分)
8	栄養評価2： 栄養評価の方法（グループワーク）　（渡辺）	事前：栄養評価の方法について情報収集する。（90分） 事後：栄養評価の方法に基づき、実習の調査結果についてキーワードノートに整理する。（90分）
9	栄養評価3：評価と結果のまとめ・発表準備 （グループワーク・スライド作成）（渡辺）	事前：評価結果について発表に向けてまとめておく。（90分） 事後：発表の原稿、スライドを確認し、追加・修正があれば行う。（90分）
10	栄養の基礎知識2： 栄養教育マネジメント　目標設定とモニタリングの実際（学習目標、行動目標、実施目標、環境目標、結果目標）　（安倍）	事前：栄養教育のマネジメントサイクルについてテキストを通読しておく。（90分） 事後：目標設定の意義と方法についてキーワードノートに整理する。（90分）
11	栄養教育法１： ライフステージ別栄養教育指導案の作成 （グループワーク）　（安倍）	事前：ライフステージ対象者の食に関する実態と課題について関連資料をもとに情報収集する。（90分） 事後：課題解決を目指した効果的な栄養教育指導案となるよう見直し、作成する。（90分）
12	栄養教育法2： ライフステージ別栄養教育の教材・媒体の計画 （グループワーク）　（安倍）	事前：各ライフステージに応じた栄養教育の教材・媒体について情報収集する。（90分） 事後：対象者の特性や発達段階に応じた教材・媒体についてキーワードノートに整理する。（90分）
13	栄養教育法3： ライフステージ別栄養教育の教材・媒体及びアンケートの作成（グループワーク）（安倍）	事前：アンケートの作成について情報収集する。（90分） 事後：対象者にわかりやすい教材・媒体になっているか、アンケート内容は適切かを確認する。（90分）
14	栄養教育法4： ライフステージ別栄養教育の実践及び協議、 （グループワーク・発表）　（安倍）	事前：ライフステージ別の栄養教育（発表）に向けて準備をする。（90分） 事後：実践した栄養教育を振り返り（自己評価）、キーワードノートに整理する。（90分）
15	栄養教育の評価 / まとめ： 栄養教育の評価、まとめ（プレゼンテーション）　（渡辺・安倍）	事前：栄養教育の評価についてテキストを通読しておく。（90分） 事後：評価指標をもとに栄養教育の評価を行うとともに、効果的な栄養教育への改善策について整理する。プレゼンテーションの練習をしておく。（90分）
準備学習・事後学習等についての補足説明		

・「キーワードノート」については、紙ベース若しくはＰＣ等を使用して作成すること。
・「キーワードノート」については、定期的に提出を求めるので、常に整理しておくこと。
・学習したカウンセリングの技法については、日ごろの学生生活の中で活用を心掛けること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への積極的な取組み（実習時の発表を含む）	
75%	10%	15%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論 改訂第5版	武見ゆかり、足達淑子 他著	南江堂

参考書又は参考資料等

日本人の食事摂取基準2020年版、日本食品成分表（八訂）、随時関連プリントを配布。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・グループディスカッションやグループワーク等を通して修得する科目であるため、グループ内での作業の取り組む姿勢や班員との協力態度なども評価に関わる。
・キーワードノートやレポートについても成績評価に関わるので、真剣に取り組むこと。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養教育論実習 II		
担当者名	長江　紀子	実務家教員	○
科目コード	1100053	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養教育論Ⅰ,Ⅱで学んだ栄養教育マネージメントの実際的活用を実習する。 ・傷病者の心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ・栄養教育に関する知識や技能を身につけ栄養指導を展開する上で基本的な資質・能力を養う。 ・傷病者の栄養状態･食行動･食環境等に関する情報の収集を分析し、行動科学やカウンセリングなどの理論や技術の実際の活用について体験的に学習し、グループ各人が目標達成のために演習（グループディスカッション）や実習（グループワーク）を活用し、総合的な栄養教育のマネージメントを学習する。最終授業時にて成果を発表する。
授業の到達目標〔学習成果〕	・傷病者に対する課題を理解し、栄養教育に関する知識や技能を身につけ栄養教育プログラムの計画・立案、実施、評価を実習し、栄養教育の実践能力を養うスキルを習得する。 さらに栄養教育を効果的に実践するためのコミュニケーション能力を向上させる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教科ガイダンス 　授業到達目標、授業の進め方や成績評価の説明 　栄養教育・指導実習の概要について説明する。 集団栄養教育のテクニック１ 　カウンセリング実習【グループワーク】 　集団を対象としたテーマを選定し、栄養教育に関する 　優先課題の抽出・目標設定の実施【グループワーク】	事前：栄養教育論Ⅰ・Ⅱで修得した学習内容を復習しておく。集団に対する栄養教育に関するテキストを通読しておく。（90分） 事後：栄養教育に対する取り組みのポイントをノートに整理する。（90分）
2	集団栄養教育のテクニック２ 　集団を対象とした栄養教育プログラムの立案および教材作成【グループワーク】	事前：集団に対する栄養教育に関するテキストを参考にプレゼンテーションが出来るようにしておく。（90分） 事後：学習内容をまとめ、グループでディスカッションした内容をサンプル栄養カルテに整理すること。（90分）
3	テーマ選定した集団に対しての栄養教育の実施（グループによるプレゼンテーション） 個人栄養教育のテクニック２ 　症例検討１（アセスメントおよび栄養介入計画） 　個人対象のテーマ選定と栄養教育による 　コミュニケーション技法の実習【グループワーク】	事前：個人に対する栄養教育に関するテキストを通読しておく。（90分） 事後：学習内容をまとめ、グループでディスカッションした内容をサンプル栄養カルテに整理すること。（90分）

4	個人に対する実態把握の方法と栄養教育の展開１ 　症例検討２：アセスメント（情報整理と実態把握）情報収集による問題点の確認 　症例検討３：栄養プログラム立案し影響教育実施と栄養診断用語を用いた報告書作成【グループワーク】	事前：栄養・食事調査・生活調査方法をテキストで確認する。（90分） 事後：学習内容をまとめ、サンプル栄養カルテに整理すること。（90分）
5	個人に対する栄養教育プログラムの立案１ 　個人に対する栄養アセスメント 　患者情報収集による栄養教育の展開【グループワーク】	事前：栄養教育における実態把握法とアンケート作成方法についてテキストを通読しておく。（90分） 事後：栄養教育における問題点をグループでディスカッションした内容を、サンプル栄養カルテに整理すること。（90分）
6	個人に対する栄養教育プログラムの立案２ 　個人の栄養課題の把握と整理 　疾患別アセスメントの実際と問題点の抽出【グループワーク】	事前：疾患別臨床栄養学をテキストで確認すること。（90分） 事後：疾患別のアセスメントをまとめ、整理する。（90分）
7	在宅・施設における栄養アセスメントの実際と問題点 　症例４：在宅療養者における栄養管理の実際 個人に対する栄養教育プログラムの立案３ 　栄養計画についてのディスカッション【グループワーク】	事前：在宅療養における年齢層や疾患についてテキストで確認すること。（90分） 事後：ディスカッションした内容をまとめ、記入用紙に整理する。（90分）
8	個人に対する栄養教育プログラムの立案４ 　疾患別目標設定とセルフモニタリング 　栄養相談におけるコミュニケーション【グループワーク】	事前：各疾患別アセスメント内容及び問題点についてテキストを通読しておく。（90分） 事後：学習内容をまとめ、ノートに整理すること。（90分）
9	実態把握の方法と栄養教育の展開２ 　必要栄養量と摂取栄養量の充足率による栄養教育の展開【グループワーク】	事前：食事摂取基準　食事摂取基準についてテキストを通読しておく。（90分） 事後：学習内容をまとめ、ノートに整理すること。（90分）
10	実態把握の方法と栄養教育の展開３ 　個人に対する栄養教育展開のグループ発表 　栄養教育媒体作成【グループワーク】	事前：対象者に合った教育媒体のポイントをノートに整理する。（90分） 事後：学習内容をまとめ、ノートに整理すること。（90分）
11	栄養教育の展開４ 　栄養教育媒体作成【グループワーク】	事前：対象者の栄養教育計画のポイントをノートに整理する。（90分） 事後：学習内容をまとめ、ノートに整理すること。（90分）
12	栄養教育の展開５ 　栄養教育展開におけるコミュニケーションの技法や配慮、 　行動変容につながる支援についての検討 　栄養教育プログラムのシナリオ作成【グループワーク】	事前：栄養教育のモニタリングについてノートに整理する。（90分） 事後：対象者に適切なコミュニケーションがとれる内容かを確認する。媒体作成学習内容をまとめ、ノートに整理すること。（90分）

13	個人に対する栄養教育の実施 ロールプレイングによるグループ発表 栄養教育の評価	事前：栄養教育のシナリオを読み込んでおくこと。（90分） 事後：各班の発表テーマに対してアセスメントや問題点・栄養教育内容及び評価をレポートにまとめる。（90分）
14	個人に対する栄養教育の実施 ロールプレイングによるグループ発表 栄養教育の評価	事前：栄養教育のシナリオを読み込んでおくこと。（90分） 事後：各班の発表テーマに対してアセスメントや問題点・栄養教育内容及び評価をレポートにまとめる。（90分）
15	栄養教育実施報告書の作成 症例検討4に対して報告書の作成 栄養ケアマネージメントのまとめ	事前：配布資料を通読しておくこと。（90分） 事後：実践した栄養教育の自己評価や反省点をレポート様式に記載しておく。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰで習った内容を理解した上で実習に望むこと。
授業計画に沿ってグループディスカッションやグループワーク等を通して栄養教育を実践的に修得していく科目であるため、コミニュニケーションを図りながら協力して授業に望むこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への積極的な取組	レポート	プレゼンテーション
60%	20%	10%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

＊「栄養教育論実習Ⅰ」「臨床栄養学Ⅰ」で使用のテキスト及び食事摂取基準2020年版

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

各自のPCを用いて資料作成を実施する場合はインターネット環境を整えて受講して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	授業終了後10分間は、2号館4階客員教授室にて質問等対応可。

授業科目名	臨床栄養学Ⅰ		
担当者名	沖　勉	実務家教員	
科目コード	1100054	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者必修・食品衛生監視員必修
ナンバリング	DP2-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	疾病の発症のメカニズム、疾病による人体の構造や代謝の変化、疾病の症状・合併症、疾病の診断方法、疾病の治療全般について学ぶ。 疾病に対して栄養学的にどのように対応するのかを学ぶ。 講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。
授業の到達目標〔学習成果〕	①　疾病の基本的な病態生理を簡単に説明できる。 ②　疾病の治療に対する栄養療法を簡単に説明できる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養・代謝系疾患①：栄養障害、糖尿病①	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
2	栄養・代謝系疾患②：糖尿病②	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
3	栄養・代謝系疾患③：脂質異常症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
4	栄養・代謝系疾患④：肥満	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
5	栄養・代謝系疾患⑤：高尿酸血症・痛風	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
6	栄養・代謝系疾患⑥：先天性代謝異常消化器系疾患：消化管疾患（口腔～肛門）	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
7	消化器系疾患（口腔～肛門）	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
8	肝疾患：ウイルス性肝炎、肝硬変、脂肪肝	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
9	膵・胆道疾患、消化器癌全部	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）

10	内分泌系疾患①：ホルモン概論、脳下垂体異常、甲状腺異常	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
11	内分泌系疾患②：副甲状腺異常、副腎異常	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
12	アレルギー性疾患　自己免疫疾患	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
13	神経・精神系疾患①：摂食障害、認知症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
14	神経・精神系疾患②：アルコール依存症、脳血管障害	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）
15	感染症	予習：教科書の該当箇所の確認　（20分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。
復習のために、Googleフォームでの「小テスト」を毎回実施する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド　臨床医学　疾病の成り立ち　第3版	田中　明、宮坂京子等 編	羊土社

参考書又は参考資料等

既に購入している教科書の関連分野（生化学、解剖生理学など）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

講義中の私語は厳禁。
他の受講生の迷惑になるので退室させる。
質問があれば、挙手して適宜質問すること。
小テストは成績評価の対象なので、毎週送信すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	臨床栄養学 II		
担当者名	池本　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100055	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養管理はすべての疾患治療の基本であるといわれている。安全で適切な栄養管理を行うことのできる力を養うため、疾患を十分に理解し、各種疾患と栄養の関連性、および栄養療法について学ぶ。この講義では、超急性期から慢性期まで、様々な病院での管理栄養士経験を有する教員が、種々の疾患に関する栄養療法について講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。経口、経腸、経静脈による栄養投与法についての知識を習得し、臨床において適切な栄養療法を行うための臨床栄養学的知識を習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 各種疾患の基本的な病態生理に関する知識を習得する。 2) 栄養療法の基本とその重要性について理解を深める。 3) 各種疾患における適切な栄養療法についての理解を深め、説明できるようになる。 4) 主要な臨床検査における正常値に関する知識を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法についての説明。 栄養療法の基本と臨床検査	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
2	疾患別栄養管理(1)：消化管疾患(1)～口腔・上部消化管疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
3	疾患別栄養管理(2)：消化管疾患(2)～下部消化管疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
4	疾患別栄養管理(3)：消化器疾患(1)～肝臓	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
5	疾患別栄養管理(4)：消化器疾患(2)～胆嚢・膵臓	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
6	疾患別栄養管理(5)：循環器系疾患(1)～高血圧・動脈硬化	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

7	疾患別栄養管理(6)：循環器系疾患(2)～心疾患・脳血管疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
8	疾患別栄養管理(7)：内分泌系疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
9	疾患別栄養管理(8)：神経・精神系疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
10	疾患別栄養管理(9)：呼吸器系疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
11	疾患別栄養管理(10)：運動器系疾患、高齢期疾患・褥瘡	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
12	疾患別栄養管理(11)：がん、周術期の管理と栄養投与法	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
13	疾患別栄養管理(12)：クリティカルケア、摂食嚥下障害	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
14	疾患別栄養管理(13)：妊産婦疾患	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
15	疾患別栄養管理(14)：栄養療法についてのまとめ	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認)を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・「事後学習」については、紙ベースで作成するものの、必ずしも1冊のノートでなくてもよい。ただし、毎回のものが紛失しないように累積してまとめておくこと。
・単元ごとに実施する小テストについては、事後学習に活用する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト・授業態度等		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾病別編　改訂第3版	本田佳子、土江節子、曽根博仁	羊土社

参考書又は参考資料等

栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学
　基礎編　改訂第3版

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・単元ごとに、授業習得状況確認（小テスト形式）を行います。これは成績評価に関わるものなのでもあり、フィードバック資料として、定期試験に向けた学習にも活用できます。
・講義中の私語は厳禁です。スマホは指示がない限り授業中の使用は禁止します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問があれば挙手して適宜質問すること。

授業科目名	臨床栄養学III		
担当者名	青佐　泰志	実務家教員	
科目コード	1100056	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床の場において、各個人に対応した栄養管理を行うために、栄養スクリーニング・栄養アセスメント・栄養ケアプランの作成・実施・モニタリング・評価、栄養ケアの記録法、薬と栄養・食事の相互作用などの知識と技術を養う。また、疾患別の生理的特徴や栄養代謝の異常を理解し、適切な栄養管理が行えるよう知識を養う。この講義は、臨床の場で実務経験を有する教員が、様々な疾患、病態に対して適切な栄養管理（栄養ケア・マネジメント）のシステムについて紹介し、傷病者や要支援者のQOLを向上させることを目的に考察する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理を行うための能力を修得する。 2)栄養ケアシステムにおける栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成（食事療法および栄養補給方法、栄養教育）、実施、モニタリングと再評価について理解する。 3)栄養ケアの記録方法について技術を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション 臨床栄養学の概念①: 臨床栄養学の意義と目的 医療・介護制度の基本	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
2	臨床栄養学の概念②: 医療・介護制度の基本	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
3	臨床栄養学の概念③: 医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
4	傷病者・要介護者の栄養アセスメント①:栄養ケアシステム	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
5	傷病者・要介護者の栄養アセスメント②: 身体計測、臨床検査、栄養・食事調査	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
6	傷病者・要介護者の栄養アセスメント③:必要栄養量の算出	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
7	栄養ケアの計画と実施①: 栄養補給法、栄養・食事療法	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
8	栄養ケアの計画と実施②: 目標設定と栄養管理計画	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
9	疾患別栄養管理: 代謝系疾患・栄養障害① 低栄養・肥満症	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
10	疾患別栄養管理: 代謝系疾患・栄養障害② 糖尿病	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
11	疾患別栄養管理: 代謝系疾患・栄養障害③ 脂質異常症・高尿酸血症、痛風・代謝異常	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
12	疾患別栄養管理：循環器系疾患① 高血圧・動脈硬化	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）

13	疾患別栄養管理：循環器系疾患② 虚血性心疾患・心不全	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
14	疾患別栄養管理：血液・造血系疾患	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）
15	疾患別栄養管理：小児疾患	事前：テキスト指定範囲を通読していくこと（60分） 事後：学習内容をまとめ、ノート整理をすること（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

栄養・食事療法や栄養補給法については、人体の構造と機能及び成り立ち、応用栄養学とも関連づけた知識が必要です。また、疾患と臨床検査値との関係を理解しておくことも大切です。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト・授業の取り組み		
85%	15%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイティッド臨床栄養学　基礎編　第3版	本田圭子	洋土社
栄養科学イラストレイティッド臨床栄養学　疾患編　第3版	本田圭子	洋土社

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

臨床栄養学の意義や目的を理解することは、臨床の場における栄養ケア・マネジメントの方法に繋げることができます。臨地実習に応用できる力をつけるため真剣に取り組んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食物とアレルギー		
担当者名	池本　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100057	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、アレルギー疾患は急増しており、国民病的な様相を呈している。なかでも食物アレルギーの占める割合は多く、特に、食物アレルギー患者の最も多い乳幼児期や学童期については安全な食事提供のための種々のガイドラインも出ている。このような中、食べ物により重篤な症状を呈することのある食物アレルギーについて深く理解しておくことは管理栄養士として重要である。この講義では、長年アレルギー専門病院での管理栄養士経験を有する教員が、食物アレルギーと安全な食事提供について講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。ここでは食物アレルギーに関する基礎知識を習得し、食物アレルギーの症状、診断法、治療法、除去食療法などなどの実際について学習するとともに、保育所、学校、病院、行政等における対応を討議･発表等をとおして習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) Ⅰ型～Ⅳ型アレルギーについて、それぞれの発症機序と症状について習得する。 2) 食物アレルギーの発症機序と症状、各種食物アレルゲンについて理解し、説明できるようになる。 3) 除去食療法について理解し、献立展開に活用できるようになる。 4) 保育所、学校、病院等における食物アレルギーの対応について習得する。 5) 食物アレルギーの栄養指導について理解し、実践に繋げることができるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法についての説明。 免疫・アレルギー系疾患について	事前：掲示またはUNIPAにて通知する内容について通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
2	自己免疫疾患について 後天性免疫不全症候群（AIDS)について	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
3	食物アレルギー疾患とは	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
4	食物アレルギーの原因食品と対応(1)：卵・牛乳・小麦	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
5	食物アレルギーの原因食品と対応(2)：ソバ・ピーナツ・くるみ・甲殻類　除去食について	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

6	食物アレルギーの原因食品と対応(3)：その他の食品	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
7	特殊型食物アレルギー 成人のアレルギー	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
8	加工食品とアレルギー表示	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
9	アレルギー除去食献立の実際	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
10	食物アレルギーの栄養指導と面接技法	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
11	病院における食物アレルギーの対応	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
12	保育所における食物アレルギーの対応	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
13	学校における食物アレルギーの対応	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたノートを作成すること(90分)
14	行政(保健所)、および災害時における食物アレルギーの対応 災害時の対応について小グループでの討議･発表	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
15	まとめ	事前：テキスト指定範囲（授業終了時に通知)を通読しておくこと(90分) 事後：指定した範囲のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・「事後学習」については、紙ベースで作成するものの、必ずしも1冊のノートでなくてもよい。ただし、毎回のものが紛失しないように累積してまとめておくこと。
・単元ごとに実施する小テストについては、事後学習に活用する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
新版　食物アレルギーの栄養指導　第2版	海老澤元宏監修、今井孝成、髙松伸枝、林典子	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

・栄養科学イラストレイテッド「臨床栄養学　疾患別編」　改訂第3版　本田佳子、土江節子、曽根博仁（羊土社）
・「食物アレルギー診療ガイドライン2021」海老澤元宏、伊藤浩明、藤澤隆夫 監修（協和企画）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・単元ごとに、授業習得状況確認（小テスト形式）を行います。これは成績評価の対象となるだけでなく、フィードバック資料として、定期試験に向けた学習にも活用できます。
・講義中の私語は厳禁です。スマホは指示がない限り授業中の使用は禁止します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅰ		
担当者名	青佐　泰志	実務家教員	
科目コード	1100058	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	傷病者の病態や栄養状態の特徴を把握し、疾患・病態別に個々人に対する栄養ケアマネジメントを行うための知識・技術を修得することを目的とする。臨床の場における疾患別献立作成、調理技術を修得し、供食としての症例を理解する。また、疾患別に食事計画を作成し、食事療法の基本に沿った栄養管理の実施方法を学習する。この講義は、臨床の場で実務経験を有する教員が、様々な疾患、病態に対して適切な栄養管理について紹介し、傷病者や要支援者のQOLを向上させることをを目的に考察する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1）傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアマネジメントができる実践的な能力を養う。 2）病院食の疾患別分類と成分別分類の栄養管理（献立作成、実習、評価）を行い、各種疾患の食事について理解し、実践力に繋げることを目標とする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション、臨床における栄養管理	事後：授業を復習し、配布資料を整理する（60分）
2	栄養補給法,一般治療食と栄養成分別管理（特別治療食）	事後：授業を復習し、演習プリントを整理する（60分）
3	一般治療食の栄養食事療法（実習1）：全粥食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
4	栄養主成分別管理（1）：エネルギーコントロール食（演習） 糖尿病の栄養食事療法、献立作成	事後：授業を復習し、演習プリントを整理する（60分）
5	特別治療食の栄養食事療法（実習2）：糖尿食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
6	一般治療食の栄養食事療法（実習3）：減塩食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
7	栄養主成分別管理（2）：たんぱく質コントロール食（演習） 急性・慢性腎炎、腎不全、ネフローゼ、透析、肝不全	事後：授業を復習し、演習プリントを整理する（60分）
8	特別治療食の栄養食事療法（実習4）：腎臓食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
9	特別治療食の栄養食事療法（実習5）：透析食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
10	栄養主成分別管理（3）：脂質コントロール食 脂質異常症、胆道系疾患、膵臓疾患	事後：授業を復習し、演習プリントを整理する（60分）
11	特別治療食の栄養食事療法（実習6）：脂質コントロール食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
12	特別治療食の栄養食事療法（実習7）：易消化食、術後食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
13	栄養主成分別管理（4）：嚥下調整食 フレイル、嚥下摂食障害、嚥下検査、嚥下訓練	事後：授業を復習し、演習プリントを整理する（60分）
14	栄養食事療法（実習8）：嚥下調整食	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）
15	疾患別栄養管理のまとめ	事後：実習を復習し、配布資料を整理する（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」の学習内容（各種疾患の特徴・治療・予防）を理解しておくことが必要です。また、調理の技術や給食管理の知識も必要です。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題等		
60%	40%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
臨床栄養学実習書	玉川和子、口羽章子、木戸詔子編著	医歯薬出版
糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表	日本糖尿病学会編 黒川清、中尾俊之	文光堂 医歯薬出版

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

身体の構成成分・代謝機能について理解を深め、食品との関係を学び、実際の食事と結びつけて考えられるようにしましょう。献立作成の課題を課します。成績評価に関わるものですので必ず提出してください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	臨床栄養学実習 II		
担当者名	池本　美智子、青佐　泰志、大久保　孔平	実務家教員	○
科目コード	1100059	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP2-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	〔大久保〕講義→スライド→実習と進め、実習中により詳しく知識を深める。 〔池本〕個々の症例に応じた栄養ケアを行うには、的確な栄養アスメントを行い、問題点を抽出し、栄養計画を立てることのできる力が必要である。この実習では、病院管理栄養士経験を有する教員が、症例を用いて様々な栄養療法についての演習を行う。また、グループ別にテーマに 沿った研究を行い、実践的なアセスメント能力を養い、症例に応じた栄養管理技能を習得し、チーム医療に参 画できる力を養う。 〔青佐〕臨床栄養学実習 I に引き続き栄養食事療法の基本的技術とともに、個々の症例に対応した栄養管理計画書を立案するための能力を養う。この講義は、臨床の場で実務経験を有する教員が、病態に対して適切な栄養管理について紹介し、傷病者や要支援者のQOLを向上させることを目的に考察する。
授業の到達目標〔学習成果〕	〔大久保〕管理栄養士の国家試験合格を目指し、過去の国家試験を見直し、内容を把握し、自身の力とできるようにする。 〔池本〕個々の症例に応じた栄養ケアマネジメントの実施ができるようになる。 〔青佐〕傷病者の病態や検査値に基づいた栄養管理の立案を行うことができ、栄養食事指導等の栄養療法が提供出来るよう実践的な能力を養う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	臨床検査総論―臨床検査とは：基準値・検査の見方 （大久保）	
2	尿一般検査―講義（泌尿器系）－実習 ①試験紙法　②沈渣（大久保）	
3	血液検査－講義（貧血について）－実習 塗抹標本作成 （大久保）	
4	感染症－病原微生物・免疫－実習 染色判定・錠検判断（大久保）	
5	寄生虫―食品中の寄生虫、スライドにて講義（大久保）	
6	オリエンテーション 栄養ケアマネジメント①：栄養補給法（経腸･経静脈栄養） 栄養剤の試飲 栄養管理プロセスとは　（池本）	事後：授業を復習しておくこと(30分) グループ研究について内容検討を進めておくこと(30分)
7	栄養ケアマネジメント②：栄養スクリーニングと栄養アセスメント 症例検討（池本）	事後：授業を復習し、演習プリントを完成させておくこと(30分)
8	栄養ケアマネジメント③：栄養管理プロセス(1)・ 症例検討（池本）	事後：授業を復習し、演習プリントを完成させておくこと(30分)

9	栄養ケアマネジメント④：体組成分析 栄養管理プロセス(2)・症例検討（池本）	事後：授業を復習し、演習プリントを完成させておくこと(30分)
10	栄養ケア記録：問題志向型システム（POS）の活用、SOAPに基づく記録	事後：授業内容を復習し、演習プリントを整理させておくこと（60分）
11	栄養ケア記録：栄養管理計画書の作成① 栄養管理報告書・栄養管理計画書の基本	事後：授業内容を復習し、演習プリントを整理させておくこと（60分）
12	栄養ケア記録：栄養管理計画書の作成② 症例検討（1）	事後：授業内容を復習し、演習プリントを整理させておくこと（60分）
13	栄養ケア記録：栄養管理計画書の作成③ 症例検討（2）	事後：授業内容を復習し、演習プリントを整理させておくこと（60分）
14	栄養ケア記録：栄養管理計画書の作成④ 症例検討（3）	事後：授業内容を復習し、演習プリントを整理させておくこと（60分）
15	栄養ケアマネジメント⑤：疾患別栄養管理プロセス(3)（班別研究発表）（池本）	事後：他の班の発表内容をまとめておくこと（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

〔池本〕「事後学習」については、授業で用いた演習プリントを完成させ、次回の授業開始時に提出すること。また、適宜小テストを受けることにより、学んだ知識の定着を図ること。
〔青佐〕各種疾患の特徴・治療・予防を理解しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

第1回～第5回	第6回～第9回、および第15回	第10回～第14回	
33%	①定期試験　25%②提出物・班研究9%	①定期試験　20%②提出物　13%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編　改訂第3版 臨床栄養学実習書	本田佳子　土江節子　曽根博仁 玉川和子　口羽章子　木戸詔子	羊土社 医歯薬出版

参考書又は参考資料等

栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学　疾患別編　改訂第3版（羊土社）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

〔池本〕
・「事後学習」としての演習プリントの完成度は、成績評価に関わるものなので、真剣に取り組んでください。
・演習プリントは返却しますので、フィードバック資料として、定期試験に向けた学習や臨地実習時に活用してください。
・班別研究発表も成績評価に関わります。班員全員で協力して真剣に取り組んでください。
〔青佐〕
・身体の構成成分・代謝機能について理解を深め、患者さんに適切な栄養療法が提供できるように栄養管理計画書の立案に取り組みます。演習のプリントは評価に関わります。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	公衆栄養学Ⅰ		
担当者名	大村　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100060	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆栄養学は、人間集団を観測対象とし、食べ物を主な要素とする栄養学である。ヒトの健康問題がどの因子に基づくものであるのか、その問題解決のためにはどのようにすべきかを解明して、疾病予防・健康増進を図るものである。 日本人がかかえている疾病の多くは、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、取り巻く環境・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集し・分析し、総合的に評価・判定する能力を養成する。また、地域公衆栄養活動を展開するうえでの理論と実際についても考察する。公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっているPDCAサイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする
授業の到達目標〔学習成果〕	公衆栄養学には基礎となる法の理解が必要となる。まず、法について理解を深めるとともに、客観的に説明できるようにする。 地域に根付いた集団の特性や諸問題を把握したうえ、データを用いて分析評価する方法を取得する。 公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する方法を修得し企画、実践できるようにする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法について説明 公衆栄養学の概念について	事後：使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成すること（90分）
2	公衆栄養活動 ヘルスプロモーション 疾病予防のための公衆栄養活動	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：疾病予防について、どんなものがあるのかを具体的に例示をあげてレポートを作成すること（90分）
3	事後学習で調べたことを発表する。 公衆栄養活動の歴史（～戦前）	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：授業内容について復習しておくこと（90分）
4	公衆栄養活動の歴史（戦後～）	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：歴史の背景についてより詳細に調べ、レポートを作成すること（90分）
5	健康・栄養問題の現状と課題 栄養健康状態の変遷と疾病構造の変化について小グループで話し合いグループ別発表を行う	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関係する情報収集を行い、復習をすること（90分）

6	健康・栄養問題の現状と課題 食事の変化について各自で調べ、発表を行う。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関係する情報収集を行い、レポートを作成すること（90分）
7	健康・栄養問題の現状と課題 食環境の変化ついて各自で調べ、発表を行う。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと90分） 事後：次回確認テストを行うので、2回から7回までの復習をすること（90分）
8	2回から7回までの内容の確認テストを行う。 フードバランスシート 食料自給率	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関係する情報収集を行い、レポートを作成すること（90分）
9	諸外国の健康・栄養問題の現状 開発途上国の問題点について小グループで調べ、発表する。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：教科書に載っている練習問題をしてくること（90分）
10	家庭学習で行った練習問題について解答、説明を行うので各自で採点 諸外国の健康・栄養政策	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：教科書に掲載されている練習問題について、再確認を行う。諸外国の政策についてどのようなものがあるか、調べる（90分）
11	諸外国の政策についてどのようなものがあるか、調べ、発表する。 公衆栄養活動と関連法規	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、8回から11回までの復習をすること（90分）
12	8回から11回までの内容の確認テストを行う。 栄養士法 管理栄養士・栄養士の社会的役割	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：テストをもう一度見直して、理解を深めておくこと（90分）
13	管理栄養士と栄養士の違いについて発表すること 地域保健法 保健所と保健センターの役割	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：保健所と保健センターの役割についてより詳しく調べておくこと（90分）
14	保健所と保健センターの違いについて発表すること 母子保健法 高齢者の医療の確保に関する法律	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、12回から14回までの復習をすること（90分）
15	我が国の公衆栄養活動と関連法規について発表する。 12回から14回までの内容の確認テストを行う。 まとめ	事前：公衆栄養活動と関連法規について発表できるようにわかりやすくまとめる（90分） 事後：講義全体の復習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

キーワードノートについては9回目,14回目の講義後に提出を求める。10回目、15回目の講義時に返却する。
発表する箇所については自分でわかりやすく発表できるように練習しておくこと。プレゼンの方法についても理解しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学「改訂第8版」	古野純典 他	南江堂

参考書又は参考資料等
・厚生労働省のホームページからのプリントアウト ・新聞

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
机上で学んでいることが実践できた時の達成感を味わってほしい。日頃から社会情勢に関心をもち、栄養食生活改善がどのように地域で展開されているか経験してほしい。わからないことは積極的に質問してほしい。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	公衆栄養学Ⅱ		
担当者名	大村　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100061	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆衛生学の主目的は集団の健康の維持・増進と疾病の予防を図るものであり、地域保健・地域医療の概念のもとに実践活動を伴う。現在の公衆衛生活動の内容は、簡単にいえば「集団の中での疾病。若年死亡および疾病がもたらす不快感や障害を減らすこと」である。 疾病の発生要因の1つに栄養が関与しており関与の程度が大きい時には、公衆衛生活動は公衆栄養活動になる。 公衆栄養学は栄養改善を通して公衆衛生の向上をはかる実践科学であり疾病・健康モニタリングから栄養政策までを包含する幅広い学問である。 公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっているPDCAサイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする。
授業の到達目標〔学習成果〕	公衆栄養学は栄養改善を通して公衆衛生の向上を図る実践科学である。疾病・健康モニタリングから栄養政策までを包含する幅広い学問である。保健統計の動向など、データを用いて分析評価する方法を取得する。疫学の基本知識、栄養政策、栄養疫学、栄養プログラムの計画・実施を理解し健康政策の全体像を客観的に説明できるようにする。 公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する方法を習得し企画、実践できるようにする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション 公衆栄養学Ⅰの復習 令和5年度の管理栄養士国家試験の傾向など踏まえての振り返り	事後：講義全体の復習を行う（90分）
2	国民健康・栄養調査 調査の目的、調査方法、内容	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：使用した用語の意味を調べ、授業の復習をすること（90分）
3	令和4年度国民健康・栄養調査結果	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：令和4年度調査結果について、レポートを作成すること（90分）
4	令和4年度調査結果についてまとめたものを発表 食生活指針、食事バランスガイド まとめ	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、2回から４回までの復習をすること（90分）
5	２回から４回までの内容の確認テストを行う。 健康日本２１の概要 健康日本２１（第3次）について 基本的方向および最終評価について調べる。	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：健康日本２１（第3次）についてレポートを作成すること（90分）
6	健康日本２１（第3次）について 基本的方向および最終評価について調べたことについて発表	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：使用した用語の意味を調べ、授業の復習をすること（90分）

7	特定健康診査・特定保健指導 保健指導対象者の選定と階層化について演習 2人1組で問題を作り、相互に階層化する	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：階層化について解釈を加えたレポートを作成すること（90分）
8	特定健康診査・特定保健指導の実際について演習を行う。 データヘルス計画についての理解	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、5回から8回までの復習をすること（90分）
9	5回から8回までの内容の確認テストを行う。 栄養疫学の概要	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：教科書に載っている練習問題をしてくること（90分）
10	家庭学習で行った練習問題について解答、説明を行うので各自で採点 栄養疫学のための食事調査法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成すること（90分）
11	食事摂取量の測定方法 2人1組で対象者と面接者になってロールプレイングを行う。	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成すること（90分）
12	9回から11回の内容の確認テストを行う。 公衆栄養アセスメント 既存資料活用の方法と留意点について各自でまとめて、発表	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：テストの間違ったところを確認し、理解しておくこと（90分）
13	公衆栄養プログラムの評価 評価方法について各自でまとめ発表する	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：公衆栄養プログラムの評価について、解釈を加えたレポートを作成すること（90分）
14	食環境整備のためのプログラムの展開 地域集団の特性別プログラムの展開	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、12回から14回までの復習をすること。（90分）
15	12回から14回までの内容の確認テストを行う。 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ全体を通して質疑応答を行う。 まとめ	事前：公衆栄養学全体を通して、理解を深め、わからないところをまとめておく。（90分） 事後：講義全体の復習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業の終わりに小テストを行い理解できたかの確認をする。
・配布したプリントは、整理してファイリングする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学「改訂第8版」	古野純典他	南江堂

参考書又は参考資料等

・厚生労働省、農林水産省、文部科学省・総務省統計局のホームページe-Stat（政府統計の総合窓口）よりプリントアウト

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・公衆栄養学で学んだことが実践の場で使用できるように、日頃から疑問を持った時、自分で調べる習慣を身に着ける。特に、疫学、栄養疫学などは、自己学習が必要になる。
担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	公衆栄養学実習（学内）		
担当者名	大村　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100062	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP1-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆栄養学実習は公衆栄養学の講義と保健所実習をつなぐものと位置づけ、講義の復習と臨地実習に参加したときに戸惑わないように準備することが重要である。 保健所、保健センターでの実習が円滑にいくために、保健所、保健センターの役割、行政栄養士の役割を学ぶと同時に、地域の健康問題や食生活の把握を行うための手段や方法、および栄養関連情報の収集と情報処理、管理を行うための知識と技術を修得する。 保健福祉行政に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっているPDCAサイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする。 コミュニケーション能力を要求されるので、人前での発表を授業の中に毎回取り入れていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 保健所、保健センターの役割を理解し、客観的に説明できるようにする。 2. 地域診断をするための、データを用いて分析・評価する方法を習得する。。 3. 公衆栄養活動の健康問題、栄養問題をアセスメントし問題解決の討議ができるようになる。 4. ライフスタイル別の健康、栄養問題を理解し、解決策が提案できるようになる。 5. 人前で臆することなく堂々と発表ができるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション 公衆栄養学実習の考え方と目的について 皆の前で3分発表 （発表する力、時間の感覚を養う）	事後：個人の実習目標、目的を明確にするため、レポートを作成する。（90分）次回提出
2	公衆栄養学の情報の検索方法、 我が国の公衆栄養問題	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：検索した結果に基づき自分で分析しレポートにまとめる（90分）次回提出
3	母子保健事業の実際 妊産婦、乳児、幼児の実態把握 課題の洗い出しをグループディスカッションにより行い、取り扱う世代を決める	事前：（前回授業終了時、通知）母子保健事業についてどのような文献があるか検索する（90分） 事後：指定した文献について更に理解を深め自分のものとする（90分）
4	母子保健事業の栄養指導・媒体作成（パワーポイント使用） 指導媒体作りをグループワークで行う	事前：（前回授業終了時、通知）それぞれ決定した内容についての文献を通読する（90分） 事後：媒体作り、発表文の練習（90分）
5	母子保健事業の発表	事前：（前回授業終了時、通知）予想質問を考え調べておく。情報収集（90分） 事後：他の人の発表についての感想をレポートする（90分）次回提出

6	食事調査の種類と具体的な方法 2人1組ペアになってお互いに作成した調査票を使用し、実施する	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：具体的な方法（食事記録法）を自分で作成し、レポートにまとめる（90分）次回提出
7	公衆栄養アセスメント、ヘルスプロモーション活動 プリシード・プロシードについて小グループでのディベートを行い目標達成のための作業を行う。	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：PDCAサイクルにあった施策の方法について調べ、自分の考えに従ってレポートする（90分）次回提出
8	地域診断・根拠に基づく健康施策の進め方 保健衛生上のデータの活用	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：検索した結果に基づき自分で分析しレポートにまとめる（90分）次回提出
9	国民健康・栄養調査の集計と解析	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：検索した結果に基づき自分で分析しレポートにまとめる（90分）次回提出
10	高齢者の健康問題・施策・対策を考える 課題の洗い出しをグループディスカッションにより行い、目標を決める。 高齢者事業の栄養指導・媒体作成（模造紙使用）をグループワークで行う	事前：（前回授業終了時、通知）高齢者についてどのような文献があるか検索し、通読する（90分） 事後：発表原稿の作成、時間内におさまるよう発表練習（90分）
11	高齢者事業の発表	事前：（前回授業終了時、通知）予想質問を考え調べておく。情報収集（90分） 事後：他の人の発表についての感想を作成する（90分）次回提出
12	公衆栄養施策 健康づくり運動の変遷 健康日本２１（第3次）、第4次食育推進基本計画を基に施策について考える	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：検索した結果に基づき自分で分析しレポートにまとめる（90分）
13	臨地実習地の健康・栄養問題を考える	事前：（前回授業終了時、通知）自分が行く実習先について調べる（90分） 事後：保健所と保健センターの違いについてまとめておく（90分）次回提出
14	臨地実習先の概要、目的、目標などについて発表	事前：（前回授業終了時、通知）予想質問を考え調べておく。情報収集（90分） 事後：他の人の発表についての感想をレポートする（90分）次回提出
15	特定健診・特定保健指導の階層化、栄養指導（2人1組で実施） まとめ	事前：テキストの指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：レポートのフィードバックを活用し講義全体を復習する。（90分）
準備学習・事後学習等についての補足説明		

・実習中はいろいろな人とのコミュニケーションが必要になるので、日頃からコミュニケーションが取れるように心がける。
・実習中の課題に、集団栄養指導などががあるので、栄養指導方法を学ぶ。
・特定保健指導で個人栄養指導もあるので、臨床栄養学などしっかり学ぶ。
・実習において、調理もあるので、日ごろから調理をするよう努める。
・「臨地実習Ⅱ」は、調理学、応用栄養学、応用栄養学実習、栄養教育論、栄養教育論実習、臨床栄養学等の知識が必要になるので、関連のある項目の予習復習の際にはこれらの関連科目の教科書と照らし合わせて理解を深めること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	指導用媒体作成の取組みと作品等	発表
60%	20%	10%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

・厚生労働省、農林水産省、文部科学省・総務省統計局のホームページe-Stat （政府統計の総合窓口）よりプリントアウトし、配布する。
・市政だより

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・提出物については、期限を守る。
・課題に関してわからないことは、授業中、外問わず積極的に質問すること。
・携帯電話を扱うことは厳禁。携帯電話を見るなどしている場合は没収することもある。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義後など随時質問に応じる

授業科目名	給食管理		
担当者名	中野　眞弓	実務家教員	○
科目コード	1100063	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	特定給食施設利用者への具体的な「栄養・食事管理」と「経営管理」を中心に学修し、計画・調理・サービスを行うために必要な給食業務全般を総合的にマネジメントできる能力を修得する。さらに関連法規、給食施設の種類や特徴等を把握し、給食経営管理の遂行に不可欠な基礎知識を学ぶ。本授業では事業部給食課、社会福祉施設等での勤務実績を基に給食管理全般を円滑に管理経営するための基本的な知識・技術について実務に沿った講義を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	管理栄養士養成課程におけるコアカリキュラムの「特定多数の人々の健康・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目的とした栄養・食事管理を効率的に継続して実施するシステム及びマネジメント」を給食経営管理の概念に基づき理解できるようにする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	給食の概念　(1)給食の概要	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
2	給食の概念　(2)給食システム	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
3	給食の概念　(3)給食を提供する施設と関係法規 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
4	栄養・食事管理　(1)栄養・食事管理の概要	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
5	栄養・食事管理　(2)栄養スクリーニングと栄養アセスメント　演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
6	栄養・食事管理　(3)栄養・食事の計画	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
7	栄養・食事管理　(3)栄養・食事の計画	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
8	栄養・食事管理　(4)栄養・食事計画の実施、評価、改善　　演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
9	給食の生産(調理)　(1)食材	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
10	給食の生産(調理)　(2)生産(調理)と提供	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
11	給食の生産(調理)　(2)生産(調理)と提供	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
12	給食の安全・衛生　(1)安全・衛生の概要と実際 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
13	給食の安全・衛生　(2)事故・災害時対策	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）

14	給食の安全・衛生　(2)事故・災害時対策 事例を通してのディスカッションを行う（内容は授業時に示す）演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
15	給食の施設・設備　(1) 生産(調理)施設・設備設計 (2)食事環境の設計・設備　演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読する（90分） 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・受講に際し、事前に教科書の該当項目を通読するとともに事後も確認を行って確実に理解する。
・各施設の栄養管理や運営状況を調べ、準備学習にとりくんでください。
・災害発生時対応を理解し、運用できるように習得してください。
・課題プリントは、解答後提出を求めます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題プリント提出・完成度	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
給食経営管理論―栄養・安全経済面のマネジメント［第3版］	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正　編	株式会社　みらい

参考書又は参考資料等

各出版社の給食経営管理論の教科書及び参考書

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・管理栄養士としての企画力、マネージメント能力、適切な評価などに適応できるように積極的に学び、自ら考えながら授業に取り組んでください。
・講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	給食経営管理論		
担当者名	中野　眞弓	実務家教員	○
科目コード	1100064	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	給食施設では、健康の保持・増進、疾病の予防と治療を目的としている。食事は、対象者の特性に応じた栄養・食事計画に基づいたものを提供する。授業は、実務経験を踏まえた給食の運営等を総合的に指導する。さらに栄養面、経済面全般のマネジメント能力を養い、マーケティングの原理や応用を理解し、給食経営管理の基本的な考え方や方法を習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1）「栄養・食事管理」では、「栄養・食事」と「経営」を大きな柱とし、計画・生産（調理）・サービスを行うための知識と技能を習得する。 2）経営管理では、栄養、食事サービスを効率的かつ安全に運営するシステム構築を習得する。 3）マネジメントを行うための経営、品質管理、会計、原価管理、事故災害などの理論・手法を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	経営管理 (1)経営管理の概要	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
2	経営管理 (1)経営管理の概要	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
3	経営管理 (2)給食とマーケティング	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
4	経営管理 (3)給食経営と組織	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
5	経営管理 (3)給食経営と組織　演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
6	給食の品質 (1)品質の概念	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
7	給食の品質 (2)品質の標準化、評価・改善、ＩＳＯ 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
8	給食の人事・事務 (1)人事	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）

9	給食の人事・事務 (2)事務 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
10	給食の会計・原価 (1)企業会計、財務諸表	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
11	給食の会計・原価 (2)予算及び売上・原価と給食経営 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲を通読しておく　(90分) 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
12	給食施設における給食の意義と特徴 (1)病院、高齢者・介護・児童・障害者福祉施設	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読しておく 各給食施設の特徴を資料作成する（90分） 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
13	給食施設における給食の意義と特徴 (1)病院、高齢者・介護・児童・障害者福祉施設	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読しておく 各給食施設の特徴を資料作成する（90分） 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
14	給食施設における給食の意義と特徴 (2)学校、事業所、その他給食施設	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読しておく 各給食施設の特徴を資料作成する（90分） 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）
15	給食施設における給食の意義と特徴 (2)学校、事業所、その他給食施設 ・12回～15回の内容にてレポート提出を課す (具体的な要領は講義時示す) ・項目別に発表を行う	事前：テキスト指定範囲（授業計画）を通読しておく 各給食施設の特徴を資料作成する（90分） 事後：授業内容を復習し、課題プリントに取り組む（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・各施設の栄養管理や運営状況の特徴を調べ、準備学習に取り組んでください。
・各施設の給食の生産管理・経営・人事配置等を理解し臨地実習に活用してください。
・事後学習で習得した事項を国家試験対策に応用できるようにしてください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題プリント提出・完成度	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
給食経営管理論―栄養・安全経済面のマネジメント[第3版]	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正　編	株式会社　みらい

参考書又は参考資料等

各出版社の給食経営管理論の教科書及び参考書

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・給食の企画力、マネージメント能力、適切な評価などに適応できるように積極的に学び、自ら考えながら授業に取り組んでください。 ・講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	給食管理実習		
担当者名	中野　眞弓	実務家教員	○
科目コード	1100065	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	給食計画及び関連科目で学んだ理論や知識を活用して、学内給食施設内で、実務に沿った給食システムを活用した給食業務の実習を行う。栄養・食事管理、食材料管理、生産管理、衛生管理、事務管理など給食管理業務の運営から実施・評価までの一連のマネージメントサイクルを学び、給食管理の知識・技術全般を修得する。在学生を対象に望ましい給食を提供し、喫食者・調理者の立場に立った給食管理業務を修得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 対象者と提供者の両方を考慮した献立作成ができる。 2. 発注・検収・保管などの方法を理解する。 3. 大量調理のコツと調理機器の使い方を理解する。 4. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた業務ができる。 5. 実習計画に基づき各自分担作業を行い、協力・連携の重要性を学び、周囲と円滑なコミュニケーションがとれる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	給食管理実習の概要 (1)実習の概要・準備 (2)給与栄養目標量設定　食品構成作成　献立計画立案 レポート提出を課す	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)
2	試作 (1)生産計画(調理工程計画、作業工程計画)立案 (2)発注計画・出庫計画の立案 レポート提出を課す	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)
3	生産前の準備・点検 (1)生産(調理)前準備点検、検収・保管、生産・提供管理 (2)下膳・食器洗浄、清掃・点検 レポート提出を課す	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)
4	栄養教育媒体の作成 (1)栄養教育媒体作成 (2)嗜好調査表・喫食調査票設計　【1グループ試作】 レポート提出を課す	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)
5	実習１ モデル献立Ａ　調理、試作、演習の業務を実習する	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)
6	実習2 モデル献立Ｂ　調理、試作、演習の業務を実習する	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する (30分) 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する (30分)

7	実習3 モデル献立Ｃ　調理、試作、演習の業務を実習する	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
8	給食(実習)の評価・改善 グループディスカッション・発表を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
9	学内給食提供１ 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
10	学内給食提供２ 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
11	学内給食提供3 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
12	学内給食提供4 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
13	学内給食提供5 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
14	学内給食提供6 試作、調理、事務を分担し実習を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する（30分） 事後：授業内容を復習し、実習ノートを作成する（30分）
15	給食管理全般のまとめとフォローアップ グループディスカッション・発表を行う	事前：テキスト全般を通読する（30分） 事後：授業内容を復習する（30分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・受講に際し、事前に教科書の該当項目を通読するとともに事後も確認を行って確実に理解する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート・実習ノート提出・完成度	授業への取り組み：給食管理システムの運用	
60%	20%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
給食経営管理実習　ワークブック［第3版］	藤原政嘉　田中俊治　赤尾正　編	株式会社　みらい

参考書又は参考資料等

「改訂新版　大量調理ー品質管理と調理の実際―」　（学建書院）
「衛生管理＆調理技術マニュアル」　文部科学省　（学建書院）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・給食管理の企画力、マネージメント能力、適切な評価などに適応できるように積極的に学び、自ら考えながら授業に取り組む姿勢が大事である。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食健康センター活動（演習）		
担当者名	安倍　ちか	実務家教員	
科目コード	1100066	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-4-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	管理栄養士は人々の健康を守り、人々を支える食に関わる専門職である。食と健康について深く考え、実践できることが不可欠であり、「食健康センター活動」は管理栄養士として社会に出る直前の学生に対しての、本学の教育理念である「栄養福祉」の実現を目指す授業である。本演習では、管理栄養士としての総合的な実践力を確実なものにするために、食と健康の意義を考え、管理栄養士基本科目の内容との関連性を図るとともに、本学の各教員の専門性の高い内容をオムニバス形式で授業を実施する。
授業の到達目標〔学習成果〕	各教員の食と健康に関する専門性をより深化させた講義及び演習を受講し、管理栄養士としての総合的な力を備え、実践力と応用力の充実を図ることを目的とする。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	医療制度	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
2	消化器系の構造と機能	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
3	食中毒	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
4	食品の加工と栄養	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
5	ビタミンの栄養学的機能	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
6	妊娠期・授乳期の生理的特徴	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
7	栄養カウンセリングと行動変容技法	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
8	薬と栄養・食事の相互作用	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
9	病態別栄養ケア・マネジメント	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。

10	公衆栄養関連の法規	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
11	アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
12	調理操作と栄養	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
13	給食の資源と管理	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
14	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。
15	食品流通・保存と栄養	事前：授業テーマについて調べる（15分）。 事後：重要項目を整理し、課題・レポートがある場合は作成する（30分）。

準備学習・事後学習等についての補足説明

各自、毎回の内容について予習をして受講すること。
これまで本学科で学んできた知識及び技能を総合的に身に付けているだけでなく、ディプロマポリシーに示した「本学の理想とする管理栄養士像」に必要とされる資質を備えたものであることが望まれる。定期試験を2回（中間・期末）に実施し、管理栄養士専門科目の総合理解力を評価する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験、レポート	授業への取り組み姿勢		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
各担当者が資料を配布する。		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

各担当者がそれぞれの専門分野における講義、演習をすることになるので、受講者は各自でその分野について事前の予習をしておくこと。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	臨地実習指導（演習）		
担当者名	大村　美智子、中野　眞弓、青佐　泰志	実務家教員	○
科目コード	1100067	授業形態	演習
学年	3 年	開講期	2024 年度前期、2024 年度後期
単位数	1	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-3-C		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨地実習は、各教科で学んだことを基礎にして、各施設における先輩栄養士の仕事に取り組む姿勢から必要な知識や技術を学び取り、自分の中でこれまでに学んだことをもとに現場で体験することを目的としている。また目標とする管理栄養士になるために、自分に不足している知識、技術を今後どのように補うべきかを学ぶ場所でもある。 演習は、短期間の実習の中で成果をあげるために、事前・事後の指導を行い、受け身にならず、積極的で学生らしい態度で実習に臨む態度を修得させる。		
授業の到達目標〔学習成果〕	短期間の実習の中で成果をあげるために、事前・事後の指導を行い、受け身にならず、できるだけ学生らしい態度で実習に臨む態度を修得する。		

授業計画〔学外実習の内容含む〕

オリエンテーション：実習の概要・心得
事前指導①：実習の諸注意
事前指導②：実習に必要な資料作成
事前指導③：施設訪問、実習ノートの記録方法、実習直前の準備について
事後指導①：実習後のまとめ、施設ごとの発表およびディスカッション①
事後指導②：実習後のまとめ、施設ごとの発表およびディスカッション②
事後指導③：実習後のまとめ、施設ごとの発表およびディスカッション③

準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間

オリエンテーション、実習の概要・心得	事前：テキスト指定範囲（掲示で通知）を通読していくこと（45 分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成する（45 分）
事前指導①	事前：テキスト指定範囲（掲示で通知）を通読していくこと（45 分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成する（45 分）
事前指導②	事後：指定した内容についてまとめレポートを作成する（45 分）
事前指導③	事後：指定した内容についてまとめレポートを作成する（45 分）
事後指導①	事前：発表施設は資料を作成する（90 分） 事後：指定した内容について、まとめ及び考察をレポートにて提出（45 分）
事後指導②	事前：発表施設は資料を作成する（90 分） 事後：指定した内容について、まとめ及び考察をレポートにて提出（45 分）
事後指導③	事前：発表施設は資料を作成する（90 分） 事後：指定した内容について、まとめ及び考察をレポートにて提出（45 分）

臨地実習Ⅲ（給食管理）　中野眞弓
・実習施設　事業所・福祉施設・学校給食
・実習時期　8 月～9 月（事業所・福祉施設）　11 月（学校給食）
・授業計画　5 月～11 月に 6 回、上記の事前・事後指導を行う。

臨地実習 Ⅱ（公衆栄養学）大村美智子
・実習施設　保健所・保健センター
・実習時期　9 月～10 月
・授業計画　6 月～11 月に 6 回、上記の事前・事後指導を行う。

臨地実習Ⅰ（臨床栄養学）　青佐泰志
・実習施設　病院
・実習時期　2 月～3 月
・授業計画　1 月～4 月に 6 回、上記の事前・事後指導を行う。

準備学習・事後学習等についての補足説明

実習に向けて、ライフステージや各疾患の栄養特性を理解し、それぞれに適した献立作成のポイントを学習しておく。また、調理の知識や基本的技術を修得しておく。コミュニケーション能力を高めておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実習への取り組み姿勢・レポート・課題	発表		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

相談に応じて適宜参考資料を紹介する。

その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

実習先の情報を事前に収集しておくこと。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	臨地実習Ⅰ		
担当者名	青佐　泰志	実務家教員	○
科目コード	1100068	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	1	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP2-3-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	学外施設（病院）における実習である。学内で習得した「臨床栄養学実習Ⅰ」「臨床栄養学実習Ⅱ」の知識を医療の場でどの程度生かせるか体験を通して学ぶ。傷病者の病態に基づいた栄養管理の知識や具体的な技術（栄養状態の評価、判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用）を習得する。また、栄養管理の専門職として管理栄養士の位置づけやチーム医療における管理栄養士の役割について理解する。
授業の到達目標〔学習成果〕	傷病者を対象とした栄養管理の実際を理解し、病態の特徴や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントができる能力を養う。

授業計画〔学外実習の内容含む〕

一般的事項
① 病院及び施設の概要
② 栄養部門の概要
③ 施設栄養基準の実際
④ チーム医療の実際
⑤ クリニカルパスの実際
⑥ 患者・入院者への接遇

給食経営管理
① 嗜好調査とその分析
② 喫食量調査とその分析
③ 食数管理、食事オーダー管理の実際
④ 食事の温度管理の実際
⑤ 調理作業員の人事配置と作業管理
⑥ 衛生管理・衛生教育・危機管理
⑦ 経営ビジョンと給食業務の実際

臨床栄養管理
① 栄養スクリーニング
② 身体計測、臨床検査値に基づいた栄養アセスメント
③ 栄養ケアプランの作成（栄養管理計画書）
④ 食事摂取量の把握と評価
⑤ 栄養状態のモニタリング
⑥ 診療録記入方法（POS等）
⑦ 医療スタッフとのカンファレンスや病棟回診への参加
⑧ 入院・外来患者の栄養指導（個人・集団指導）
⑨ 経腸・経静脈栄養投与の実際
⑩ 症例を通しての栄養管理の実際（検討会への参加）
⑪ NST、褥瘡回診の実際
⑫ 嚥下機能評価の実際
⑬ リスクマネジメントの実際

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前に関係法規や実習に際して必要な病態別栄養管理、献立作成、展開食への応用等予習しておくこと。また、臨床データと疾患の関係について理解しておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
実習状況	レポート等		
70%	30%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
臨床栄養学実習書 病院等栄養管理の基本と実際	玉川和子、口羽章子、木戸詔子 公益社団法人　福岡県栄養士会	医歯薬出版 福岡県栄養士会
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編	本田圭子、土江節子、曽根博仁	洋土社
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　疾患編	本田圭子、土江節子、曽根博仁	洋土社

参考書又は参考資料等

○「糖尿病食事療養のための食品交換表［第 7 版］」
○「腎臓病食品交換表［第 9 版］」

その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

栄養成分別コントロール食の分類、適応疾患についてまとめ、各疾患の成り立ち、栄養アセスメント、ケアプラン、食事療法の基本についてレポートの作成を課します。成績評価に関わるものですので必ず提出してください。
提出されたレポートは臨地実習に向けた資料として活用してください。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	臨地実習Ⅱ		
担当者名	大村　美智子	実務家教員	○
科目コード	1100069	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	1	履修	管理栄養士必修
ナンバリング	DP1-3-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	公衆栄養学分野の臨地実習においては、「臨地実習Ⅱ」を通して、保健所、市町村保健センターそれぞれが果たす役割や業務を理解する。 また、健康・栄養問題を取り巻くさまざまな情報を収集・分析しそれらを総合的に評価・判定する。さらに対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の過程を通じて総合的なマネジメントに必要な事項の実際を学習する。 保健所と市町村の保健センター等はその役割が異なっており、実習内容が異なることとなる。 この学外実習では保健所での職務経験を有する教員が保健所の果たす役割について側面的に指導を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	保健所、市町村区の保健センターでの「臨地実習Ⅱ」を通して、行政栄養士としてそれぞれが果たす役割や業務分担を理解する。 また、健康・栄養問題を取り巻く情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する。 さらに、対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価を通じて総合的なマネジメントに必要な事項を実習する。 対象者に対する支援の方法、他職種との連携の方法も合わせて理解する。

授業計画〔学外実習の内容含む〕

１保健所組織体制の整備
　配置関係部局との情報集約・共有体制の確保
　未配置関係部局との施策情報の共有体制の確保
２健康・栄養課題の明確化
【PDCAサイクルに基づく施策・推進】
　①健診結果の分析
　②各種調査結果の分析
　③分析結果に基づく計画策定・目標設定・評価
　④ネットワーク活用による専門的栄養指導の推進
３生活習慣病の発症予防
【重症化予防の徹底のための施策の推進】
　①特定健診・保健指導結果に基づく分析・課題の明確化・計画化・目標設定・栄養指導の実施
　②行動変容につなげる栄養指導の実施・評価・改善
　③設定目標に対する評価・検証，戦略的取組みの検討
４自立化に向けた機能の維持・向上のための施策の推進
①次世代の健康
　　健やか親子21と連動した目標設定・取組み
　　乳幼児健診データの集計・解析評価・個別支援
　　他職種,教育委員会等との連携による課題解決・観察・分析
②高齢者の健康
　　他職種連携による栄養・食生活支援体制の確保
　　低栄養高齢者の実態把握・分析・計画・取組み
５社会環境の整備の充実
【保健・医療・福祉・介護領域における管理栄養士・栄養士の養成】
【食育推進のネットワークの構築】
　　①教育・福祉・農政・産業振興等の多岐領域との食育推進の計画策定・実施・評価″
　　②ボランティア組織の育成とネットワークの構築

【健康危機管理への対応】
①発生防止等対応のためのネットワークの構築
②災害時の栄養・食生活支援体制の整備
【特定給食施設への指導・支援・評価】
特定給食施設への栄養士等配置指導
【飲食店によるヘルシーメニューの提供等の促進】
①ヘルシーメニュー実践の効果検証
②栄養表示の活用・普及
③栄養表示販売食品の検査・収去
消費者庁との連携

準備学習・事後学習等についての補足説明

・実習地の実態把握するため、プランや市政だよりなどの地方自治体の発刊物などを読んで理解する。
・事前訪問、課題作成、実習地の地域診断、問題点の抽出、改善策の提案を考える。
・目的を持って、実習に臨む。
・実習後は目的がどの程度達成されたかどうか含めて自己反省する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実習への取組み状況	レポート、実習ノート等		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

厚生労働省、農林水産省、文部科学省・総務省統計局のホームページ e-Stat （政府統計の総合窓口）よりプリントアウトし、配布する。

その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	臨地実習Ⅲ		
担当者名	中野　眞弓	実務家教員	
科目コード	1100070	授業形態	実習
学年	3年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	1	履修	必修 栄養士必修 管理栄養士必修
ナンバリング	DP3-3-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨地実習は、以下の内容を習得する。演習授業では、実務経験を活かした実際の給食管理・栄養ケアマネージメントの指導を行う。 ・小学校給食：心身の発育・発達期にある児童・生徒の特質を考慮しながら、栄養・教育的に扱われている学校給食の実際について習得する。 ・老人福祉施設・養護施設：入所者は子供から高齢者までの幅が広く、健康状態もまちまちである。老人施設は、入所者の心身の健康と QOL の向上に寄与する。又、他職種の協力で栄養ケアマネジメントが展開されることを習得する。 ・事業所：勤労者の福利厚生・健康の保持増進・事業体の生産性の向上を目的としているが委託化が進み直営が少ない状態の中での栄養管理・経営管理を習得する。
授業の到達目標〔学習成果〕	・各職種の特徴を理解し、給食マネジメントの基本を身につける。 ・学校給食:食育の指導者としての大きな職務が担えるよう、また徹底した衛生管理についての実践を学ぶ。 ・老人福祉施設：入所者の身体機能の変化や疾病の程度、過去からの長年にわたる食習慣や嗜好など個人差が大きい分、献立への配慮、栄養ケアマネジメントの役割分担について学ぶ。 ・事業所：対象となる勤労者は年齢（20 歳代～60 歳前後）、男女の人数も違う事業所の 栄養管理、生活習慣病の予防を兼ねた栄養教育、委託の経営管理について学ぶ。

授業計画〔学外実習の内容含む〕

小学校
1. 小学校給食の目的・組織
2. 北九州市教育委員会の給食実施計画
3. HACCP に基づいた衛生管理
4. 栄養教諭の役割
5. アレルギー食の対応について

特別講義でディスカッションを行う

福祉施設
1. 高齢者・介護福祉施設における食事の意義
2. 嚥下困難食・行事食などの取り組み
3. 給食経営・運営の実際
4. 栄養・ケアマネジメント実施状況の把握

特別講義でディスカッションを行う

事業所
1. 事業給食の意義
2. 単一定食や複数定食の経営効果について
3. 生活習慣病予防対策における栄養教育について

準備学習・事後学習等についての補足説明

・実習に際し、事前に教科書の該当項目を通読するとともに事後も確認を行って確実に理解する。
・臨地実習指導（演習）実習Ⅲテキスト及び実習ノートは、提出を求めます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実習状況	レポート・実習ノート完成度		

70%	30%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等
病院等栄養管理の基本と実際

その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
・学校給食（北九州市教育委員会)、老人福祉施設の外部管理栄養士の特別講義より課題を見つけ事前学習に取り組む。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他

授業科目名	栄養カウンセリング		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1100071	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食事療法を受けなければならない患者は、長い年月をかけてつくりあげられた食習慣を大きく変える必要に迫られる。これは簡単にできることではない。こうした場面では、まず患者につらく苦しい胸のうちをじっくり語ってもらって、感情的な問題を解決する必要がある。そのためには、そうした話をしっかり傾聴してくれて、パートナーとして一緒に治療に取り組んでくれる栄養カウンセラーの存在が必要である。そこで、本講義では栄養カウンセラーが身につけるべき基本的知識と技能の習得を目的とする。その際、ロールプレイングやグループ討論を取り入れていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 栄養カウンセリングの基本的態度と技法を身につけ、栄養教育に活用することができる。 2) 患者との直接的な接遇の要点を理解し、適切にコミュニケーションを行うことができる。 3) 拒食・過食症、アルコール依存症者の心理を理解し、支援することができる。 4) 行動科学の諸理論に関する知識を身につけ、食行動変容に役立てることができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養カウンセリングとは何か？	事前：UNIPA上で連絡した課題に取り組むこと（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
2	栄養カウンセリングの実際	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
3	患者とのコミュニケーションについて	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
4	精神分析療法について	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
5	来談者中心療法について	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
6	個人の行動変容に関する理論(1)刺激?反応理論ほか	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
7	個人の行動変容に関する理論(2)TTMほか	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
8	個人間の行動変容に関する理論	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）

9	集団や社会の行動変容に関する理論	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
10	行動変容技法の応用(1)　刺激統制ほか	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
11	行動変容技法の応用(2)　認知再構成ほか	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
12	拒食症について	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
13	過食をコントロールするためのプログラム	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
14	飲酒のコントロール	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
15	まとめ	事前：配布プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：定期試験に向けて、総復習に励むこと（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・準備学習では、配布プリントを読んで、疑問点を明らかにしておくこと。
・事後学習では、小テストに向けて、復習に励むこと。
・定期試験は、「行動科学とカウンセリング」などの管理栄養士国家試験の範囲から出題します。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	リアクションペーパー	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
適宜、プリントを配布する。		

参考書又は参考資料等

『演習栄養教育〔第7版〕』大里進子、城田知子、矢野治江 編著（医歯薬出版株式会社）
『イラスト栄養教育・栄養指導〔第5版〕』大里進子、城田知子 ほか（東京教学社）
『ライフスタイル療法Ⅰ〔第4版〕』足達淑子（医歯薬出版株式会社）
『行動変容のための面接レッスン』足達淑子（医歯薬出版株式会社）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・本講義では国試の出題範囲である「栄養教育論」に含まれる「行動科学とカウンセリング」を実践的に学びます。
・クライエント役と栄養カウンセラー役に分かれて栄養カウンセリングのロールプレイングを行います。
・講義中に配布・回収するリアクションペーパーには、講義に対する質問・意見・感想・要望を記入してください。
・次回の講義でリアクションペーパーに対してレスポンスを返します。
・定期試験の答案は返却しませんが閲覧は可能です。成績発表後、松本研究室に来室して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	後日、オフィスアワーの掲示を行います。

授業科目名	栄養情報処理演習Ⅰ		
担当者名	赤松　貴文	実務家教員	
科目コード	1100072	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修
ナンバリング	DP4-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	パソコン上で各種データを処理（整理・計算）する能力は、現代の管理栄養士に求められる必須技能のひとつであることから、本演習ではMicrosoft Excelを用いた表計算演習を行う。さらには、日々の生活や仕事に活用できる帳票の作成を通じて、数的処理能力、論理的思考力、段取り力の涵養を目指すとともに、モノ作りの楽しさを知ってもらいたい。
授業の到達目標〔学習成果〕	・Microsoft Excelの基本操作をマスターする。 ・数式や関数を組み合わせて、目的とする表計算を行うことができるようになる。 ・Microsoft Excelを使ってデータを処理できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	データの種類、セルの書式設定	事前：なし 事後：授業プリントの復習（45分）
2	数式、フィル、関数、絶対参照、表の並べ替え	事前：前回の授業プリントの復習（10分） 事後：授業プリントの復習（35分）
3	セルの表示形式、グラフ、Word文書への貼り付け、印刷	事前：前回の授業プリントの復習（10分） 事後：授業プリントの復習（35分）
4	シート操作、別シートのセルの参照、数学/三角関数	事前：前回の授業プリントの復習（10分） 事後：授業プリントの復習（35分）
5	文字列操作関数　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
6	シリアル値、日付/時刻関数　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
7	乱数、集計、論理式、論理値、条件付き集計 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
8	情報関数、論理演算、条件分岐　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
9	条件付き書式　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
10	演習（万年カレンダーの作成）　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
11	検索/行列関数、エラー処理　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
12	データベース関数　※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
13	統計関数、ヒストグラム、散布図、ピボットテーブル ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
14	総合演習(1)　※アクティブラーニング	事前：前回までの授業プリントの復習（35分） 事後：授業プリントの復習（10分）

15	総合演習(2)　※アクティブラーニング	事前：前回までの授業プリントの復習（35分） 事後：授業プリントの復習（10分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

第5回～第13回は、事前に配布した授業プリントを各自で予習してもらう反転授業スタイルで実施するので、授業を欠席した場合はできる限り早く翌週分の授業プリントを取りに来ること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実技テスト			
100%			

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
配布プリント		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・授業プリントは各自でファイリングすること。
・授業開始時までにコンピュータを利用できる状態にしておくこと。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養情報処理演習 II		
担当者名	赤松　貴文	実務家教員	
科目コード	1100073	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	必修
ナンバリング	DP4-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	管理栄養士が利用する献立作成ソフトや栄養価計算ソフトには食品成分表データが収録されたデータベースが組み込まれている。本演習では、データベース入門としてMicrosoft Excelを用いたデータ抽出、データ検索について学習した後、表形式のデータベースから検索を行うアプリケーションソフトを制作する。 また、個人情報保護をはじめとするコンピュータセキュリティについても学習する。
授業の到達目標〔学習成果〕	・Microsoft Excelを用いてデータ抽出、データ検索ができるようになる。 ・Microsoft Excelを用いて簡単なデータベースアプリケーションを制作できるようになる。 ・個人パソコンのセキュリティ対策や、メンテナンスができるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	データの抽出、データの集計	事前：なし 事後：授業プリントの復習（45分）
2	データの検索、データの入力規則、シートの保護 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
3	セル範囲の動的な指定 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
4	リストの絞り込み、データの検索に必要な要件 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
5	データベースアプリケーションのサンプル、画像加工 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
6	データ検索のまとめ	事前：授業プリントの予習（25分） 事後：授業プリントの復習、演習問題（20分）
7	アプリケーション制作に必要な知識の確認 アプリケーションの仕様決め ※グループワーク	事前：前回までの授業プリントの復習（25分） 事後：授業プリントの復習、アプリケーション制作（20分）
8	Excelへのデータのインポート (紹介) アプリケーションの制作 (1) ※グループワーク	事前：前回までの授業プリントの復習（15分） 事後：授業プリントの復習、アプリケーション制作（30分）
9	画像の切り替え表示 (紹介) アプリケーションの制作 (2) ※グループワーク	事前：前回までの授業プリントの復習（15分） 事後：授業プリントの復習、アプリケーション制作（30分）
10	アプリケーションの制作(3) ※グループワーク	事前：前回までの授業プリントの復習（15分） 事後：アプリケーション制作（30分）
11	制作したアプリケーションの相互評価 ※アクティブラーニング	事前：アプリケーション制作（25分） 事後：制作したアプリケーションのフォローアップ（20分）

12	評価結果のフィードバック アプリケーションのフォローアップ ※グループワーク	事前：なし 事後：制作したアプリケーションのフォローアップ（45分）
13	セキュリティ対策(1) バグ対策、マルウェア対策、スマートフォンセキュリティ ※反転授業	事前：授業プリントの予習（30分） 事後：授業プリントの復習（15分）
14	セキュリティ対策(2) パスワード管理、フィッシング対策、2段階認証 ※反転授業	事前：授業プリントの予習（30分） 事後：授業プリントの復習（15分）
15	総合演習	事前：前回までの授業プリントの復習（25分） 事後：総合演習のフォローアップ（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

第2回～第5回、第13回～第14回は、事前に配布した授業プリントを各自で予習してもらう反転授業スタイルで実施するので、授業を欠席した場合はできる限り早く翌週分の授業プリントを取りに来ること。
授業後半で制作するデータベースアプリケーションは、栄養情報処理演習Ⅰの内容および本授業前半の内容の理解が不可欠である。データベースアプリケーションの作成前までに確実に理解しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

アプリケーションの評価			
100%			

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
配布プリント		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・授業プリントは各自でファイリングすること。
・授業開始時までにコンピュータを利用できる状態にしておくこと。
・データベースアプリケーションの提出期限は厳守すること。期限までに提出されたなかったものは評価対象に含めない。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品学各論		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100074	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP3-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	まず、食品表示・規格基準について理解および食品の分類と食品成分表について学ぶ。次に植物性食品（穀類、いも類、種実類、豆類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類）、動物性食品（食肉類、卵類、乳類、魚介類）、微生物利用食品、油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料について、それらの種類、成分と化学的性質、栄養・機能特性、利用などについて解説する。
授業の到達目標〔学習成果〕	① 食品表示・規格基準について理解する。 ②日本食品標準成分表について理解し、それを実際に活用できるようになる。 ③ 植物性食品と動物性食品を中心とする様々な食品の成分や特性を理解する。 ④ 各食品に含まれる特有の成分の化学的性質や栄養・生理機能性を理解する。 ⑤ 食品の保存と加工ならびに成分変化について理解する。 ⑥ 知識を身につけるだけでなく、他の専門科目や実生活においてもその知識を応用・活用できるようになるための練習を積む。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	第5章 食品表示と規格基準	準備：テキスト指定範囲（p.153-173）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
2	第6章食品の分類と食品成分表	準備：テキスト指定範囲（p.175-194）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
3	第7章 植物性食品の分類と成分（穀類、いも類、豆類）	準備：テキスト指定範囲（p.197-217）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
4	第7章 植物性食品の分類と成分（種実類、野菜類）	準備：テキスト指定範囲（p.217-226）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
5	第7章 植物性食品の分類と成分（果物類）	準備：テキスト指定範囲（p.227-233）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
6	第7章 植物性食品の分類と成分（きのこ類、藻類）	準備：テキスト指定範囲（p.233-240）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
7	第8章 動物性食品の分類と成分（食肉類）	準備：テキスト指定範囲（p.243-249）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
8	第8章 動物性食品の分類と成分（魚介類）	準備：テキスト指定範囲（p.253-261）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）

9	第8章 動物性食品の分類と成分（魚介類）	準備：テキスト指定範囲（p261-265）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
10	第8章 動物性食品の分類と成分（乳類）	準備：テキスト指定範囲（p.265-273）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
11	第8章 動物性食品の分類と成分（卵類）	準備：テキスト指定範囲（p.265-273）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
12	第9章 油脂・調味料・調味料・香辛料・嗜好飲料の分類と成分（油脂、甘味料、調味料）	準備：テキスト指定範囲（p.281-293）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
13	第9章 油脂・調味料・調味料・香辛料・嗜好飲料の分類と成分（香辛料・嗜好飲料）	準備：テキスト指定範囲（p.293-302）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
14	第10章 微生物利用食品の分類と成分（アルコール飲料）	準備：テキスト指定範囲（p.305-310）通読しておく（90分） 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）
15	第10章 微生物利用食品の分類と成分（発酵調味料、その他の微生物利用食品）、小テスト	準備：テキスト指定範囲（p.310-315)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

① 準備学習として、授業計画に従って授業を進めるので、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにし、授業に臨むこと。
② 事後学習として、授業で学習した部分を簡潔にまとめながら復習する。疑問があれば質問して解決しておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	授業への取組み状況	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食べ物と健康　「食品の科学」	太田英明・白土英樹・古庄　律　編	南江堂

参考書又は参考資料等

食べ物と健康Ⅰ「食品学総論」食品成分と機能　寺尾純二・村上明　編　中山書店
参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

① 食品学総論の内容は、食品に関する科目（食品学各論、食品加工学など）だけでなく、生化学、栄養学、調理学などとも密接に関連しています。
② 覚えることが多い科目ですが、答だけを丸暗記するようなことはしないで、教科書を中心に必ず予習復習をして理解を深め、他の科目でもその知識を活用することが大切です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	食品基礎実験		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100075	授業形態	実験
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品基礎実験の目的は、食品に関する教科書や文献に記載されている内容や方法等を、実験を通して自分の手で再現し、活用できる知識として理解を深めることにある。実験を行うに当っては、実験の目的、原理、方法を理解し、探究心を持って臨むことが重要である。この実験では、実験の原理となる基礎知識を理解し、安全に実験を実施するための基本的な事項を学ぶ。また、正確なデータを得るための基礎的な実験技術と得られたデータの処理法を習得する。さらに、実験レポートの作成法について学ぶ。全回アクティブラーニングの内容を含む。
授業の到達目標〔学習成果〕	①実験器具の名称や基本的な使用法を学ぶ。 ②正確で安定した実験データを得るのに必要な基本的知識と技術を身につける。 ③実験（測定）の実施や結果の解析に必要な基本的事項を理解する。 ④安全で適確な実験の実施法を習得する。 ⑤実験結果をレポートにまとめる方法を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	実験の概要の説明 、実験ノートとレポートの書き方や測定値についての基本事項の理解	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
2	実験器具の取り扱いと実験器具の洗浄法の理解	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
3	溶液の調製と溶液の濃度	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
4	重量の測定、数値処理法とレポートの書き方の理解と実践	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
5	比重を利用した美味しいトマトを見分ける方法	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
6	中和滴定の実験説明	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
7	各種酸・アルカリ溶液の濃度測定	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
8	水酸化ナトリウム標準溶液の力価評定	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）

9	酸度の測定（食酢・ジュース柑橘類の測定）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
10	物質の分離・酵素の働き・醤油・味噌のアミノ態窒素の定量（ホルモール滴定法）の実験説明	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
11	物質の分離（薄層クロマトグラフィー とカラムクロマトグラフィー）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
12	酵素の働き	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
13	醤油・味噌のアミノ態窒素の定量（ホルモール滴定法）	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
14	プレゼンテーション実習	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）
15	総括・小テスト	準備:実験内容を把握しておく。（60分） 事後:実験結果をまとめ、不明な点があれば質問して解決しておく。（60分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

①準備学習として、前もって次回実験項目の内容を読み、目的・原理・方法を実験ノートに簡潔にまとめておく。
②事後学習として、測定データをもとに結果をまとめ、実験ノートに記録し、それをもとにレポートの作成をする。練習問題を解く。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	小テスト	実験への取組み状況	
60%	30%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
基礎から学ぶ食品化学実験テキスト	谷口亜樹子　他　編著	建帛社

参考書又は参考資料等

参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

①食品基礎実験は食品に関する実験以外でも、食物栄養学科で習得する実験・実習の基礎となります。
②実験の基礎を身につけるための重要な科目です。テキストを中心に必ず予習復習をし、欠席しないで取り組むことが必要です。
③レポートは5段階で評価する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	有機化学		
担当者名	戸田　晶久	実務家教員	
科目コード	1100076	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	有機化学は、栄養学、食品学、生化学、薬理学など生命科学において基本となる学問のひとつである。生体の基本構成成分である核酸および酵素などの蛋白質、医薬品、食品に含有されているビタミン、ホルモン等も有機化合物である。本講義は生命科学を理解するための有機化学的基礎知識を習得し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。また、講義の終わりに小テストを配布して、講義のポイントを復習させる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 有機化合物の基礎的な有機化学反応を理解し、説明できる。 2) 生体を構成する主な有機化合物の基本骨格、有機化学的性質を理解し、説明できる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	①生体と有機化合物およびその特徴　②炭素原子の電子配置等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
2	①原子の構造　②電子軌道　③二重結合と共鳴　④電気陰性度等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
3	有機化合物の基本骨格 (1):炭化水素の分類 アルカン・アルケン・アルキンの分子構造および性質 ＩＵＰＡＣ命名法	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
4	有機化合物の基本骨格 (2)	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
5	①アルカンの反応　②ラジカル反応等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
6	①アルケンの反応　②アルキンの反応等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
7	①ハロゲン化アルキル　②求核置換反応（SN1とSN2反応）等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
8	①カルボニル化合物　②カルボン酸等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
9	①芳香族炭化水素　②芳香族求電子置換反応等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）

10	①構造異性体　②立体異性体等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
11	生体を構成している主要な有機化合物Ⅰ：①アミノ酸・蛋白質等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
12	生体を構成している主要な有機化合物Ⅱ：①炭水化物　②糖類等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
13	生体を構成している主要な有機化合物Ⅲ：①脂質　②核酸等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
14	天然物と生理活性物質：①アルカロイド　②フラボノイド等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容についてノートを活用し復習する。（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1) 本科目を履修する学生は春期休暇を利用して、1年後期の「化学」を復習しておくこと。
2) 授業毎に次回の授業までに学習するホームワークを配布し、次回の授業でその内容を解説後提出する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業姿勢評価（出席、小テスト、レポート等）		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
健康と栄養のための有機化学	山本 勇	建帛社

参考書又は参考資料等

1) 「ビギナーズ有機化学」川端　　（化学同人）
2) 講義毎に資料を配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

1) 授業内容に理解できない箇所がある場合は授業中に質問するか、オフィスアワーの時間に対応します。
2) ホームワーク (HW) は、次の授業までに必ず学習して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養福祉論		
担当者名	渡邉　啓一	実務家教員	
科目コード	1100077	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP1-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養と福祉は本学・本学部の建学の精神および教育理念に基づき設置された科目である。管理栄養士として栄養学を学んで身に付けたことを社会にどのように活かすかを学ぶ科目である。最近では高齢化社会や少子化、子どもの貧困化など社会が抱える問題に管理栄養士として取り組み方について学ぶ。講義はオムニバス形式で行う。本学教員を中心に外部講師を交えて多様で多面的な観点から講義する。本授業は栄養と福祉の複数の専門家がそれぞれの分野においてオムニバス形式で講義、解説、質問応答形式によって行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1 建学の精神、教育理念をしっかり習得する。 2 福祉について学ぶ。 3 社会が必要としている管理栄養士を知る。 4 管理栄養士の社会での活動を学ぶ。 5 管理栄養士として社会貢献と福祉への考え方を作る。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	栄養福祉論概要―栄養と福祉との関係	事前：建学の精神、教育理念を調べる（90分） 事後：建学の精神、教育理念を知る（（90分）
2	栄養と福祉（１）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
3	栄養と福祉（2）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
4	栄養と福祉（3）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
5	栄養と福祉（4）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
6	栄養と福祉（5）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
7	栄養と福祉（6）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
8	栄養と福祉（7）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
9	栄養と福祉（8）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
10	管理栄養士と福祉（１）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
11	管理栄養士と福祉（2）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
12	管理栄養士と福祉（3）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）

13	管理栄養士と福祉（4）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
14	管理栄養士と福祉（5）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
15	まとめ	事前：レポート作成（90分） 事後：レポート作成（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み	レポート		
50%	50%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	社会福祉援助技術		
担当者名	芳賀　祥泰	実務家教員	
科目コード	1100078	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP1-3-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）は、主に社会福祉士や精神保健福祉士といったソーシャルワーカーが用います。理論や基本的姿勢の援助技術の基礎を学び、修得します。これらを学ぶことで管理栄養士として医療機関や保健機関、福祉施設、学校などで栄養教育などの対人援助及び地域に対する援助を行う場面において、クライエントや地域の人々とより良好な関係を築き、より利用者や地域の気持ちや現実に寄り添った具体的な援助が可能となります。質の高いサービス提供の技術を修得します。		
授業の到達目標〔学習成果〕	①多様な福祉制度やサービス及び地域の社会資源を活用し、ケアの提供を行うことを通して、個人及び家族の生活困難や生活問題を解決・緩和し、より人間らしい暮らしを実現することを目指す姿勢が身に付く。 ②対象、過程、技術・アプローチについて学び、本質である信頼感や安心感がどのように相談援助の方法と技術に係わっているのかを理解することができる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	ソーシャルワーク①	事前：ソーシャルワークの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
2	ソーシャルワーク②	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
3	ケースワーク①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
4	ケースワーク②	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
5	ケースワーク演習①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
6	ケースワーク演習②	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
7	グループワーク①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
8	グループワーク②	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）

9	グループワーク演習①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
10	グループワーク演習②	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
11	コミュニティーワーク①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
12	コミュニティワーク演習①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
13	ケアマネジメント①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
14	ケアマネジメント演習①	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）
15	まとめ	事前：前回講義で指示したキーワードの意味を調べておく。（90 分） 事後：講義中の内容を復習（90 分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

社会福祉援助技術について学ぶことは、クライエントと信頼関係を築き、クライエントから食事のあり方について相談を受け、食を通じて、クライエントの健康回復や生活の向上ができるよう支援する役割を担う管理栄養士にとって大変重要であることを認識して臨んでください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み姿勢	定期試験		
20%	80%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
なし		

参考書又は参考資料等

『社会福祉士国家試験のためのレビューブック2024-2025』（メディックメディア）　毎回、プリントを配布します。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

食を通して、地域社会や地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献することを期待します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	高齢者心理学		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1100079	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP2-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	管理栄養士の業務内容は多岐にわたるが、とりわけ老人ホームや病院において障害を持つ高齢者と関わる機会は多い。現場では嗜好調査や食事時間に声かけ等を行うが、その際、高齢者のこころとからだを深く理解し、それに応じたコミュニケーションをとることが必要になる。そこで、本講義では認知症などの障害をもつ高齢者の心身を深く理解し、具体的にどのように関わったらよいかについて心理学と精神医学の知見に基づいて、考えていきたい。その際、体験学習やプレゼンテーション、グループ討論を多く取り入れていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 高齢者・障害者のこころとからだに対する理解を深め、説明することができる 2) 障害を持つ高齢者とのコミュニケーションスキルを身につける。 3) 介護福祉士等のケアスタッフと連携・協働するために必要な知識と技能を身につける。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	高齢者心理学とは	事前：UNIPA上で連絡した課題に取り組むこと（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
2	老年期の発達と成熟	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
3	老化に伴う心身の変化と日常生活	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行う（90分）
4	高齢者体験	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことをレポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
5	車椅子体験	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことをレポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
6	認知症を取り巻く状況	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
7	グループホームについて	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
8	パーソンセンタードアプローチ	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
9	アルツハイマー型・血管性認知症	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）

10	レビー小体型認知症ほか	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
11	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
12	認知症ケアにおける連携と協働	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
13	家族への支援	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
14	高齢者のライフレヴュー発表	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）
15	高齢者のライフレヴュー発表（続）	事前：プリントを読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：講義で学んだことを講義レポートにまとめ、発展学習を行うこと（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・準備学習では、配布プリントを読んで、疑問点を明らかにしておくこと
・事後学習では、講義で学んだことをまとめ、発展学習（さらに自分で調べたこと）も記入して、次回の講義時に科目担当に提出すること
・また、高齢者に対してライフレヴューの聴き取り調査を実施し、その結果についてプレゼンテーションを行う。
・定期試験では介護福祉士国家試験の「発達と老化の理解」「認知症の理解」から出題する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	講義レポート	プレゼンテーション	リアクションペーパー
50%	30%	10%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
適宜、プリントを配布する		

参考書又は参考資料等

『発達と老化の理解（最新介護福祉士養成講座12)』介護福祉士養成講座編集委員会（中央法規）
『認知症の理解(最新介護福祉士養成講座13)』介護福祉士養成講座編集委員会（中央法規）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・ライフレヴューにおいて身近に高齢者がいない場合は、第三者からの聞き取り調査でも構わない。
・講義終了後に提出するリアクションペーパーには、講義に対する質問・意見・感想・要望を記入すること。
・次回の講義で、リアクションペーパーに対して返答します。
・講義レポートは後日、コメントを添えて返却します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	後日、オフィスアワーの日時を掲示します。

授業科目名	リハビリテーション概論		
担当者名	橋元　　隆、佐野　幹剛	実務家教員	○
科目コード	1100100	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	この講義は、理学療法（橋元）、作業療法（佐野）に関する実務経験のある教員が、リハビリテーションの理念と社会性、地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。各分野において分担講義を行う。 子どものリハビリテーションでは、重症心身障害児・者、肥満児、発達障害児に対する生活・工学的支援、 特に摂食指導における管理栄養士の役割について検討する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1．リハビリテーションの理念・歴史・目的・対象・分野等を学び、関わる職種の業務役割、医療におけるチームワークの重要性について理解し、具現化できる。 2．生活支援において多職種連携が言われる中で管理栄養士の役割を理解できる。 3．高齢者（認知症を含む）に対する社会参加支援ができる。 4．重症心身障害児・者に対する摂食指導で管理栄養士の役割を理解することができる。 5．肥満児、発達障害児に対するソーシャルスキル、運動指導を理解することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	総論・・・・・定義、歴史、理念、目的 (橋元)	事前：リハという言葉の意味を調べ、確認する（90分） 事後：配布資料からキーワードを整理し、理解する（90分）
2	総論・・・・・ICF（国際生活機能分類）とリハビリテーション関連職種 (橋元)	事前：リハの対象、関わる職種について調べ、確認する（90分） 事後：各職種の内容・役割を整理し、理解する（90分）
3	日常生活活動の分析と支援 (橋元)	事前：日々の生活で繰り返される活動は何か確認する（90分） 事後：障害を負うことでどのような活動が整理する（90分）
4	医学的リハビリテーションの流れ・・・急性期・回復期・生活期のリハビリテーション (橋元)	事前：リハ医療の流れを調べ、進め方を理解しておく（90分） 事後：各期の実施内容・目的・役割をまとめる（90分）
5	医学的リハビリテーション・・・医学的リハビリテーションの対象1　運動器障害 (橋元)	事前：運動器疾患とは何か、調べ確認する（90分） 事後：ロコモについて理解し、対応できるようになる（90分）
6	医学的リハビリテーション・・・医学的リハビリテーションの対象2　脳血管障害 (橋元)	事前：脳血管障害とは何かを調べ確認する（90分） 事後：脳血管疾患のリハを理解する（90分）
7	医学的リハビリテーション・・・医学的リハビリテーションの対象３　内部障害 (橋元)	事前：内部障害とは何かを調べ、確認する（90分） 事後：糖尿病・腎臓病・心疾患などのリハを理解する（90分）
8	社会的・職業的リハビリテーション、就労支援（佐野）	事前：社会的・職業的リハとは何かを調べておく（90分） 事後：社会的・職業的リハの対象を整理する（90分）
9	教育的リハビリテーション・・・・・・特別支援教育でのリハビリテーション (佐野)	事前：肥満の原因や栄養障害について調べる（90分） 事後：栄養指導について自身の考えをまとめる（90分）

10	子どものリハビリテーション・・・・・発達障害に対するリハビリテーション（佐野）	事前：発達障害について調べておく（90分） 事後：重度障害児の栄養管理について整理する（90分）
11	子どものリハビリテーション・・・・・摂食障害に対する口腔機能評価と対応（佐野）	事前：食べるために必要な口腔器官を調べる（90分） 事後：口腔機能評価チェック用紙の整理（90分）
12	高齢者とリハビリテーション（橋元）	事前：高齢者の心身の特徴を調べる（90分） 事後：高齢者に必要な支援について整理する（90分）
13	地域包括ケアシステムと地域リハについて（橋元）	事前：地域包括ケアシステムにおけるキーワードについて調べる（90分） 事後：保健・医療・介護の多職種連携について整理する（90分）
14	健康づくりと介護予防（橋元）	事前：健康づくり・介護予防に必要なものを確認する（90分） 事後：健康づくり・介護予防の目的・意義を整理する（90分）
15	食と運動の融合（橋元）	事前：「健康生活の番人」とは何か、その目的を考える（90分） 事後：リハにおける管理栄養士の役割をまとめる（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・医療と介護現場における管理栄養士の業務・役割を生活という視点で考えてほしい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み姿勢	定期試験		
20%	80%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・リハビリテーションの最終目的は生活の再建である。対象となる方々は、人であり、尊厳をもって対応しなければならない。この授業を通して、将来自分が目指す管理栄養士が身につけなければならない資質について学んで欲しい。
・第１１回「子どものリハビリテーション」では、口腔機能チェック演習を行います。各自必要な食品(プリンかゼリー、煎餅、水分）を準備しておいて下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食事介助実習（学外）		
担当者名	竹並　正宏	実務家教員	
科目コード	1100081	授業形態	実習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択必修
ナンバリング	DP2-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食を通して利用者の福祉の実現を図るためには、利用者の食事場面に寄り添いコミュニケーションをとりながらどのような食事が利用者の方々に喜ばれ、必要とされているか知ることが求められている。そのため当実習では、基本的な食事介助技術を学び介助を通し利用者とコミュニケーションを図りながら、利用者を食や栄養の側面だけでなく多様な側面や視点から捉えることの重要性を理解する。
授業の到達目標〔学習成果〕	①食を通して利用者の福祉の実現を図るためには、利用者の食事場面に寄り添いコミュニケーションをとりながらどういった食事が利用者の方々に喜ばれ、必要とされているかを目指す姿勢が身に付いている。 ②基本的な食事介助が出来て、介助を通しコミュニケーションを図り、利用者のニーズをとらえる姿勢が身に付いている。 ③様々な介護場面の見学と体験を通し、多様な専門職が利用者に対し支援を行っている場面と多く接し、利用者を食や栄養の側面だけでなく多様な側面や視点から捉えることの重要性を理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	学内オリエンテーション（実習の内容について）	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
2	実習前指導①・・事前学習①　高齢者の心理の理解	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
3	実習前指導②・・事前学習②　高齢者の身体的特性の理解、高齢者施設の理解	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
4	実習前指導③・・事前学習③　高齢者とのコミュニケーション	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
5	実習前指導④・・事前学習④　基礎的な介護技術介護全般	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）

6	実習前指導⑤・・事前学習⑤　基礎的な介護技術 食事介助	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
7	実習前指導⑥・・事前学習⑥　基礎的な介護技術 食事介助	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
8	実習前指導⑦・・実習前準備等①	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
9	実習前指導⑧・・実習前準備等②	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
10	施設実習①・・・施設における実習　1日目	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
11	施設実習②・・・ 施設における実習　2日目	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
12	施設実習③・・・ 施設における実習　3日目	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
13	実習後指導①・・ 実習の振り返り、実習後の指導等	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
14	実習後指導②・・ 実習後の指導、実習報告書作成指導	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）
15	実習報告書作成	事前：UNIPAで通知したキーワードの意味を調べる。（15分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（30分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

管理栄養士の位置づけや役割について、改めて理解するとともに食事介助実習の重要な役割としてとらえる姿勢を身に付けるため、今まで学んだ社会福祉論の復習を行う。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート	授業への取り組み姿勢	

60%	20%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等
毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
食事介助実習を通して、社会福祉施設でのクライエントの健康生活と食の向上に貢献することを要望する。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	料理特別実習Ⅰ（洋料理）		
担当者名	久住　直行	実務家教員	○
科目コード	1100082	授業形態	実習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	現代の日本における西洋料理はほとんどがフランス料理を基本に成り立っていて、時代に合わせてさらに進化している。時節に応じた季節に応じた調理実習を充実させていきたい。また実習を通じて西洋・東洋の食文化や食育、調理方法の共通点など多岐にわたって理解してもらい、西洋料理が身近な「食」となるよう指導していきたい。 本実習では現役のホテルシェフが自らの経験を活かして調理技法やメニューの工夫について学んでいく。
授業の到達目標	・実習内容を参考に管理栄養士としてどう活用できるかを課題としたい。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーションと講義 西洋料理の歴史、道具、食材他	
2	実習 アサリ貝のチャウダー、オムレツ、季節の果物入りクレープ	
3	実習 グリーンピースのポタージュ、サーモンのムニエル、ルッコラのサラダ	
4	講義 フォン（出し汁）とソース	
5	実習 コーンスープ、ハンバーグステーキ、トマトサラダ	
6	実習 エスカベッシュ、若鶏の煮込み、ミモザ風サラダ	
7	実習 ジャガイモの冷製スープ、牛肉のストロガノフ、ババロア	
8	実習 海老と白身魚の衣揚げ、リンゴとセロリのサラダ、トマトのコンフィ	
9	実習 小海老の洋風茶碗蒸し、豚肉のマスタード風味、グリーンサラダ	
10	実習 スモークサーモンの香草風味、ミネストローネ、海の幸のグラタン	

11	講義 調理法、グリエ、ロースト、ポワレ、ヴァプール他	
12	実習 スズキの冷製ヨーグルト、田舎風野菜のスープ、イタリアンサラダ	
13	実習 海の幸のマリネ、かぼちゃのスープ、鶏胸肉のキエフ風	
14	実習 トマトとチーズのブルスケッタ、イタリアンスープ、スパゲティ・カルボナーラ	
15	実習 魚介類のスープサフラン風味、ミニッツステーキ、淡雪卵アングレーズ	

準備学習・事後学習等についての補足説明

・適宜、次回の講義までに行うべき準備学習及び事後学習について指示します。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	実習への取組み		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
・ルセットをプリントして配布する。		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問は随時受け付けております

授業科目名	料理特別実習 II （和料理）		
担当者名	堤　剛一郎	実務家教員	○
科目コード	1100083	授業形態	実習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	調理師免許や技能調理師免許、日本料理専門調理師免許を有し、北九州調理師連合会理事や北九州食育推進構成員を務める調理経験者が和料理の持つ特徴や四季折々の素材の説明、盛り付けの美しさ、健康に留意した料理等の講義を行い、グループ編成による調理実習を行う。 ① 和食料理の持つ特徴 ② 四季折々の素材（旬のもの） ③ 盛り付けの美しさ ④ 世界のどの国よりも健康に留意した料理
授業の到達目標	・日本料理の基本的な動作及び調理技術の習得（基本的な出汁の取り方等）

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	【木ノ芽和え】　竹の子　他	事後：実際に各自で授業と同じ献立を調理すること（45分）
2	【きす】　三色揚げ　他	〃
3	【ときなし】　バター味噌焼き　他	〃
4	【羽衣椀】　素麺　卵　三つ葉	〃
5	【胡麻豆腐揚げ出し】　筍　他	〃
6	【二身椎茸旨煮】　海老すり身　他	〃
7	【ひすい冬瓜】　そぼろ煮　他	〃
8	【白和え】　海老　独活　空豆　蒟蒻	〃
9	【馬鈴薯饅頭】 鳥肉を使って	〃
10	【冷しのっぺ】 涼しげに夏の煮物	〃
11	【フォアグラ蛇籠盛り】　キリギリス（胡瓜）	〃
12	【鯛潮仕立】 色々な汁の吸物を	〃
13	【うざく】 鰻を使った酢物	〃
14	【霞椀】　大根	〃
15	【祝い寄せ】　南瓜ソース	〃

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事後学習において、各自が実際に調理する時はその他の食材を用いることも可能です。
・最寄りの市場や店舗で旬の野菜や魚貝類等の食材の種類や価格をリサーチしてください。
・自分で献立を作成し、実際に調理してみてください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実習への取組み	レポート		

60%	40%		

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等
特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・管理栄養士等の職種に就いた場合を想定し、食事を提供する対象者の年齢や性別、健康状態を考慮した献立を作成する学習を行ってください。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可。

授業科目名	料理特別実習III（中華料理）		
担当者名	井内　孝明	実務家教員	○
科目コード	1100084	授業形態	実習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食在広州～食は広州にあり…との言葉は中国四大料理の一つで広州に代表される広東料理を象徴しています。 本実習では、ホテルでシェフとして料理場に立つ講師が、中国料理の基本ともいえる「医食同源」とともに五味調和（甜・酸・苦・辛・鹹）をはかった広東料理を主に、四川・北京・上海・台湾料理について実習を踏まえて教授する。
授業の到達目標〔学習成果〕	中国料理に関する知識や基本的な調理技術の習得（中華鍋等器具の扱い方、包丁の使い方等） また、薬膳料理に対する知識を深める。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義（ビデオ・薬膳）	—
2	什錦炒飯（五目チャーハン）、木須湯（たまごスープ）	中華鍋のあつかい方（20分）
3	生汁鮮蝦球（海老のマヨネーズソース仕立て） 豆乳杏仁豆腐（豆乳風味の杏仁豆腐）	ゼラチンの使い方（20分）
4	乾焼鮮蝦球（海老のチリソース） 抜絲炸地瓜（さつまいもの飴炊き）	揚げ物の調理の仕方（20分）
5	焼売（シューマイ） 油淋炸鶏南（若鶏の特製ソース仕立て）	焼売の包み方（20分）
6	鮮五味鮮貝（ホタテのおろしソース風味） 糖酢炸丸子（肉団子唐揚げの甘酢かけ）	かたくりのとろみの付け方（20分）
7	牛崧美炒飯（牛肉とレタス入りチャーハン） 八珍豆腐羹（豆腐とアスパラスープ）	中華鍋のあつかい方〔加熱温度の見方〕（20分）
8	麻婆茄子（マーボーナス） 凍椰汁糕（ココナッツゼリー）	ゼラチンの使い方〔揚げ物、煮る調理の仕方〕（20分）
9	蠣油牛肉片（牛肉としいたけのオイスターソース） 蕃茄清湯（中華風トマトの野菜スープ）	炒め物の調理の仕方（20分）
10	毛豆蝦仁（海老と枝豆炒め） 豆腐蒸肉餅（豆腐と豚ひき肉蒸し物）	蒸し物の温度調節（20分）
11	枸杞炒牛肉（牛肉のクコの実炒め） 翡翠魚翅（フカヒレスープのほうれん草風味	中国食材〔クコの実、ふかひれ〕の特長（20分）
12	芝麻球（あん入りごま団子） 格蘭汁蝦球（海老のポルトガルソース仕立て）	ごま団子の作り方（20分）
13	檸檬炸鶏甫（若鶏のレモンソース仕立て） 海鮮炒飯（海鮮あんかけチャーハン）	揚げ物の調理の仕方（20分）
14	麻婆豆腐（マーボー豆腐） 香忙甸了（マンゴープリン）	麻婆豆腐の煮込みの火加減の見方（20分）

15	黒椒牛肉（牛肉の黒胡椒炒め） 亜洲蝦仁（海老のオリエンタルソース仕立て）	揚げ物の温度調整（20分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・実習終了後、毎回実習内容をレポートにまとめて次回の授業にて提出すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

料理実習	実習への取組み	レポート	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
レシピをプリント配布する		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・中国料理は華やかで繊細で奥深い料理です。
・レシピの内容や調理技術等、ひとつでも多く学び習得してください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	授業終了後10 分間は小倉北区キャンパス2 号館4 階非常勤講師室にて質問等対応可。

授業科目名	管理栄養士演習ＩA		
担当者名	専門科目担当教員	実務家教員	
科目コード	1100112	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-4-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	開講初日にオリエンテーションを実施し、建学の精神である「筑紫の心」に基づき、本学科が理想とする管理栄養士像について確認する。管理栄養士基本科目毎に、オムニバス形式による講義を実施し基礎力の充実を図る。さらに複数の科目にわたる横断的テーマを設けて、関連する複数の教員で総合演習を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	本演習では3年次までに積み重ねてきた管理栄養士基本科目について理解の深化を図るとともに、科目間の関連性を理解する。管理栄養士としての総合的な力を備え、実践力及び応用力の充実を図る。本学科が理想としている、食指導を通じて社会の福祉（健康と幸福）に貢献しようとする明確な（科学的）方法意識と使命感を持った管理栄養士を目指す。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
2	社会、環境と健康①	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
3	社会、環境と健康②	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
4	人体の構造と機能①	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
5	人体の構造と機能②	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
6	食べ物と健康①	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
7	食べ物と健康②	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
8	基礎栄養学	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
9	学長講話	建学の精神（勇気・親和・愛・知性）について事前学習：予習90分 講話についてのレポート作成：復習90分
10	応用栄養学	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
11	栄養教育論	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
12	臨床栄養学①	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
13	臨床栄養学②	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
14	公衆栄養学	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分
15	給食経営管理論	1,2,3年生の教科学習：予習90分、復習90分

準備学習・事後学習等についての補足説明

・開講までに国家試験過去問題（5年分）を予習し、内容を把握しておくこと。
・前期のオリエンテーション時に授業計画を配布するので、各授業について予習しておくこと。
・1年次から3年次までに開講された科目の教科書を常に手元に置き、疑問点は該当科目の教科書に立ち返り学習すること。
・実力テスト、模擬試験の結果を自己分析し、弱点克服に努めること。各自で少人数のグループを作り、予習復習を行うことを勧める。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
各担当者の小テスト、定期試験の結果	レポート	授業への取り組み姿勢	
80%	10%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
レビューブック　管理栄養士2025　第7版	医療情報科学研究所	メディックメディア

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	管理栄養士演習ⅠB		
担当者名	専門科目担当教員	実務家教員	
科目コード	1100113	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-4-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	管理栄養士演習1Aに引き続き、管理栄養士基本科目毎に、オムニバス形式による総合演習を実施する。管理栄養士が業務を行う上で必要な専門的かつ実践的な知識や技術の再確認をするとともに、さらに発展させることで応用力の向上を図り、管理栄養士として統合された能力を身に付けることを目的とする。
授業の到達目標〔学習成果〕	本演習では前期に引き続き管理栄養士基本科目について理解の深化を図るとともに、科目間の関連性を理解する。管理栄養士としての総合的な力を備え、さらなる実践力及び応用力の充実を図る。本学科が理想としている、食指導を通じて社会の福祉（健康と幸福）に貢献しようとする明確な（科学的）方法意識と使命感を持った管理栄養士を目指す。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
2	社会、環境と健康	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
3	人体の構造と機能	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
4	食べ物と健康	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
5	学長講話	建学の精神（勇気・親和・愛・知性）について事前学習：予習90分 講話についてのレポート作成：復習90分
6	基礎栄養学	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
7	応用栄養学	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
8	栄養教育論	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
9	臨床栄養学	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
10	公衆栄養学	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
11	給食経営管理論	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
12	応用力問題①	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
13	応用力問題②	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
14	総合演習	1，2，3年生の教科学習：予習90分、復習90分
15	特別講演「災害時における管理栄養士の役割」	災害時における管理栄養士の役割についての事前学習：予習90分 講話についてのレポート作成：復習90分

準備学習・事後学習等についての補足説明

・オリエンテーションにおいて計画表を配布するので、各教科の予習をして授業に臨むこと。
・授業中に実施された実力テストをもとに、学習の充実を図ること。予習及び復習では該当科目の教科書に立ち返り学習すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

小テスト、実力テストの結果	レポート	授業への取組み姿勢	
80%	10%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
レビューブック　管理栄養士2025　第7版		

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	管理栄養士演習 II		
担当者名	専門科目担当教員	実務家教員	
科目コード	1100086	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP4-4-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本演習は、管理栄養士としての実践力をさらに確実なものにするために、管理栄養士としての基本科目（「社会･環境と健康」、「人体の構造ろ機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」、「基礎栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」）についえ、専門性を深化させた内容の講義および演習を行なう。食物栄養学科専門教育科目の基礎的科目および管理栄養士免許に必要な科目毎に、オムニバス形式による講義･演習を実施する。
授業の到達目標〔学習成果〕	専門性をより深化させた講義および演習を受講し、さらに高度な知識および実践力を身につける。また、各科目の関連性についても理解し、総合的な理解を深める。また、この知識と技能をもって各自で新たな視点から解決策を提案することのできる管理栄養士を目指す。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
2	薬と疾病	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
3	食品の成分と分類	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
4	疫学研究、保健･医療･福祉制度	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
5	食品学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
6	公衆栄養学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
7	栄養教育論	官理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
8	応用栄養学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
9	給食経営管理論	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
10	疾病の成り立ちと病態	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
11	食品加工学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
12	公衆衛生学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
13	解剖生理学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
14	臨床栄養学	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分
15	応用力試験	管理栄養士の教科学習：予習90分、復習90分

準備学習・事後学習等についての補足説明

・後期のオリエンテーションにおいて計画表を配布するので、各教科の予習をして授業に臨むこと。
・授業中に実施された実力テストをもとに、学習の充実を図ること。予習及び復習では該当科目の教科書に立ち返り学習すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

後期全国統一模擬試験（直近4回分）の平均点	出欠点と授業への取組姿勢		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
レビューブック　管理栄養士2025　第7版	医療情報科学研究所	メディックメディア
管理栄養士国家試験受験必修過去問集2025	女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編	女子栄養大学出版部

参考書又は参考資料等

○「日本人の食事摂取基準（2020年版）」（第一出版）・1年生から4年生までの各科目の教科書

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、管理栄養士専門科目の総合理解力を評価するために、定期的に実力テストを実施する。実力テストの結果と受講態度について、教科担任会議において総合的に評価する。
・教科担当教員に質問し、理解を深めること。また任意で少人数でのグループ学習を強く勧める。
※単位認定については、後期全国統一模擬試験（直近4回分）の平均点（80%）、出欠点と授業への取組姿勢（20%）を総合的に判断する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	運動処方論		
担当者名	倉﨑　信子	実務家教員	
科目コード	1100087	授業形態	講義
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP1-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康のための適切な運動は、生活習慣病などの予防や改善に効果が期待できる。しかし、どんなスポーツや運動でも効果が確実に現われ、健康に結びつくというものではない。したがって本講義では「運動生理学」の内容を踏まえ、科学的根拠に基づいた安全で効果的な運動処方を行うための基礎、実際について学ぶ。
授業の到達目標〔学習成果〕	・運動の持つ危険性とその効果について理解する。 ・生活習慣病予防や改善に期待できる科学的根拠に基づいた運動処方について理解する。 ・ACSM代謝方程式を利用し健康指導の実践に活用できるスキルを修得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション：講義の目的・内容・学習方法の説明	事前：テキスト2章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、で復習する（90分）
2	運動の必要性(1)　身体組成の変化、骨格筋の適応	事前：4章予想問題で運動生理学の復習をする（90分） 事後：配布資料で復習する（90分）
3	運動の必要性(2)　呼吸循環器系の適応　防衛体力	事前：5章予想問題で運動生理学の復習をする（90分） 事後：配布資料で復習する（90分）
4	運動処方の考え方　運動処方とは、運動処方の基本条件、手順　、適度な運動とは	事前：5章予想問題で運動生理学の復習をする（90分） 事後：配布資料で復習する（90分）
5	検査(1)　メディカルチェック	事前：12章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
6	検査(2)　運動負荷テスト	事前：11章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
7	検査(3)　体力テスト（筋力の測定）	事前：文部科学省新体力テストの実施要項を確認する（90分） 事後：文部科学省新体力テストの評価方法を理解する（90分）
8	検査(4)　体力テスト（持久力の測定）	事前：文部科学省新体力テストの実施要項を確認する（90分） 事後：文部科学省新体力テストの評価方法を理解する（90分）
9	運動負荷評価法	事前：11章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
10	ACMS代謝方程式を利用する	事前：12章を通読しておくこと（90分） 事後：代謝に関する方程式を用いて課題を解く（90分）
11	運動処方の実際(1)　生活習慣病(糖尿病者)の処方	事前：13.2章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
12	運動処方の実際(2)　生活習慣病（肥満者）の処方	事前：13.2章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）

13	運動処方の実際(3) 生活習慣病者（高血圧症）の処方	事前：13.3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
14	運動処方の実際(4) 生活習慣病者（脂質異常症）の処方	事前：12章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）
15	安全対策　運動前・運動中の注意	事前：14章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み態度		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
エキスパート　管理栄養士養成シリーズ　運動生理学	山本順一郎 編	化学同人

参考書又は参考資料等

・アメリカスポーツ医学会（ACSM）ガイドライン
・講義中に適宜、資料を配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・体力テストの実際として2週にわたり、実技を実施しますので体調管理を行ってください。また、体育館シューズを持参してください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品機能論		
担当者名	杉元　康志	実務家教員	
科目コード	1100088	授業形態	講義
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品には１次機能、２次機能、３次機能があり、ヒトに様々な影響を与えている。食品の機能は多様多彩であり、これらを理解するのは食品学や生化学の知識が必要である。。また、これらの機能は生活習慣病とも密接に関係しており、健康を維持する上でもこれらの機能を知ることは重要である。管理栄養士としても食品を選ぶ際にも、また、疾患を抱えた病者への食生活の指導や食事の作成にも食品の機能知識は有していなくてはならない。 本授業においては食品の１次機能、２次機能、３次機能を詳しく解説し、食品の面白さを知ることを主な目的とし、管理栄養士国家試験にも役立たせる。
授業の到達目標	管理栄養士として食品の機能について十分な知識と理解を付けさせる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	食品の１次機能について 各栄養素の機能１	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
2	食品の１次機能について 各栄養素の機能2	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
3	食品の１次機能について 各栄養素の機能3	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
4	食品の2次機能について 色素	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
5	食品の2次機能について 味、香り	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
6	食品の3次機能について 生体調節機能１	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
7	食品の3次機能について 生体調節機能2	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
8	食品の3次機能について 生体調節機能3	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
9	食品の3次機能について 生体調節機能4	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
10	食品の3次機能について 生体調節機能5	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
11	動物性食品の機能の特徴	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
12	植物性食品の機能の特徴１	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
13	植物性食品の機能の特徴2	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
14	食品機能の利用、食品機能と疾病	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分
15	機能性食品と食品表示 まとめ	食と健康の教科学習：予習90分、復習90分

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	授業態度とレポート		
70%	30%		
使　用　テ　キ　ス　ト			
書籍名		著者	出版社
食品学・食品機能学		大鶴　勝　編	朝倉書店
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail		その他	

授業科目名	栄養薬理学Ⅰ		
担当者名	戸田　晶久	実務家教員	
科目コード	1100106	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP2-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、管理栄養士はチーム医療スタッフとして重要な役割を担っている。たとえば、栄養サポートチーム（NST：nutrition support team）における栄養管理や生活習慣病などの栄養指導を進める上で、基本的な医薬品や薬物療法の理解は必要な知識のひとつである。「栄養薬理学Ⅰ」では、薬物の基本的な体内動態および薬効・薬理作用を解説し、主な疾病に対する薬物療法について概説し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 主な疾病の薬物治療の理解し、説明できる。 2) 基本的な薬物名および薬効・薬理作用の理解し、説明できる。 3) 薬物副作用の事例について理解し、課題解決に向けた手法を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	薬理学総論：薬物の歴史、受容体および薬物の吸収・代謝	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
2	自律神経系の概説と交感神経作用薬および遮断薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
3	副交感神経作動薬・遮断薬および筋弛緩薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
4	オータコイド類：プロスタグランジンおよびヒスタミン等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
5	炎症に関する薬Ⅰ：非ステロイド性抗炎症薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
6	炎症に関する薬Ⅱ：ステロイド性抗炎症薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
7	循環器系に作用する薬Ⅰ：抗高血圧薬、利尿薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
8	循環器系に作用する薬Ⅱ：虚血性心疾患の治療薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
9	呼吸器・消化器系作用薬: 気管支喘息、消化性潰瘍治療薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）

10	中枢神経作用薬Ⅰ：神経変性疾患治療薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
11	中枢神経作用薬Ⅱ：抗不安薬・睡眠薬、抗うつ、抗精神病薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
12	インスリン、経口糖尿病薬、高尿酸血症治療薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
13	抗生物質、抗ウイルスおよび化学療法剤	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
14	抗がん薬、分子標的薬等	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容についてノートを活用し復習する。（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1） ホームワークの配布
2） 試験学習の為の復習

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業姿勢評価（レポート、ホームワーク、出席等）		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
系統看護学講座　薬理学　疾病の成り立ちと回復の促進３	吉岡　充弘	医学書院

参考書又は参考資料等

１）講義毎に資料を配布する。
２）参考書：薬系薬理学書　立川英一　他編　南江堂

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

1)授業内容について理解できない箇所がある場合は、ホームワークの用紙に質問内容記入するか、講義やオフィスアワー時に、質問にして下さい。
2)ホームワークは、次授業で説明する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養薬理学Ⅱ		
担当者名	戸田　晶久	実務家教員	
科目コード	1100107	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP2-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「栄養薬理学Ⅱ」は「栄養薬理学Ⅰ」を習得した薬理学的知識を基礎として、医療現場の管理栄養士として必要な医薬品や静脈経腸栄養に必要な経腸及び経静脈栄養剤の知識を講義する。たとえば、NSTの一員として栄養管理や栄養指導などにおいて、基本的な医薬品や薬物療法、経腸・経静脈栄養剤の理解は必要な知識のひとつである。「栄養薬理学Ⅱ」では、医療現場で必要な医薬品、経腸・経静脈栄養剤を解説し、生活習慣病に対する薬物療法や薬と食品との相互作用について概説し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 生活習慣病に対する薬物療法および薬と食品との相互作用を習得し、説明できる。 2) 管理栄養士として必須の医薬品や経腸及び経静脈栄養剤の知識の習得し、説明できる。 3) 薬物副作用の事例について理解し、課題解決に向けた手法を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	食品と薬物の相互作用について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
2	食品の栄養と薬物の体内動態について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
3	薬物の体内動態に及ぼす食品の影響①	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
4	薬物の体内動態に及ぼす食品の影響②	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
5	自律神経に効く薬と食品との関係	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
6	生活習慣病と薬物治療①　糖尿病について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　(90分) 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
7	生活習慣病と薬物治療高②　脂質異常症（高脂血症）について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
8	生活習慣病と薬物治療③　高血圧症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）

9	生活習慣病と薬物治療④　高尿酸血症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
10	生活習慣病と薬物治療⑤　骨粗しょう症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
11	経腸栄養と経静脈栄養法について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
12	経腸栄養について①	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
13	経腸栄養について②	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
14	静脈栄養について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと　（90分） 事後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容についてノートを活用し復習する。（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1）ホームワークの配布
2)試験学習のための復習をする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（筆記試験）	授業姿勢評価（レポート、ホームワーク、出席等）		
80%	20%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
栄養薬理学	田中芳明・中村　強	建帛社

参考書又は参考資料等

1) 講義毎に資料を配布する。
2) 参考書：薬系薬理学書　立川英一　他編　南江堂

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

1)授業内容について理解できない箇所がある場合は、ホームワークの用紙に質問内容記入するか、講義やオフィスアワー時に、質問にして下さい。
2)ホームワークは、次授業で説明する。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	栄養士のための薬膳		
担当者名	米永　基子	実務家教員	
科目コード	1100091	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	日本は高齢社会となり、若年からの自己管理により健康体を保つ努力が求められている。私たちが健康を維持し、疾病を予防するには、まずは、自分の体と向き合い、それぞれの体に合った方法を実践していくことである。 「自然回帰」が見直される中、人と自然界は密接な関係にあると捉えている中医学・薬膳を学ぶことで、管理栄養士として幅広い考え方を習得する。 とりまく環境との関係性も含め、人間の生命活動について食を通して考察する。
授業の到達目標〔学習成果〕	中医学、薬膳の基礎知識を学び、その概略を知ることにより、多岐にわたって健康と栄養について考えられるようになる。また、この授業を通して健康管理を柔軟に対応できる資質を育む。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	薬膳と健康について	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
2	薬膳の目的と歴史	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
3	薬膳の基本・陰陽論	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
4	薬膳の基本・五行学説	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
5	五臓六腑について①　肝・心	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
6	五臓六腑について②　脾胃・肺	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
7	五臓六腑について③　腎	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
8	精と気血水の考え方	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
9	体質についての考え方	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）

10	食物の性質	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
11	薬膳の治法	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
12	中医薬について、薬膳食材の作用、調理法	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
13	薬膳料理の実際	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
14	薬膳の献立作成と身近な生薬	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）
15	まとめ、ディスカッション、発表	事前：該当テキストなどを通読しておく（90分） 事後：授業で得た知識や言葉の不明点を確認しておく（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

第1回目の授業前に、健康とはどういうものかを調べ、考えておく。
聞きなれない用語が多いので、毎回、復習をして次の授業に臨むこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

講義への取組み姿勢	レポート		
50%	50%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
東方栄養新書	梁　晨千鶴	㈱メディカルユーコン

参考書又は参考資料等

・その他資料は配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

レポートは出された課題について取り組む。（講義中に出された課題も提出してください。）
適宜、変更する可能性があります。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問は講義終了後に対応します。

授業科目名	細菌性食中毒学		
担当者名	沖　勉	実務家教員	
科目コード	1100092	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	選択必修
ナンバリング	DP3-2-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	食生活の安全を確保するため、食中毒について学び、そのための予防法を習得する。講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。		
授業の到達目標〔学習成果〕	①　それぞれの食中毒の特徴について説明することができる。 ②　予防策は何かを簡単に説明でき、実生活で活用できるようになる。		

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	微生物の生活を知る	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
2	食品衛生法での食中毒、食中毒発生状況	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
3	感染と感染症の仕組み	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
4	免疫の仕組み	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
5	細菌性食中毒：サルモネラ属菌	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
6	細菌性食中毒：病原大腸菌	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
7	細菌性食中毒：３類感染症起因菌、カンピロバクター	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
8	細菌性食中毒： ウェルシュ菌、セレウス菌	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
9	細菌性食中毒：黄色ぶどう菌、ボツリヌス菌	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)
10	細菌性食中毒：腸炎ビブリオ、アレルギー様食中毒、細菌性食中毒の予防法	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する　(15分)

11	ウイルス性食中毒：ノロウイルス、	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する （15分）
12	寄生虫（原虫）による食中毒	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する （15分）
13	動物性自然毒食中毒	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する （15分）
14	植物性自然毒食中毒	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する （15分）
15	化学物質による食中毒 有害物質による食品汚染	予習：教科書の該当箇所の確認　（15分） 復習：小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書で確認・整理する （15分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。
復習のために、Googleフォームでの「小テスト」を毎回実施する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
改訂　食品微生物学	高見伸治 山本勇 西瀬弘 大塚暢幸 長澤治子 土居幸雄 共著	建帛社
新版食品衛生学〔第2版〕	伊藤　武・古賀信幸　編著	建帛社

参考書又は参考資料等

既に購入している教科書の関連分野

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

講義中の私語は厳禁。
他の受講生の迷惑になるので退室させる。
質問があれば、挙手して適宜質問すること。
小テストは成績評価の対象なので、毎週送信すること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	食品バイオテクノロジー		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100093	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	食品衛生管理者・監視員必修
ナンバリング	DP3-3-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本科目は食品衛生管理者等任用資格の取得希望者には必修である。バイオテクノロジーの発展の背景および基本的なバイオテクノロジー技術、微生物利用技術、酵素利用技術、遺伝子工学技術の利用の観点から、バイオテクノロジーの発展に寄与した技術について解説し、植物、動物、環境、食品機能、食環境ならびに医療分野におけるバイオテクノロジーの応用について各論的に解説する。特に食料生産、食品加工や食品製造と関連の深いバイオテクノロジー技術については詳しく触れ、講義を進める。
授業の到達目標〔学習成果〕	① バイオテクノロジーの基本的理解をしたうえで、その実際的な各種応用技術を学ぶ。 ② 微生物利用技術、酵素利用技術、植物や動物のバイオテクノロジー技術による食糧生産、遺伝子組換え食品や新規機能性食品の開発、環境修復や医療分野におけるバイオテクノロジーの応用などについて具体的な理解を深める。 ③身につけた知識を他の専門科目や実生活においてもその知識を応用・活用できるようになるための練習を積む。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	第1章 バイオテクノロジーの背景	準備：テキスト指定範囲(p.1-8)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
2	第2章 微生物の利用（微生物の種類とその性質、微生物の生育と環境条件）	準備：テキスト指定範囲(p.9-19)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
3	第2章 微生物の利用（醸造や発酵食品製造における微生物の利用、微生物による各種有用物質の生産）	準備：テキスト指定範囲(p.19-28)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
4	第3章 酵素の利用（酵素とは、酵素の生産と利用技術）：	準備：テキスト指定範囲(p.29-42)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
5	第3章 酵素の利用（酵素の利用）、第4章 遺伝子工学技術への利用（ゲノムとは）	準備：テキスト指定範囲(p.42-51)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
6	第4章 遺伝子工学技術への利用（クローニング技術、遺伝子組換え技術）	準備：テキスト指定範囲(p.51-61)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
7	第4章 遺伝子工学技術への利用（有用物質の生産、遺伝子組換えの応用事例）	準備：テキスト指定範囲(p.61-66)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
8	第5章 植物のバイオテクノロジー（植物の組織培養技術）	準備：テキスト指定範囲(p.67-77)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
9	第5章 植物のバイオテクノロジー（植物の遺伝子組換え技術、遺伝学的手法を用いた植物遺伝子解析法、新しい遺伝改変法と遺伝子組換え技術を利用した新品種の育成）	準備：テキスト指定範囲(p.77-90)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
10	第6章 動物のバイオテクノロジー	準備：テキスト指定範囲(p.91-104)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

11	第7章 環境とバイオテクノロジー	準備：テキスト指定範囲(p.105-116)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
12	第8章 食品機能とバイオテクノロジー	準備：テキスト指定範囲(p.117-126)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
13	第9章 食環境とバイオテクノロジー	準備：テキスト指定範囲(p.127-132)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
14	第10章 医療とバイオテクノロジー（抗生物質、インスリン、血栓溶解剤、造血剤、インターフェロン、モノクローナル抗体）	準備：テキスト指定範囲(p.133-145)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
15	第10章 医療とバイオテクノロジー（新しいがん治療、遺伝子診断）、第11章 再生医療とバイオテクノロジー技術	準備：テキスト指定範囲(p.145-154)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

① 準備学習として、授業計画に従って授業を進めるので、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにし、授業に臨むこと。
② 事後学習として、授業で学習した部分を簡潔にまとめながら復習する。疑問があれば質問して解決しておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	授業への取組み状況	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
バイオテクノロジー入門	高畑京也・蔡晃植・齋藤修　編著	建帛社

参考書又は参考資料等

参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

①本講義の内容は、食品に関する科目（食品学総論・各論、食品加工学、食品衛生学など）だけでなく、生化学などとも密接に関連しています。
②教科書を中心に必ず予習復習をして理解を深め、他の科目でもその知識を活用することが大切です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	食品の官能評価・鑑別演習		
担当者名	小野　要	実務家教員	
科目コード	1100095	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP3-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	多種多様な食品が販売消費されている現在においては、正しい知識を持って食品の品質を評価し、選択していくことが豊かな食生活の構築に必要である。また新食品の開発においては、官能評価は必須項目となっている。本演習では、食品の官能検査法、化学的評価法、物理的評価法、個別食品の鑑別について、下記の教科書を使用しながら演習を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	① 食品の品質について、その官能的特性を把握する。 ② 食品の品質評価の基礎的な技術・知識を習得する。 ③ 官能的検査法では官能検査を実践できる能力を養う。 ④ 食品の化学的・物理的評価法では実験法をもとに食品の品質評価の技術や知識を深める。 ⑤ 個別食品の鑑別では、個々の食品の品質評価に関する専門的知識を習得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	序 食品の品質とは、 1 官能評価 （官能評価の概要、官能評価の基本と実施法）	準備：テキスト指定範囲(p.1-12)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
2	1 官能検査（官能評価の基本と実施法）	準備：テキスト指定範囲(p.12-17)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
3	1 官能検査（官能評価の基本と実施法）	準備：テキスト指定範囲(p.17-30)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
4	2 化学的評価法（食品成分と品質）	準備：テキスト指定範囲(p.31-45)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
5	2 化学的評価法（食品成分と品質、化学的品質評価）	準備：テキスト指定範囲(p.45-58)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
6	3 物理的評価法 （食品の状態、レオロジーとテクスチャー）	準備：テキスト指定範囲(p.59-69)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
7	3 物理的評価法（物理的性質の評価法）	準備：テキスト指定範囲(p.69-78)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
8	3 物理的評価法（色の評価方法、非破壊検査法）	準備：テキスト指定範囲(p.79-85)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
9	4 個別食品の鑑別 （米、麦類、トウモロコシ、雑穀類、イモ類）	準備：テキスト指定範囲(p.87-110)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
10	4 個別食品の鑑別 （豆類、種実類、野菜類・キノコ類、果実類）	準備：テキスト指定範囲(p.111-133)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
11	4 個別食品の鑑別（海藻類、魚介類、肉類）	準備：テキスト指定範囲(p.134-155)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
12	4 個別食品の鑑別 （肉類、卵とその加工品、乳と乳製品）	準備：テキスト指定範囲(p.155-177)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
13	4 個別食品の鑑別（油脂、菓子類、酒類）	準備：テキスト指定範囲(p.177-198)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

14	4 個別食品の鑑別 （茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料、醸造食品、 調味料）	準備：テキスト指定範囲(p.198-221)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）
15	4 個別食品の鑑別 （香辛料、インスタント食品、冷凍食品、弁当、機能性食品）	準備：テキスト指定範囲(p.222-243)通読しておく(90分) 事後：授業で学習した部分を簡潔にまとめ （90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

① 準備学習として、授業計画に従って授業を進めるので、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにし、授業に臨むこと。
② 事後学習として、授業で学習した部分を簡潔にまとめながら復習する。疑問があれば質問して解決しておく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	小テスト	授業への取り組み状況	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
三訂　食品の官能評価・鑑別演習	日本フードスペシャリスト協会編	建帛社

参考書又は参考資料等

参考資料等は必要に応じて配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

① 食品の官能評価・鑑別演習は、食品の品質を鑑別する技能を習得し、良い品質の食品を選択できるようになるために必要です。また、食品企業等における新食品開発では官能評価は必要不可欠な検査項目の一つです。
② 教科書を中心に必ず予習復習をして、他の科目でもその知識を活用することが大切です。
③ レポートは返却し、内容等についてフィードバックを行うので、それに対応して改善をはかること。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	質問への対応方法等については、講義開始後に改めて連絡をします。

授業科目名	食品流通論		
担当者名	髙森　俊明	実務家教員	
科目コード	1100096	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	新型コロナウイルスの世界中感染拡大ならびにロシアによるウクライナ侵略は、私たちに改めて食品流通のグローバル化を実感させるとともに、食品流通を含めた現代の社会システム全体にパラダイムシフト的変革を余儀なくさせた。 この講義では、私たちの命の糧となる食品について、流通の果たす役割と仕組みをわかりやすく解説しながら、生活や仕事に役立つ経済知識を身につける。単に教科書的知識の習得だけでなく、アフターコロナの社会変化を踏まえた、実践的な知識を提供する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 食品流通の仕組みについて理解し、その概要を説明できるようになる。 2) 様々なビジネスシーンで役立つ経済知識を身につける。 3) 食品流通の果たす役割について説明することができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	管理栄養士のための経済学 これからの管理栄養士に不可欠の知識を学ぶ	事前：なし 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（180分）
2	流通のしくみと役割 あなたには生産者の顔が見えていますか？	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
3	フードシステムとマーケット 100年ぶりの卸売市場大改革の全容	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
4	内食・中食・外食 外食革命の烽火はここ福岡から始まった	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
5	食品の物流システム ついに物流の2024年度問題が始まった	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
6	新しい物流 温度帯別食品流通とロジスティクス	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
7	Eコマースの食品流通 ネット通販のしくみと最近の動向	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
8	SMの食品流通 スーパーマーケットの特徴と戦略	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
9	百貨店の食品流通 お得意様カード VS 株主優待	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）

10	GMSとショッピングセンター 　旬の優良ブランドによる集客戦略	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
11	CVSの食品流通 　コンビニエンスストアの世界最先端システム	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
12	DgS と健康生活食品市場 　ドラッグストアのビジネスモデル 　医療品と健康食品の違い	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
13	フードマーケティング 　一番わかりやすい食品マーケティング入門	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
14	主要食品の流通 　米・小麦からプロバイオティクスまで	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる（90分）
15	食品流通の安全確保 　リスク分析からHACCPまで	事前：授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分） 事後：授業の内容について自分でも調べてみる。 授業ノートの復習､自分で調べた内容を授業ノートに追記する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・「キーワードノート」については、対面講義かリモート講義かによってスタイルを決定するので講義開始後に別途指示する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	キーワードノートの完成度	授業への取組み姿勢	
40%	30%	30%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

講義の進捗に応じて適宜参考資料等を紹介する。講義時に参考資料等を配布する場合がある。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・B5サイズのキャンパスノートを1冊持参すること。
　（メーカーは不問。A4サイズノート、ルーズリーフノート、リングノートは不可。）
・講義中の私語やスマホ使用は、グループディスカッション等で認めた場合を除き、厳禁とし、減点対象とする。
　注意しても改善されない場合は、他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合がある（対面講義のみ）。
・授業中の居眠りや著しく意欲に欠ける取り組み姿勢は減点対象とする（対面講義のみ）。
・公欠事由に該当する場合を除き、30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする（対面・リモート共通）。
・対面講義の場合は定期試験を実施するがリモート講義の場合は課題レポートを定期試験の代替とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

	大学の授業は、教員による一方的な講義だけではなく、受講者である学生さんの皆さんの主体的な学習姿勢によって一層ブラッシュアップしていく。 なので、質問は大歓迎、自分で質問したことは必ず自身のプラスになるので遠慮なく質問してほしい。 授業中、随時質問を受け付け、毎回授業終了後に質問タイムを設けるので個別質問も歓迎する。 また、授業開始30分前までは非常勤講師控室に待機しているので質問対応可。（リモート講義の場合はチャットによる質問で代替）

授業科目名	専門ゼミナール		
担当者名	専門科目担当教員	実務家教員	
科目コード	1100109	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-4-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	専門ゼミナールは管理栄養士関連科目担当の教員がそれぞれ個別に通年で行う。各ゼミにテーマを設定し、勉強会、発表会、実験、実習、社会見学、社会活動、ボランティアおよび社会体験などを行い、管理栄養士としての資質を高める、また、担当教員が国家試験の指導や就職の相談などを行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	各学生に設定したゼミのテーマについて研究し、まとめる。 グループディスカッションにて発表する。 国家試験に挑む精神を養う。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	専門ゼミナールのガイダンス	事前：ゼミのテーマについて知る（90分） 事後：与えられたテーマについて整理する（90分）
2	全体集会 4年生としての取り組み	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
3	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
4	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
5	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
6	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
7	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
8	全体集会	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
9	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
10	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
11	個別ゼミ活動	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
12	個別ゼミ活動（グループディスカッション）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
13	個別ゼミ活動（グループディスカッション）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）
14	テーマについての発表	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）

15	まとめ	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：ゼミナールで学んだことについて整理する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み	テーマの到達度	発表内容	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	キャリアデザイン		
担当者名	専門教育科目担当	実務家教員	
科目コード	1100108	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期、2024年度後期
単位数	2	履修	必修
ナンバリング	DP4-3-C		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本学の建学の精神に基づいて学んだ「キャリアガイダンス」を基礎とし、各自が到達すべき将来の目標を定め、それを実施するために必要な学習を行う。具体的には、現場の管理栄養士や管理栄養士に関わりの深い他職種の外部講師による講義を実施し、各自の将来の管理栄養士像の明確化を図る。さらに、行事教育では、各自が積極的に参加し、本学の建学の理念及び行事の意義について理解を深める。さらに大学祭ではクラスごとの企画・展示発表を行う。これまでに学んで来た専門知識を地域住民に直接的に伝える貴重な機会と捉え、実践力を身につける場として取り組む。また、年間を通した調べ学習やレポート作成から４年生の専門ゼミナール活動及び卒業論文研究に取り組む基盤を培う。
授業の到達目標〔学習成果〕	・本学の建学の精神に基づき、社会人として必要な社会性、協調性を習得する。 ・本学の目標とする管理栄養士像を理解し、各職域の講師及び先輩の実習報告を基に、それを実現する基礎を築き、自己のキャリアデザインを具体化する。 ・４年生の専門ゼミナール及び卒業論文研究に向け、研究・調査方法に関する基礎知識を学習する。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	3年次におけるキャリアデザイン レクリエーションスポーツについて	事前：3年次の目標についてまとめる（45分）
2	レクリエーションスポーツ練習	事前:レクリエーションスポーツのルールについて調べる（45分） 事後：レクリエーションスポーツの練習をする（45分）
3	国家試験対策①	事前：国家試験の過去問を解く（45分） 事後：間違えた問題の復習をする（45分）
4	国家試験対策②	事前：国家試験の過去問を解く（45分） 事後：間違えた問題の復習をする（45分）
5	導入教育①「管理栄養士の使命と役割・関連職種との関わり」	事前：指定した内容について調べる（45分） 事後：指定した内容について復習する（45分）
6	導入教育②「健康の維持増進・病気の予防・治療」	事前：指定した内容について調べる（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45分）
7	導入教育③「職業倫理」	事前：指定した内容について調べる（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45分）
8	導入教育④「マナー講座①」	事後：社会人としてのマナーについてまとめる（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45分）
9	大学祭準備（テーマや概要を決める）	事前：大学祭で展示したいテーマや内容を考えておく（45分） 事後：グループで決めたテーマについて調べる（45分）
10	特別講演①	事前：指定した内容について調べる（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45分）
11	4年生からの臨地実習報告①（臨地実習Ⅱ・Ⅲ）	事前：指定した内容について調べる（45分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45

		分）
12	特別講演②「集団給食施設のおける衛生管理」 事前：指定した内容について調べる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）	
13	就職指導①「スタートアップ・自己分析講座」	事前：主観的な自己分析を行う（45 分） 事後：総合的な自己分析を行う（45 分）
14	特別講演③	事前：指定した内容について調べる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
15	大学院について 前期目標到達度についての自己評価	事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
16	大学院について 前期目標到達度についての自己評価	事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
17	特別講演④	事前：指定した内容について調べる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
18	国家試験対策③	事前：国家試験の過去問を解く（45 分） 事後：間違えた問題の復習をする（45 分）
19	大学祭準備②	事前：企画した内容について調べる（45 分）
20	大学祭準備③	事前：企画した内容について調べる（45 分）
21	大学祭反省会	事前：大学祭について振り返っておく。
22	卒業生からのメッセージ①（病院・行政・学校）	事後：指定した内容についてまとめる（45 分）
23	導入教育⑤「マナー講座②」	事前：社会人としてのマナーについてまとめる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
24	就職指導③：面接対策・自己 PR	事前：自己ＰＲを考えておく（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
25	就職活動について：先輩の講話	事後：指定した内容についてまとめる（45 分）
26	4 年生からの臨地実習報告②（臨地実習Ⅰ）	事前：指定した内容について調べる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
27	国家試験対策④	事前：国家試験の過去問を解く（45 分） 事後：間違えた問題の復習をする（45 分）
28	トライアル試験	事前：トライアル試験に向けて学習する（45 分） 事後：試験の内容について復習する（45 分）
29	特別講義：病院における管理栄養士業務	事前：指定した内容について調べる（45 分） 事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）
30	1 年間の到達度確認	事後：指定した内容についてレポートを作成する（45 分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

新聞、メディアなどの報道に関心を持ち現在の社会情勢を把握しておく。課題を作成する際インターネットだけでなく図書館等を利用すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

※その他欄参照			

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等
特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
定期試験は実施しない。レポートおよび行事教育への取り組み、事業態度より総合的に成績評価を行う。 提出書類の期限を厳守すること。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他

授業科目名	卒業論文		
担当者名	専門教育科目担当	実務家教員	
科目コード	1100099	授業形態	
学年	4	開講期	2024 年度前期、2024 年度後期
単位数	2	履修	選択
ナンバリング	DP4-4-C		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「卒業論文」を履修する学生は、「専門ゼミナール」担当教員と研究テーマを決定し、卒業研究を実行する。卒業論文テーマに従って、文献・資料収集と共に実験方法および調査方法などを調べ、研究を実行する。研究成果は、卒業論文発表会で報告する。卒業研究をまとめ、卒業論文として提出する。 ※講義の内容は変更になる場合があります。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1) 研究の進め方、研究手技および問題解決法を習得する。 2) データのまとめ方、それらの統計的な解析法などを学習し、論文のまとめ方及び発表方法などを習得する。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	卒業論文研究テーマの選択	文献調査：予習 90 分、復習 90 分
2	卒業論文研究テーマの決定	研究内容調査：予習 90 分、復習 90 分
3	研究計画の立案	研究文献調査：予習 90 分、復習 90 分
4	研究テーマの予備調査・予備実験	研究の調査・実験検索：予習 90 分、復習 90 分
5	研究テーマの予備調査・予備実験	研究実施の準備：予習 90 分、復習 90 分
6	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
7	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
8	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
9	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
10	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
11	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
12	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
13	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
14	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
15	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
16	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
17	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
18	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
19	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
20	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分

21	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
22	本研究の遂行	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
23	研究結果の検討	結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
24	追加研究	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
25	追加研究	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
26	追加研究	研究実行の準備と結果の検証：予習 90 分、復習 90 分
27	データの整理	研究の検証：予習 90 分、復習 90 分
28	卒論発表会	発表準備と研究の検証：予習 90 分、復習 90 分
29	卒業論文作成	卒業論文作成と校正：予習 90 分、復習 90 分
30	卒業論文作成	卒業論文作成と校正：予習 90 分、復習 90 分

準備学習・事後学習等についての補足説明

・研究テーマの遂行に必要な各種原理、実験手技及び論文等の資料収集などを行い、指導教員のもと、実験計画および方法について検討する

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

卒業論文	研究への取り組み姿勢		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、研究に向けての取り組みおよび卒業論文を総合的に評価する。
・質問等のある場合は、各担当教員のオフィスアワーの時間で対応することになっているので、講義の前後若しくはメール等で事前に担当教員に連絡する。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	児童・生徒の栄養指導Ⅰ		
担当者名	安倍　ちか	実務家教員	○
科目コード	1800001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-3-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本科目では、栄養教諭、行政の職務経験を有する教員が、栄養教諭制度が創設された経緯や栄養教諭の役割について社会的ニーズを踏まえて講義を進めるとともに、グループディスカッションを通して理解を深める。 子どもたちの食生活の現状は、朝食欠食、栄養の偏り、肥満、痩身傾向等、生活環境や食生活の乱れが深刻になっている。このような背景のもとに栄養教諭は、学校給食の管理と食に関する指導を一体的なものとして、栄養に関する専門性をいかに教育に生かすかという視点で教育力や食の専門性の向上を図る必要性について学ぶ。 具体的には、児童・生徒の食に関する課題を把握するとともに、学校における食に関する指導を充実するための法的整備、学校給食を教材として活用した食に関する指導の在り方、給食時間をはじめとして関連教科、領域等、学校教育活動全体を通して食に関する指導を展開させたい。
授業の到達目標〔学習成果〕	1）栄養教諭が創設された背景や制度について理解し、説明できる。 2）児童・生徒の食に関する現状と課題について、データを用いて分析し、説明できる。 3）学校給食を食に関する教科等の学習指導に活かすための教材研究の方法を習得できる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション／児童・生徒の食生活を取り巻く現状と課題（グループワーク）	事前：児童・生徒の食に関する現状とその課題について調べる。（90分） 事後：児童・生徒の食に関する現状と課題を踏まえ、目指す栄養教諭像について考え、まとめる。（90分）
2	食育基本法の施行、食育推進基本計画の決定とその経緯	事前：食育基本法について事前に読む。（90分） 事後：食育基本法が制定された背景と児童・生徒の食育に関連する条文をノートに整理する。（90分）
3	栄養教諭制度創設の経緯（栄養教諭制度創設に係る審議会答申、学習指導要領の改訂等）	事前：栄養教諭制度創設に係る審議会答申について通読する。（90分） 事後：食に関する指導と学習指導要領との関連についてノートに整理する。（90分）
4	栄養教諭の職務内容、使命、役割 （学校給食の管理・食に関する指導）	事前：栄養教諭の職務についてテキストを通読する。（90分） 事後：栄養教諭に期待される役割について、授業を踏まえて自分の考えをノートにまとめる。（90分）
5	児童・生徒の指導及び管理に係る社会的事情、児童生徒の指導及び管理に係る法令及び諸制度 （学校教育法、学校給食法、教育職員免許法等）	事前：学校給食法を読み、学校給食の目標をつかむ。（90分） 事後：学校教育法、教育職員免許法の食に係る内容についてノートに整理する。（90分）
6	学校給食の歴史と意義、役割等	事前：学校給食の歴史について調べる。（90分） 事後：学校給食の役割について授業を踏まえてノートに整理する。（90分）

7	食に関する指導の必要性と意義等 （グループディスカッション）	事前：食に関する指導がなぜ必要なのかを調べる。（90分） 事後：食に関する全体計画の作成の必要性をノートに整理する。（90分）
8	児童・生徒の体位と健康	事前：学校保健統計調査より児童・生徒の健康状態を把握する。（90分） 事後：授業を踏まえ、個別的相談指導が必要な児童・生徒の健康上の課題をノートに整理する。(90分)
9	児童・生徒の食習慣と心と体の健康	事前：児童・生徒の食習慣について国のデータ等を通読する。（90分） 事後：児童・生徒の食習慣が心や体の健康に与える影響についてノートに整理する。（90分）
10	児童・生徒の栄養について	事前：学校給食摂取基準について調べる。（90分） 事後：学校給食の栄養管理のポイントについてノートに整理する。（90分）
11	国民の栄養等に関する諸課題、法令及び諸制度	事前：国民健康栄養調査等の関連資料について通読する。（90分） 事後：国民の栄養状態の課題とその解決に向けた方法について考え、ノートに整理する。（90分）
12	食生活に関する歴史 （祖先の食生活に対する取組、知恵、工夫等） （グループディスカッション）	事前：昔の人々の食生活に関する知恵や工夫について調べる。（90分） 事後：昔に人の知恵や工夫が現代にどのように繋がり、活かされているのかを情報収集する。（90分）
13	食事及び食物の文化的事項 （食事環境・食器具の食文化等）	事前：昔から現代までの食事環境や食器具等の変遷についてテキストを通読する。（90分） 事後：食事環境や食器具等の変遷の背景を把握する。（90分）
14	地場産物の活用と郷土料理 （グループワーク・発表）	事前：自分の住んでいる地域の主な産物や郷土料理を調べる。（90分） 事後：グループで交流し、深めた内容についてレポートにまとめる。（90分）
15	学校給食を生きた教材として活用する教育的効果等（グループワーク・発表）	事前：学校給食の教材化の具体例を考え整理する。（90分） 事後：学校給食を生きた教材とした活用することの効果（よさ）についてレポートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・「ノート」については、紙ベース若しくはＰＣ等を使用して作成すること。
・「ノート」については、定期的に提出を求めるので、常に整理しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、ノートの完成度	授業への取組み（ディスカッション等）	
70%	20%	10%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食に関する指導jの手引－第二次改訂版ー	文部科学省	健学社

参考書又は参考資料等

小学生用食育教材　楽しい食事つながる食育（文部科学省）
中学生用食育教材　「食」の探求と社会への広がり（文部科学省）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・レポートやノートについても成績評価に関わるので、真剣に取り組むこと。
・グループワークやグループディスカッション等、作業に取り組む姿勢や協力態度等も評価の対象となる。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	児童・生徒の栄養指導Ⅱ		
担当者名	安倍　ちか	実務家教員	○
科目コード	1800002	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-3-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	「児童・生徒の栄養指導Ⅰ」の学習を基礎とし、児童・生徒の食の課題解決のため、食に関する学習の指導案を作成し、グループ別に模擬授業を実施する。この講義では、栄養教諭としての職務経験を有する教員が学校における食育の進め方や給食時間をはじめとして食と関連のある教科等での授業の在り方など経験に基づいたアドバイスを行い、実践性の高い授業を展開させる。具体的には、家庭科（技術・家庭科）、体育科（保健体育科）、特別活動等における授業の指導案作成から模擬授業の実践を通してより良い指導ができるよう工夫や改善点について検討し、指導の方法を習得する。また、食に関する課題（食物アレルギー等）を有する児童・生徒に対する個別相談指導の演習についても行う。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1）食に関する指導の目標を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた指導内容を考え、教材や媒体を作成することができるようになる。 2）教科等における食に関する授業の指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。 3）食に関して課題のある児童生徒（食物アレルギー、肥満等）に対する個別相談指導の進め方を修得する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション（講義の目的、内容の説明）/学校における食育の推進体制とＰＤＣＡについて（グループワーク）	事前：学校における食育の推進体制についてテキストを通読する。（90分） 事後：学校における組織としての食育の推進体制について情報収集し、レポートにまとめる。（90分）
2	食に関する指導に係る全体計画の作成とその必要性 （グループディスカッション・発表）	事前：食に関する全体計画についてテキストを通読する。（90分） 事後：食に関する全体計画の作成の仕方と内容について確認する。（90分）
3	食育の推進状況に関する評価指標の設定及び食に関する指導目標の設定について	事前：食育の評価指標及び食に関する指導目標についてテキストを通読する。（90分） 事後：食育の評価について、小学校、中学校別に情報収集する。（90分）
4	学習指導要領における各教科、領域等の目標と食に関する事項の内容①（総則、体育科、保健体育）	事前：食と関連のある教科等の学習指導要領を通読する。（90分） 事後：食と関連のある教科等の学習指導要領のポイントを整理する。（90分）
5	学習指導要領における各教科、領域等の目標と食に関する事項の内容②（家庭科・技術・家庭科）	事前：食と関連のある教科等の学習指導要領を通読する。（90分） 事後：食と関連のある教科等の学習指導要領のポイントをキーワードノートに整理する。（90分）

6	学習指導要領における各教科、領域等の目標と食に関する事項の内容③（学級活動、給食の時間）	事前：食と関連のある教科等の学習指導要領を通読する。（90分） 事後：学級活動や給食時間における指導例について情報収集し、整理する。（90分）
7	児童及び生徒、保護者に対する個別的相談指導の在り方（食物アレルギー等） 学校・家庭・地域の連携した食に関する指導の在り方	事前：個別的相談指導の在り方について情報収集する。（90分） 事後：個別的相談指導における家庭や地域と連携を図るにはどうしたらよいか、考え、整理する。（90分）
8	学習指導案の基本と作成の手順 （グループワーク）	事前：学習指導案について情報収集する。（90分） 事後：各教科等の特質の理解を深めるため、各教科等の学習指導案の作成例について情報収集し、整理する。（90分）
9	発達段階に応じた各教科等における食に関する指導の内容や指導方法の検討 （グループディスカッション・発表）	事前：各教科等における食に関する指導内容について、発達段階を考慮して情報収集する。（90分） 事後：各学年における教科等の食に関する指導のポイントをレポートに整理する。（90分）
10	各教科等における食に関する学習指導案の作成	事前：食に関する教科等の授業の学習指導案の構想を練る。（90分） 事後：作成した学習指導案の付加修正を行う。（90分）
11	模擬授業のための教材、教具の作成	事前：教材、教具の作成計画をし、必要な材料等の準備をする。（90分） 事後：発達段階に応じた教材、教具になっているか見直し、改善する。（90分）
12	模擬授業①給食時間における食に関する指導と評価	事前：模擬授業（給食時間の指導）に向けての準備 事後：模擬授業を終えての反省
13	模擬授業②学級活動における食に関する指導と評価	事前：模擬授業（学級活動）に向けての準備 事後：模擬授業を終えての反省
14	模擬授業③教科における食に関する指導と評価	事前：模擬授業（教科）に向けての準備 事後：模擬授業を終えての反省
15	個別的相談指導の演習とその評価　/　まとめ （ロールプレイ）	事前：個別的相談指導を行う際のカウンセリング技法について情報収集する。（90分） 事後：個別的相談指導の評価をし、今後に生かすことができるようレポートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・レポートやノートについては、紙ベース若しくはＰＣ等を使用して作成すること。
・レポートやノートについては、定期的に提出を求めるので、常に整理しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	模擬授業	レポート	授業への取組み・自主学習姿勢
60%	20%	10%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
食に関する指導の手引　―第二次改訂版―	文部科学省	健学社

参考書又は参考資料等
○「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月公示）文部科学省 ○小学生用食育教材「楽しい給食つながる食育」（文部科学省） ○中学生用食育教材「食」の探求と社会への広がり（文部科学省）
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・キーワードノートやレポートについても成績評価に関わるので、真剣に取り組むこと。
担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	教育原理		
担当者名	樋口　綾子	実務家教員	○
科目コード	1800004	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は教育の意義や目的，人間の成長において教育が果たす役割について考え，受講者が自分なりの教育観，児童生徒観をもつことをねらいとしている。現在，教育における課題は多い。教育の歴史と理念を学びながらこれらの諸課題について積極的に考え，栄養教諭として何ができるかを考えさせたい。 小・中学校での教諭・管理職経験を有する教員が現場の実態を伝え、グル―プによる調べ学習やロ―ルプレイ、ブレ―ンスト―ミングなどを取りれながら授業を進める。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 教育の意義と目的を理解し，教育によって子どもが成長する様子を理解する。 2. 教育の歴史を知り，そこから生まれた多様な教育理念や学校教育の変遷を理解する。 3. 現代日本の教育の状況を理解し、問題意識を持って解決の方途を考える。 4. 栄養教諭の誕生とその背景を知り，公教育における栄養教諭の使命について論議する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義の概要　教育の意義と目的・役割	事後：これまで自分が出会った教育を振り返り、整理する（90分）
2	子どもの成長	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：自分の成長の様子を年齢と共にまとめる（90分）
3	日本の教育の歴史①　戦前の教育	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
4	日本の教育の歴史②　戦後の教育	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
5	世界の教育の歴史①　産業革命以前の教育	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
6	世界の教育の歴史②　産業革命以後の教育	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
7	教育哲学について①　グル―プでの調べ学習	事前：複数の教育哲学者について資料を集め、通読する（90分） 事後：自分が選んだ教育哲学者について詳しく調べる（135分）
8	教育哲学について②　グル―プによる発表	事前：発表のためのプレゼンテーションを作成する（135分） 事後：他のグループの発表内容を整理し、ノートにまとめる（90分）

9	教育観・学力観の変遷	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
10	日本の教育課題① 学力・教育における経済格差	事前：自分のこれまでの成長を振り返り、教育との関連をまとまる（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
11	日本の教育課題② いじめ・不登校（ケーススタディー）	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：いじめ・不登校について、自分なりの解決の方途を考える（90分）
12	日本の教育課題③ ネット依存・虐待（ケーススタディー）	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：ネット依存・虐待について、自分なりの解決の方途を考える（90分）
13	日本の教育課題④ 発達障害・ジェンダー	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：発達障害・ジェンダーについて、自分なりの考えをまとめる（90分）
14	生涯学習と地域の教育力	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：自分が住み地域の生涯学習の環境について調べる（90分）
15	学校教育における栄養教諭の使命	事前：自分が目指す栄養教諭像についてレポートにまとめる（90分） 事後：15回の授業を振り返り、全体を復習する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業内で各自の意見発表の機会を多く設けるので、テーマについて資料を理解ししっかりと検討しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポートや作成物	授業中の態度や発表	
50%	25%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
※　テキストは資料せず、必要に応じて資料を配布する		

参考書又は参考資料等

1．汐見稔幸編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房。　　2．その他ついては、適時指示・配布する

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・個人やグループでのレポート作成、発表などに積極的に取り組んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	教職概論		
担当者名	樋口　綾子	実務家教員	○
科目コード	1800003	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-1-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、教師の仕事を理解し、学校組織の一員としての栄養教諭への期待や役割を知って、栄養教諭を目指そうとする意欲を一層高めることを目標としている。そこで、教育職の現状について理解を深め、求められる資質能力を知り、学校における現代的課題について考察する。また、栄養教諭ならではの喜びや可能性を伝えていきたい。 小・中学校での経験を有する教員が学校現場の実態を伝え、具体的に栄養教諭としての指導場面を想定したケーススタディーやグループワークを取り入れながら授業を進める。
授業の到達目標〔学習成果〕	1．我が国における学校教育や教員の仕事、職業的特徴を理解する。 2．教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3．栄養教諭という教育職への期待と役割を理解し、場面に応じた指導力を身に付ける。 4．学校教育における新たな課題について、その原因と解決の方法を考える。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義の概要　教師の仕事について	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（45分）
2	教師に求められる資質	事前：教師に求められる資質について自分の考えをレポートにする（90分） 事後：授業内容を振り返り、自分なりの考えを整理する（90分）
3	学校の組織と教師の役割	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、自分なりの考えを整理する（90分）
4	教師の仕事① 学習指導と生徒指導	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、自分なりの考えを整理する（90分）
5	教師の仕事② 特別支援教育と人権教育	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、自分なりの考えを整理する（90分）
6	栄養教諭の1日	事前：自分の経験から、栄養教諭の仕事を拾い出し、その意義を考える（90分） 事後：授業内容を振り返り、栄養教諭の職務について整理する（90分）
7	給食の歴史と栄養教諭の誕生	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）

8	給食の効果と課題 （グループワーク）	事前：給食の効果と課題について自分なりに考えをまとめ、ノートに整理する（90分） 事後：グループワークで明らかになった内容について、時間の経過を踏まえてまとめる（90分）
9	栄養教諭の仕事① 給食週間（ケーススタディー）	事前：ケーススタディーに必要な原稿を作成する（135分） 事後：他の学生の発表の長所をまとめる（90分）
10	栄養教諭の仕事② 行事食放送（ケーススタディー）	事前：ケーススタディーに必要な原稿を作成する（135分） 事後：他の学生の発表の長所をまとめる（90分）
11	栄養教諭の仕事③ 給食指導（ケーススタディー）	事前：ケーススタディーに必要な原稿を作成する（135分） 事後：他の学生の発表の長所をまとめる（90分）
12	世界の食文化と給食の変遷	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
13	学校教育における新たな課題① 学校間連携	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
14	学校教育における新たな課題② 安全・アレルギー・外国籍児童	事前：学校の安全安心・アレルギーに関する新聞等の記事を探し、レポートする（90分） 事後：授業内容を振り返り、自分なりの考えを整理する（90分）
15	学校教育の新たな課題③ 校則と体罰・教師の多忙	事前：校則・体罰・教師の長時間労働に関する新聞等の記事を探しレポートする（90分） 事後：１５回の授業を振り返り、全体を復習する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業内で各自の意見発表の機会を多くも置けるので、テーマについて資料を理解ししっかりと検討しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポートや作成物	授業中の態度や発表	
50%	25%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

１．西川信廣編『学生のための教育学』ナカニシヤ出版　　２．その他については，適宜指示す

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・個人やグループでのレポート作成、発表などに積極的に取り組んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	教育制度論		
担当者名	樋口　綾子	実務家教員	○
科目コード	1800006	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業の目的は，学校教育を支える教育制度や教育法令を概観し、我が国の教育の現状を理解することである。グルーバル化や少子化が進む社会において教育に求められるものも変化しており、それに伴う教育制度の変遷について考えさせたい。 小・中学校での経験を有する教員が学校現場の実態を伝え、教育と法令との関係を具体的事例で教えながら、栄養教諭に必要な知識とスキルを身に付けさせる。
授業の到達目標〔学習成果〕	1．教育基本法・学校教育法をはじめとする教育法令の全体像を理解する。 2．教員養成制度や栄養教諭に関する制度を知り、現場に出た時に生かすことができる。 3．子どもの権利や安全・福祉に関する現状を知り、法令等を学ぶ。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義の概要	事前：これまで「現代社会」の授業で学んだ法令について振り返る(90分)
2	日本の教育制度	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
3	日本の法制度と日本国憲法	事前：日本国憲法の条文から学校教育に関するものを抜き出す（90分）
4	教育に関わる法令① 教育基本法と学校教育法	事後：義務教育と教育基本法・学校教育法の関係を整理する（90分）
5	教育に関わる法令② 教育改革と学習指導要領（グループ討論）	事前：学習指導要領を読み、分からない部分を抜き出す（90分）
6	子ども・児童に関わる法令① 子どもの権利条約（調べ学習）	事後：子どもの権利条約を読んで、担当する条文をレポートにまとめる（90分）
7	子ども・児童に関わる法令② 児童福祉と児童虐待	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分）
8	子ども・児童に関わる法令③ いじめ防止対策推進法	事後：近年のいじめ事案を新聞等から探し、自分の考えを加えてレポートにまとめる（90分）
9	子ども・児童に関わる法令④ 障害者差別撤廃法と合理的配慮	事前：担当する条文について原稿をまとめる（90分）
10	食生活・食育に関わる法令① 学校給食法・食育基本法	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
11	食生活・食育に関わる法令② 栄養教諭の誕生と使命	事前：栄養教諭の使命について、自分なりの考えをレポートにまとめる（90分）
12	教師に関わる法令① 地方公務員法・教育公務員特例法	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
13	教師に関わる法令② 教育職員免許法と開放制の教員養成	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分）
14	教師に関わる法令③ 日本の教員採用制度	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）

15	教育におけるジェンダー	事前：学校におけるジェンダーに関わる課題を自分なりに探し、その背景と改善について考えをまとめる（45分） 事後：１５回の授業を振り返り、全体を復習する（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業内で各自の意見発表の機会を多くも置けるので、テーマについて資料を理解ししっかりと検討しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポートと作成物	授業中の態度や発表	
50%	25%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

１．高妻紳二郎編「新・教育制度論」ミネルヴァ出版　　２．その他については，適宜指示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・個人やグループでのレポート作成、発表などに積極的に取り組んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	教育心理学		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1800005	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-1-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	教育心理学は、教育に関する心理学的事実や法則を明らかにし、教育の営みを効果的に促進するために役立つ知識や技術を提供するものである。教育現場では幼児、児童及び生徒の学習過程や集団心理、心身の発達の過程及び特徴等について深く理解することが求められる。本講義では、このような教育現場でのさまざまな要請に応えるために活用できる心理学の知識を身につけることを目標とする。その際、ディスカションを取り入れながら、理解を深めていく。
授業の到達目標〔学習成果〕	1)幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 2)学級集団に関する心理学的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 3)学習指導法に関する基礎的知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 4)教育評価に関する基本的な知識を理解し、客観的に説明できるようになる。 5)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程および特徴を理解し客観的に説明できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教育心理学とは何か	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
2	記憶力がいいとはどういうことか	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
3	学ぶことと考えること	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
4	ほめることの大切さについて	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
5	モデルを見て学ぶ	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
6	「やる気」を考える	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
7	学級という社会	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
8	仮説実験授業とは何か	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
9	グループ学習と個別学習	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
10	絶対評価と相対評価	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
11	知能テストと性格テスト	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（60分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）

12	人間の発達ついて考える	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（60分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
13	知的発達のメカニズム	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（60分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
14	人格発達の基礎	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（60分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
15	発達障害とは？	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（60分） 事後：定期試験に向けて、総復習に励むこと（240分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・事前に教科書を熟読し疑問点を明確にし講義に臨むこと。
・事後は小テストに向けて復習に励むこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	リアクションペーパー	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
やさしい教育心理学〔第５版〕	鎌原雅彦、竹綱誠一郎	有斐閣

参考書又は参考資料等

『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（平成29年7月）
『誠信　心理学辞典　新版』下山晴彦ほか（誠信書房）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・講義中に配布・回収するリアクションペーパーには意見・感想・質問・要望等を記入すること。
・次回の授業時にリアクションペーパーに対してレスポンスを返します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	後日、オフィスアワーの日時を掲示します

授業科目名	特別支援教育概論		
担当者名	山田　幸代	実務家教員	○
科目コード	1800017	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	「発達障害」と診断された幼児・児童生徒のみならず、その疑いのある幼児・児童生徒は一般の保育現場および通常学級にもかなりの割合で在籍している。さらに「特別の支援」という概念を拡げるならば、すべての幼児・児童生徒がそれぞれ「特別な支援を必要とする子どもたち」であると考えられる。本講は、臨床心理士として、保育現場、特別支援学校等において幼児や児童生徒の全人的発達の基礎に食育が必須である事を観察し、保育士や教職員と共に食育支援プログラムを作成してきた教員が、発達心理学、対人心理学、知能心理学および食育の視点から、幼児・児童生徒の自己実現を支援する方法を講義および演習で学ぶことを目的とする。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 特別支援教育に関する制度や理念を理解している。 2. 特別支援教育を要する幼児・児童生徒の発達・心理・行動特性（例えば味覚異常、極度の偏食など）を理解し、その検査法などを理解している。 3. 特別支援教育に関する種々の視点から、その方法を理解し、例示することができる。 4. 「生活単元学習」「自立活動学習」「食事に関する動作・マナーの獲得」などの教科課程上の位置づけと内容を理解している。 5. 特別支援教育の対象となる幼児・児童生徒について他機関などとの連携を理解している。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	「特別の支援を要する子どもたち」とは？ 事例提示による導入。	事前：1の資料を通読しておくこと（60分） 事後：提示された事例について各自考察を深めること（60分）
2	生物学的存在の「ヒト」から社会的存在の「人間」へ。 3つのきょういく「胸育」「共育」「教育」と「食育」	事前：1年の「教育心理学」、「教育原理」のノートを通読しておくこと（60分） 事後：提示された3つのきょういくと提示されて事例について考察を深めること（60分）
3	心身の発達と3つのきょういく 阻害要因と支援のあり方（1）検査法概説	事前：遠城寺式分析的乳幼児発達検査を通読しておくこと（60分） 事後：発達の大きな変化点について上記検査との関連を考察すること（60分）
4	心身の発達と3つのきょういく 阻害要因と支援のあり方（2）検査法との関連	事前：テキスト『生きづらいと思ったら親子で発達障害でした』を通読しておくこと（60分） 事後：テキストと検査法および発達と虐待の関連について考察を深めること（60分）
5	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ （1）知的障害（講義）	事前：知的障害について各自検索しておくこと（60分） 事後：講義で示した新たな「知能」「知的障害」について考察を深めること（60分）
6	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ （2）肢体不自由（講義）	事前：肢体不自由について各自検索しておくこと（60分） 事後：講義内容について考察を深めること（60分）

7	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（3）視覚・聴覚障害（講義）	事前：視覚・聴覚障害について各自検索しておくこと（60分） 事後：講義内容について考察を深めること（60分）
8	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（4）発達障害ADHD（グループワーク、レポート作成）	事前：ADHDについて各自検索しておくこと（60分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（120分）
9	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（5）発達障害ASD（グループワーク、レポート作成）	事前：ASDについて各自検索しておくこと（60分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（120分）
10	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（6）発達障害DCD（グループワーク、レポート作成）	事前：DCD（発達性協調運動障害）について各自検索しておくこと（60分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（120分）
11	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（7）精神疾患、若年性うつ、統合失調症（講義）	事前：幼児・児童生徒、保護者の精神疾患について各自検索しておくこと（60分） 事後：講義内容について考察を深めること（60分）
12	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ（8）家庭の問題・虐待について（講義）	事前：虐待について各自検索しておくこと（60分） 事後：講義内容について考察を深めること（60分）
13	特別支援教育のプログラム作成 提示された事例について対応を考える（グループワーク）	事前：テキスト『生きづらいと思ったら親子で発達障害でした』を再読しておくこと（60分） 事後：グループで討議した内容の考察を深めること（60分）
14	特別支援教育のプログラム作成 提示された事例について対応を考える（全体討議）	事前：前回のグループ討議の内容を各自考察すること（60分） 事後：全体討議の内容の考察を深めること（60分）
15	受講者各自にとっての「特別支援教育とは何か」を考える（講義）	事前：講義、グループワークを通してノートを再読しておくこと（120分） 事後：各自ノートの再読と整理を行うこと（120分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・可能な範囲で次回の講義やグループワークの事前学習をしてください。また、やむを得ず欠席の場合（病欠など）はノートを整備してください。
・なおレポート提出は翌週までとします。レポート作成にあたっては必ずグループ全員で討議し、作成者は交替してください。また「食育」の観点にも言及してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	グループワーク・レポート作成		
70%	30%		

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
適宜資料を配布する		

参考書又は参考資料等

1. 北九州市立特別支援教育相談センター編「てをつなごう－お子様のすこやかな成長のために－」
2. 文部科学省編「特別支援教育の現状と課題」（H27.4）
3. モンズースー「生きづらいと思ったら親子で発達障害でした」（KADOKAWA）

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

講義および演習（グループワーク）に真摯に臨むこと。食事は生きることの基盤です。これを念頭に、とくに何らかの障害（やその疑い）をもつ児童生徒やその保護者、他の教員に対しての支援者であることを明確に認識し、学習してください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	講義後、講義室にしばらく待機します。

授業科目名	教育課程論		
担当者名	脇田　哲郎	実務家教員	○
科目コード	1800007	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。
授業の到達目標〔学習成果〕	1.学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2.教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3.教科・領域・学年をまたいだカリキュラムを把握し、学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教育課程の意義	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
2	教育課程の意義	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
3	カリキュラム・マネジメント	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
4	カリキュラム・マネジメント	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
5	特別な配慮を要する児童への理解	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
6	特別な配慮を要する児童への理解	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
7	キャリア教育	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
8	学修を振り返り学校における教育課程の意義についてまとめる。	最終課題に学習を振り返りまとめる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解することができたか。	教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解することができたか。	教科・領域・学年をまたいだカリキュラムを把握し、学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができたか。	
最終課題（70%）	ポートフォリオ（20%）	授業への参加状況（10%）	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

小学校学習指導要領解説　総則編	文部科学省	東洋館出版

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

授業の中で必要な資料を提示します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	オフィスアワー（授業後、研究室405号室で行います。）

授業科目名	道徳教育の理論と方法		
担当者名	脇田　哲郎	**実務家教員**	○
科目コード	1800008	**授業形態**	講義
学年	2年	**開講期**	2024年度前期
単位数	1	**履修**	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1.道徳教育及び道徳科の目標や内容について理解することができる。 2.道徳科の授業の教材研究や授業づくりについて理解することができる。 3.道徳科の模擬授業を行うことができる。		

授業計画		**準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間**
1	道徳教育及び道徳科の目標や内容について	ポートフォリオに授業を振り返る。
2	道徳性の育成について	ポートフォリオに授業を振り返る。
3	道徳授業学習指導案作成シートを活用した授業づくり	ポートフォリオに授業を振り返る。
4	道徳授業学習指導案作成シートに基づいた板書計画・発問計画	ポートフォリオに授業を振り返る。ポートフォリオに授業を振り返る。
5	道徳授業学習指導案作成シートに基づいた教材づくり	ポートフォリオに授業を振り返る。
6	道徳授業学習指導案作成シートに基づいた模擬授業	ポートフォリオに授業を振り返る。
7	道徳授業学習指導案作成シートに基づいた模擬授業	ポートフォリオに授業を振り返る。
8	本授業を振り返り道徳教育についてまとめる。	最終課題に本授業のまとめをする。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

道徳教育及び道徳科の目標や内容について理解することができたか。	道徳科の授業の教材研究や授業づくりについて理解することができたか。	道徳科の模擬授業を行うことができたか。	
最終課題（40%）	模擬授業（30%）	ポートフォリオ（20%）	授業への参加状況（10%）

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	オフィスアワー（授業後、研究室405教室で行う。）

授業科目名	総合的な学習と特別活動		
担当者名	岸川　央	実務家教員	
科目コード	1800009	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は，教育課程を構成する総合的な学習の時間と特別活動について理解を深めるとともに，栄養教諭との関わりについて学ぶことを目標としている。そのため，総合的な学習の時間と特別活動の意義や目標，学習内容や指導方法を歴史的経過と併せて概観するとともに，指導の在り方と事例，及び指導計画の作成等についての調査研究を行う。さらに，学級担任や学年教員等と連携した栄養教諭の役割を認識し，児童生徒理解を深める。 本授業の担当者が，公立中学校長・福岡市教育委員会主任指導主事，福岡教育大学附属中学校本官として実践してきた具体的な指導内容を取り入れながら，講義形式とケーススタディ（case study）を導入したグループワーク（group work）を中心に行い，グループディスカッションを重ね，自己の考えを他者にわかりやすく表現できるプレゼンテーション力を身につけさせることを目指す。さらに，このスキルアップをもって，卒業後の教育現場において，児童生徒のみでなく，教職員や保護者，地域の方々など，周りの人々との信頼関係づくりのための「人間関係形成力」の育成を図る。 また，本担当者が福岡教育大学附属中学校で文科省研究開発学校の指定を受け，先行研究の結果，学習指導要領に新規に導入された「総合的な学習の時間」成立までの経過や様々な実践内容についても具体的に教授することができる。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 総合的な学習の時間の意義と目標及び学習内容・評価について理解する。 2. 各教科と関連した総合的な学習の時間の指導計画を立て，単元における指導事例の作成ができるようになる。 3. 特別活動の意義と目標及び学習内容・評価について理解する。 4. 特別活動の特質と指導方法について理解し，学級担任と連携した指導計画を立て，指導事例の作成ができるようになる。 5. 総合的な学習の時間と特別活動の「主体的・対話的で深い学び」の指導方法について理解する。 6. 総合的な学習の時間と特別活動における栄養教諭の役割と児童生徒との「人間関係づくり」の重要性について理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション（講義の概要・評価等の説明） ■「あなたが目指す栄養教諭」とは（※レポートa提出）	事前：「あなたが目指す栄養教諭」について自己の考えを事前に考えておくこと。（本時にグループワークで内容を協議し発表します。）（45分） 事後：グループワーク後，レポートa（協議内容を付加しても可）を提出します。（45分）
2	総合的な学習の時間が導入された背景と意義	事前：「小・中学校学習指導要領・総合的な学習の時間編」を熟読しておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）

3	総合的な学習の時間の学習指導要領における位置づけと目標，育むべき資質・能力（三つの柱との関連）	事前：「小・中学校学習指導要領・総合的な学習の時間編」を熟読しておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
4	総合的な学習の時間における指導の実際（各教科との関連）	事前：各教科とどのような連携ができるかを調べ準備しておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
5	栄養教諭として指導可能な「総合的な学習の時間」の指導計画の作成（演習①）■グループワークで内容の協議	事前：栄養教諭として指導可能な題材について考え準備しておくこと。（45分） 事後：グループワークで協議した内容を付加修正し、まとめをする。（45分）
6	児童生徒への指導（ほめ方と叱り方）の在り方とより良い人間関係づくり　■グループワークで内容の協議 ※レポートｂ提出	事前：「第1章・児童生徒とのより良い人間関係づくり」について，テキストを熟読し，自分の指導の在り方について，事前にレポートｂをまとめておくこと（宿題）。（45分） 事後：グループワーク後、レポートｂ（協議内容を付加しても可）を提出します。（45分）
7	特別活動の歴史的変遷と意義	事前：「小・中学校学習指導要領・特別活動編」を熟読しておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
8	特別活動の学習指導要領における位置づけと目標，育むべき資質・能力（三つの柱との関連）	事前：「小・中学校学習指導要領・特別活動編」を熟読しておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
9	特別活動の指導の実際（学級活動・児童会活動・生徒会活動・学校行事・クラブ活動）	事前：小・中学校における特別活動の指導内容について調べておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
10	総合的な学習の時間と特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の指導方法	事前：「主体的・対話的で深い学び」の意味について調べておくこと。（45分） 事後：講義資料を読み返し，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
11	総合的な学習の時間と特別活動における学習評価と方法	事前：評価のあり方について調べ、他教科との違いについてまとめておくこと。（45分） 事後：評価と方法について，講義内容の振り返りとまとめをする。（45分）
12	栄養教諭として指導可能な「特別活動（学級活動）」の指導計画の作成（演習②）■グループワークで内容の協議	事前：栄養教諭として指導可能な題材について考え、指導計画作成を進めておくこと。（45分） 事後：栄養教諭として指導可能な学級活動の指導計画作成の準備をする。（45分）
13	栄養教諭として指導可能な指導計画の発表（演習③・その1）■グループ内での発表と相互評価	事前：栄養教諭として指導可能な指導計画の発表の準備をしておくこと。（45分） 事後：グループワークで協議した内容を付加修正し，発表とまとめをする。（45分）

14	栄養教諭として指導可能な指導計画の発表（演習③・その2）■グループ内での発表と相互評価 ※報告書ｃ提出	事前：付加修正した内容を報告できるように，わかりやすくまとめておくこと。（45分） 事後：指導計画をグループごとに発表後，内容を付加修正し，報告書ｃを提出します。（45分）
15	総合的な学習の時間と特別活動における栄養教諭の役割と人間関係づくりの重要性 ※最終レポートｄ提出	事前：授業づくりにおける栄養教諭の役割と人間関係づくりについてまとめておくこと。（45分） 事後：全講義内容を振り返り，最終レポートｄを作成し提出します。（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・日頃より，学校教育に関する情報については，メディア等を活用し収集しておくこと。
・「総合的な学習の時間」と「特別活動」に関する「小・中学校の学習指導要領」を読み込んでおくこと。
・テキスト「今、学校に必要な人間関係づくり」を購入し読み込んでおくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験（最終レポートｄ）	本時の「振り返りカード」	レポートa,b	報告書c
50%	20%	20%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
「今，学校に必要な人間関係づくり」（令和5年3月発刊）	岸川　央	ぎょうせい

参考書又は参考資料等

・適宜,参考図書を紹介します。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・定期的なレポートや報告書の作成・提出及び毎時間終了時に「本時の振り返りカード」（学習内容のまとめ・自己評価・質問）の提出があります。全ては成績評価に関するものなので真剣に取り組んでください。
・講義中の私語及び携帯電話の使用は厳禁です。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	・講義の前後10分間は，非常勤講師室にて質問等対応可 ・「本時の振り返りカード」にて質問することも可

授業科目名	教育方法論		
担当者名	脇田　哲郎	実務家教員	○
科目コード	1800010	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
授業の到達目標〔学習成果〕	1.教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2.これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3.学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4.学習評価の基礎的な考え方を理解している。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	オリエンテーション	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
2	「朝食の大切さ」についてどのように教育するか	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
3	よりよい授業にするための方法＜目標（ねらい）の立て方＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
4	よりよい授業にするための方法＜実態調査の仕方＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
5	よりよい授業にするための方法＜学習過程・形態＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
6	よりよい授業にするための方法＜教具・資料＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
7	よりよい授業にするための方法＜導入、発問と応答・板書＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
8	よりよい授業にするための方法＜ICTの活用・評価＞	ポートフォリオに学習の振り返りをする。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

教育方法の基礎的理論と実践を理解することができたか。	これからの社会を担う子供たちに求められる能力を育成するための授業改善の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現に向 を理解することができたか。	学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解することができたか。	学習評価の基礎的な考え方を理解することができたか。
食に関する授業の学習指導案（70%）	ポートフォリオ（20%）	授業への参加状況（10%）	

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー	文部科学省	文部科学省
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
授業において必要な資料を提供します。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他
	オフィスアワー（授業後、研究室405教室で行います。）

授業科目名	生徒指導の理論と方法		
担当者名	樋口　綾子	実務家教員	○
科目コード	1800011	授業形態	講義
学年	2年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-2-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は栄養教諭として生徒指導を行う上で必要な資質・能力を形成することを目標としている。そのために，生徒指導の意義や機能，学校教育における位置づけ，生徒指導に必要な児童生徒の実態の理解，学校における生徒指導体制などについて講義を行うとともに，生徒指導上の諸問題を具体的に取り上げて，多くのケーススタディーを行う。 小・中学校での経験を有する教員が学校現場の実態を伝え、エンカウンターやアンガーマネージメントなど様々な手法を実際に体験させながら授業を進める。
授業の到達目標〔学習成果〕	1．生徒指導の意義や重要性を理解し、具体的な指導方法について理解している。 2．日本の子どもの実態と課題を知り、背景にある社会的要因を探る。 3．生徒指導に関する法令を理解し，今日的な課題に対する対応の視点をもつことができる。 4．保護者・関係機関との連携の方法や、生徒指導上の栄養教諭の使命を理解する。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	講義の概要　教師の仕事と生徒指導の意義	事後：授業内容を振り返り確かな知識とする （45分）
2	予防的生徒指導① 構成的グループエンカウンター	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、構成的グループエンカウンターを体験した感想をまとめ、その効果を検証する（90分）
3	予防的生徒指導② アンガーマネージメント	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、アンガーマネージメントを体験した感想をまとめ、その効果を検証する（90分）
4	予防的生徒指導③ アサーショントレーニング	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、アサーショントレーニングを体験した感想をまとめ、その効果を検証する（90分）
5	予防的生徒指導④ ソーシャルスキルトレーニング	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り、ソーシャルスキルトレーニングを体験した感想をまとめ、その効果を検証する（90分）
6	対処的生徒指導① いじめ、学活道徳での指導	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
7	対処的生徒指導② いじめ、学活道徳での指導（ケーススタディー）	事前：指定したケースについて、自分なりの対応方法を考え文章にまとめる（90分） 事後：他の学生の発表から優れた点を整理する（90分）

8	対処的生徒指導③ 不登校	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
9	対処的生徒指導④ 不登校（ケーススタディー）	事前：指定したケースについて、自分なりの対応方法を考え文章にまとめる（90分） 事後：他の学生の発表から優れた点を整理する（90分）
10	対処的生徒指導⑤ 虐待	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（90分）
11	対処的生徒指導⑥ 虐待（ケーススタディー）	事前：指定したケースについて、自分なりの対応方法を考え文章にまとめる（90分） 事後：他の学生の発表から優れた点を整理する（90分）
12	対処的生徒指導⑦ 貧困	事前：指定したケースについて、自分なりの対応方法を考え文章にまとめる（90分） 事後：他の学生の発表から優れた点を整理する（90分）
13	対処的生徒指導⑧ 貧困（ケーススタディー）	事前：指定したケースについて、自分なりの対応方法を考え文章にまとめる（90分） 事後：他の学生の発表から優れた点を整理する（90分）
14	保護者への対応と関係機関との連携	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておく（90分） 事後：保護者対応の留意点をまとめ、自分が住む地域の関係機関について調べる（90分）
15	新しい生徒指導上の課題と栄養教諭の使命 アレルギー・LGBTQ・外国籍の子ども等	事前：生徒指導にはどのような新たな問題があるかを考え、栄養教諭としての対応内容を文章にまとめる（90分） 事後：15回の授業を振り返り、全体を復習する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・授業内で各自の意見発表の機会を多くも置けるので、テーマについて資料を理解ししっかりと検討しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポートや作成物	授業中の態度や発表	
50%	25%	25%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

・新聞記事やその他資料については、適時指示・配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・個人やグループでのレポート作成、発表などに積極的に取り組んでください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授業科目名	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ 含む)		
担当者名	松本　明夫	実務家教員	
科目コード	1800016	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-3-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生徒指導提要によれば「教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、 生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るもの」である。具体的には一対一の相談活動だけでなく、すべての教師が児童生徒に接するあらゆる機会をとらえて指導と援助を行う。これらの目的を実現するためには発達心理学や臨床心理学などを学ぶことも大切である。また、教育相談は、計画的、組織的に実施する必要がある。そこで本講義では、学校における教育相談の意義と理論、計画的、組織的な実践のあり方について概説する。その上で児童生徒が抱えるさまざまな心の問題について理解を深め、学校現場において教員としてどのような支援ができるのか、グループワークやディスカッションを取り入れながら、具体的に検討していく。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 教育相談の意義と理論を理解し、客観的に説明できるようになる。 2) カウンセリングの基本的な態度や技法について理解し、実践できるようになる。 3) 教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができるようになる。 4) 校内の教育相談体制について理解し、客観的に説明できるようになる。 5) 地域の専門機関との連携について理解し、客観的に説明できるようになる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教育相談とは	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
2	校内の教育相談体制について	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
3	教育相談の進め方	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
4	スクールカウンセラー・専門機関等との連携	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
5	児童・思春期の発達とアセスメント	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
6	カウンセリングの基本を学ぶ	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
7	児童虐待への理解と対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
8	特別支援教育を必要とする子どもたち	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
9	不登校の子どもの理解と対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
10	いじめの被害者と加害者への理解と対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
11	学校における危機介入と心のケア	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）

12	非行問題への理解と対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
13	保護者の理解と対応	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
14	教師のメンタルヘルス	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：小テストに向けて、復習に励むこと（90分）
15	学校で使えるワーク	事前：教科書を読んで、疑問点をまとめること（90分） 事後：定期試験に向けて、総復習に励むこと（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・準備学習として教科書を読み、理解できない点に下線を引くなどピックアップしておくこと。
・事後学習として小テストに向けて復習に励むこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト	リアクションペーパー	
50%	30%	20%	

使　用　テ　キ　ス　ト

書籍名	著者	出版社
生徒指導提要	文部科学省	教育図書
教育相談ワークブック[改訂３版]	桜井美加ほか	北樹出版

参考書又は参考資料等

適宜、プリントを配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・講義中に配布・回収するリアクションペーパーには講義に関する意見・感想・質問・要望等を記入すること。
・次回の講義時にリアクションペーパーに対してレスポンスを返します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	後日、オフィスアワーの日時を掲示する。

授業科目名	栄養教育実習		
担当者名	安倍　ちか	実務家教員	○
科目コード	1800015	授業形態	実習
学年	4年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-4-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養教諭の指導が行われている学校教育現場において、児童・生徒と直接触れ合いながら栄養教諭の職務についての専門的知見と実践技能を学ぶことをねらいとする。この科目では、栄養教諭としての職務経験を有する教員が学校現場での実践をもとにアドバイスすることで実習に向けた心構えや査定授業の準備等、学校教育のニーズに即した指導について理解を深める。 本教育実習の進め方は、 ①実習校への事前訪問 1ヶ月前までには実習校へ連絡をし、事前の訪問をする。 その際、食に関する指導の課題 について指導を受ける。 ②実習開始までの準備 研究授業や給食時間における食に関する指導に向けた学習指導案の検討や教材研究等 の準備を行う。 ③実習 担任教諭や栄養教諭の指導のもと、日常生活活動、学校保健行事、 食に関する教育活動、児童・生徒の栄養に係る課題に関する業務等の実践を行う。 ④実習報告会 実習で得た学びや気づきについて報告し、協議を行う。
授業の到達目標〔学習成果〕	1）発育発達過程にある児童生徒の特質及び学校生活の実態を把握し、理解することができる。 2）学校教育全般の組織、運営を理解し、食に関する指導の実践を通して栄養教諭の立場と活動内容を体験的に理解することができる。 3）児童生徒とコミュニケーションを図ることができる。 4）児童生徒の実態に基づいた学習指導案を作成して授業を行い、実践的な指導力を身に付けることができる。

授業計画〔学外実習の内容含む〕

○学校教育は、意図的・計画的・組織的に行われていることから教育実習校の教育方針、学校経営、校務分掌、服務について理解する。
○実習校における食に関する指導の全体計画の概要をつかむ。
○給食時間や学級活動における指導の参観、補助
○委員会活動、クラブ活動における参観、補助
○校内及び家庭地域との連携調整の参観、補助
○教科等における指導の参観、補助
指導教諭の授業観察から授業全体の流れや指導教諭の指導と児童生徒の反応を対比させるなど、自分の研究授業
の構想に活用する。
○研究授業の実施
児童・生徒の実態に応じた学習指導案の作成及び指導教材、媒体の作成が必要である。
学校給食を「生きた教材」として活用した指導の工夫が必要である。

○研究授業後の協議
　研究授業後に実習校から指導を受け、今後の授業づくりに活かす。

準備学習・事後学習等についての補足説明

・実習校での事前打ち合わせをもとに実習前の準備を十分に行うこと。
　特に、教育実習校における査定授業の題材に関連した学習指導要領の内容を把握するとともに、
　教材研究をすること。
・栄養教育実習日誌に日々の実習内容を記録し、実習先の先生方の指導を受け、振り返りと反省をすること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

実習評価表	栄養教育実習日誌		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	監修　芦川修貳	学建書院

参考書又は参考資料等

○「食に関する指導の手引−第二次改定版−)」文部科学省（健学社）
○「小学校学習指導要領」（平成 29 年 3 月告示）文部科学省
○「中学校学習指導要領」（平成 29 年 3 月告示）文部科学省
○ 小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」文部科学省
○ 中学生用食育教材「食」の探求と社会への広がり　文部科学省

その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

・教育実習に臨むに当たって、実習先の先生方と事前にコミュニケーションを図り、よりよい授業の実施に向けて熱心に取り組むこと。
・栄養教育実習日誌についても評価の対象となる。

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

授業科目名	栄養教育実習事前・事後指導		
担当者名	安倍　ちか	実務家教員	○
科目コード	1800014	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度後期、2025年度前期
単位数	1	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-3-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本科目は、栄養教育実習を充実させるための事前指導及び実習終了後の学びを深化させるための事後指導の構成となる。3年後期では、栄養教諭としての職務経験を有した教員が、栄養教育実習に向けて、教育実習の目的、意義、心構えなど、教育実習の全体的な流れを学校現場のニーズに即した形で理解できるようにする。また、教育現場である小学校、中学校で児童・生徒に教育的配慮をもって関わることができるよう服務や危機管理、人権への配慮等についても学習する。その際、グループディスカッション、発表を通して意見交流を図り、理解を深める。食に関する授業づくりについては、これまでの関連科目で学修した基本的な知識、技術を生かし、給食時間の指導を中心に指導案の作成や教材研究、媒体の作成などについて実践的に学ぶ。 4年前期では教育実習の全体的な流れを確認するとともに、栄養教育実習ノートの活用方法について習得させる。その際、授業観察の着眼点や記録の仕方を演習する。査定授業に向けては、主として、各教育実習校の課題について情報収集をし、教材研究に取り組む展開となる。一方事後指導では、各自の教育実習で得た学びをPowerPointにまとめ、報告会で発表し、ディスカッションすることで交流し、資質の向上を図る。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1）小・中学校の教育課程や栄養教諭の職務内容が簡単に説明できる。 2）学校給食を生きた教材として食に関する指導の授業づくりに生かすことができる。 3）給食時間における食に関する指導について指導案を作成し、実践することができる。 4）栄養教育実習開始までの準備が十分にでき、教育実習生としての自覚を高めることができる。 5）児童・生徒の発達段階に応じた指導内容を検討し、各教科、領域の学習指導要領の内容を理解した上で、食に関する授業の学習指導案の作成や実践ができる。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	教育実習に向けてのオリエンテーション （教育実習の目的・意義・心構え・実習の流れ） （グループディスカッション）	事前：教育実習関連の本を読んでおく。（90分） 事後：教育実習に向けての心構えを振り返る。（90分）
2	小学校・中学校の服務、危機管理、人権への配慮 （グループディスカッション）	事前：授業内容に関連した情報を収集する。（90分） 事後：授業の振り返りを各自行う。
3	給食時間における食に関する放送資料の作成、 発表、評価	事前：給食時間における放送による指導内容を検討する。（90分） 事後：各自作成し、発表した放送資料について振り返り、改善策を考える。（90分）
4	給食時間における指導案の作成 （発達段階に応じた指導内容の工夫）	事前：給食時間における食に関する指導の教材研究をする。(90分) 事後：作成した指導案の見直しをする。（90分）

5	給食時間における指導教材・媒体の作成 （発達段階に応じた指導教材・媒体の工夫）	事前：指導案に沿った指導を効果的に実践するための教材教具・媒体の研究をする。（90分） 事後：作成した教材・媒体の活用の仕方を考える。（90分）
6	給食時間における食に関する指導の模擬授業	事前：模擬授業の準備（90分） 事後：模擬授業の反省（90分）
7	給食時間における食に関する指導の評価 /まとめ （グループディスカッション・発表）	事前：模擬授業の反省をもとに意見交流の準備をする。（90分） 事後：4年の実習に向けて本授業の振り返り、レポートにまとめる。（90分）
8	栄養教育実習の内容・実習校との確認事項について （栄養教育実習の意義・目的、内容の再確認、実習に向けての心構え）	事前：3年後期で学修した内容について再度確認する。（90分） 事後：実習校との打ち合わせ内容について再度確認する。（90分）
9	栄養教育実習中の授業参観における観察の着眼点及び実習日誌の記入について	事前：栄養教育実習の1週間のカリキュラムをもとに、事前の準備が必要な事項を確認して授業に臨む。（90分） 事後：授業の振り返りを各自行う。（90分）
10	各実習校の課題に応じた食に関する教科等の学習指導案の作成（査定授業の内容について）	事前：各実習校の課題に応じた教材研究をする。（90分） 事後：授業の構想を十分に練り、学習指導案を完成させる。（90分）
11	査定授業に向けた教材教具・指導媒体の作成	事前：児童生徒の発達段階に応じた教材教具・指導媒体の研究をする。（90分） 事後：授業を進めるに当たって効果的な教材教具・指導媒体を作成する。（90分）
12	査定授業に向けた模擬授業の実施	事前：模擬授業の準備をする。（90分） 事後：教育実習に向けて模擬授業の反省をする。（90分）
13	栄養教育実習の報告及び協議① （プレゼンテーションによる発表・協議）	事前：栄養教育実習報告のプレゼンの準備をする。（90分） 事後：報告の内容及び発表の仕方などについて反省する。（90分）
14	栄養教育実習の報告及び協議② （プレゼンテーションによる発表・協議）	事前：栄養教育実習報告のプレゼンの準備をする。（90分） 事後：報告の内容及び発表の仕方などについて反省する。（90分）
15	栄養教育実習の反省 （グループディスカッション・発表）	事前：栄養教育実習を終えて意見交流する内容を整理する。（90分） 事後：グループディスカッションによる気づきや今後に向けての改善点をレポートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・学習指導案の作成や教材・媒体の作成等、模擬授業で実践できるよう事前に準備をしておくこと。
・児童生徒の発達段階に応じた指導内容、教材・媒体を工夫すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

グループディスカッション	模擬授業	自主学習態度	授業への取組み
30%	30%	20%	20%

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	監修　芦川修貳	学建書院

参考書又は参考資料等
○「食に関する指導の手引　－第二次改訂版―」 文部科学省 ○小学生用食育教材「楽しい食事・つながる食育」 文部科学省 ○中学生用食育教材「食」の探求と社会への広がり 文部科学省 ○「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」 文部科学省 ○「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」 文部科学省

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・4年生で行う栄養教育実習に向けて十分実習への準備をし、教育実習生としての自覚を高めること。

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当者名	樋口　綾子、松本　明夫、安倍　ちか、脇田　哲郎	実務家教員	○
科目コード	1800013	授業形態	演習
学年	4年	開講期	2024年度後期
単位数	2	履修	栄養教諭必修
ナンバリング	K-4-B		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、教員として必要な資質能力について確実に体得させ、その資質能力の全体を明示的に確認することを目標とする。そのため、食に関する教員と教職に関する教員が連携し、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童生徒理解や学級経営能力、 ④教科・食に関する指導力などについて履修カルテを基に確認する。 授業はチームティーチングで行い、受講者の発表やディスカッション、グループワーク等を中心に進め、栄養教諭ならではの喜びや可能性を伝えていきたい。 ４名の教師は公立学校等での実務経験を有しており、学校現場の実態を伝え、栄養教諭としての指導場面を具体的に想定したアクティブラーニングを取り入れながら授業を進める。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 子どもの可能性を信じ教員の職責を自覚し使命感をもって教育に当たる姿勢を身に付ける。 2. 食育目的を理解し、状況に応じて対応力を身に付け、チーム学校の一員としての自覚をもつ。 3. 子どもの発達や食に関する課題を理解し、適切な個人指導・集団指導ができるようになる。 4. 子どもとの信頼関係を築き担任教師等と協力して食育指導を行う資質能力を身に付ける。 5. 授業を行うための基本的な技術について、必要な資質能力を身に付ける。

授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間
1	これまでの栄養教諭に関する学修についてグループでの振り返りと発表 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：各自、これまでの栄養教諭の学修についてレポートにまとめる（45分） 事後：他の学生の発表から、自分の学びの成果をまとめる（45分）
2	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる（45分）
3	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる（45分）
4	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる（45分）

5	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
6	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
7	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
8	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
9	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
10	食に関する模擬授業・役割演技及び協議（グループ討議・発表） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：模擬授業に向けて、指導案や媒体・資料を準備する（45分） 事後：他の学生の模擬授業に対して、自分なりの意見をまとめる　（45分）
11	食に関する問題（アレルギー、肥満、過度の痩身、欠食、偏食等）の全体指導の在り方について（グループ討論・発表）　【安倍】	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておくこと（45分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（45分）
12	食に関する問題（アレルギー、肥満、痩身、欠食、個食・孤食など）の個別指導の在り方（講義、ロールプレイ、グループ討論・発表）【松本】	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておくこと（45分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（45分）
13	学習指導要領に示された特別活動の指導と食育の関連 教師としての生き方と道徳、食育との関連 （グループ討論・発表） 【脇田】	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておくこと（45分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（45分）
14	小学校・中学校における食育指導の意義と実際（ケーススタディー） 【樋口】	事前：指定した資料を読みこみ、内容を理解しておくこと（45分） 事後：授業内容を振り返り確かな知識とする（45分）
15	栄養教諭として教育に関わり子どもを育てる決意（小論文） 【樋口・松本・安倍・脇田】	事前：栄養教諭になるための心構えなど、小論文の骨子を準備する（45分） 事後：１５回の授業を振り返り、全体を復習する（45分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・これまでの学修を履修カルテで把握し、不十分な点を事前学習して下さい。また、第２回からの模擬授業に向けて、教育実習で作成した学習指導案の改善、査定授業の振り返り、その反省を活かして模擬授業の準備を行ってください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
グループ討議	模擬授業	レポート	履修カルテ
30%	30%	30%	10%

使　用　テ　キ　ス　ト		
書籍名	著者	出版社
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	監修　芦川修貳	学建書院

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕
・個人やグループでのレポート作成、発表、討論などに積極的に取り組んでください。 ・栄養教育実習で行った査定授業の学習指導案や授業記録　等

担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他